

i C o T o B a 年 報

愛知県立大学 iCoToBa (多言語学習センター) 年報



第 3 号

2016 (平成 28) 年 3 月

愛知県立大学

i C o T o B a 年 報

愛知県立大学 iCoToBa（多言語学習センター）年報



第 3 号

2016（平成 28）年 3 月

愛知県立大学

目次

はじめに	1
1. iCoToBa 概要	3
2. iCoToBa ガイダンス	7
2.1. iCoToBa Welcome Week	7
2.2. iCoToBa 新入生ガイダンス	8
3. iCoToBa の授業	15
3.1. 2015 年度前期開講授業	15
3.2. 2015 年度後期開講授業	43
3.3. 2015 年度サマープログラム	73
3.4. 2015 年度スプリングプログラム	78
4. iCoToBa のイベント	81
4.1. 2015 年度 iCoToBa 開催イベント	81
4.2. 留学報告会	88
4.3. グローバル関連イベント	89
5. 教育活動	95
6. e-Learning プログラムの概要	101
3 年目の e-Learning と今後の展望	101
7. アドバイジング	105
7.1. 語学学習アドバイジング	105
7.2. 留学アドバイジング	107
8. 学生活動	109
9. 教材開発・教育実践	111
9.1. 教材開発	111
9.2. 教育実践に関する報告	114
10. 広報活動	119
10.1. web による広報活動	119
10.2. manaba コミュニティ: みんな集まれ iCoToBa 広場	120
11. 資料	123
11.1. iCoToBa 学部・学科別利用者一覧	123
11.2. iCoToBa 開講授業	124
11.3. iCoToBa 授業アンケート集計結果	131
11.4. iCoToBa 施設見学者	136
11.5. 高等学校生徒の iCoToBa 施設見学	137
11.6. 2015 年度 iCoToBa イベントポスター	139
むすびにかえて	143

はじめに

高橋 慶治(iCoToBa 委員長・国際関係学科)

iCoToBa(多言語学習センター)は、2012年度に採択された文部科学省「グローバル人材育成推進事業」の中核事業として2013年度4月に開設され、今年度末で3年が経過する。この間、中心的な活動としての語学の授業の他に、さまざまな活動を行ってきた。

まず、語学の授業と言っても、教員が学生に説明をして「はい、話してみよう」というような単純なものではなく、学生が積極的に学習する言語を使える工夫がなされている。母語である日本語でもなかなか難しいことであるが、対象言語を使って調べ、発表するのは学生にとってはかなりハードな作業であると思う。

iCoToBa そのものの活動ではないが、学生は iCoToBa にたむろし、会話を楽しんだり、昼食を取ったりしている。そこに iCoToBa 教員が加わることによって、日常的に外国語で会話することに慣れていくだろう。それを促進するために、外国語のみで会話するように日本語を使わない時間を決めたりもした。

また、学生のサークルのように、iCoToBa やその教員を中心としたイベントが多数企画、運営されている。

このような活動の中で、iCoToBa に来室する学生は、目標の1日平均60人を超えるようになった。これは本学において着実に定着してきたことを示すものであろう。このような iCoToBa の活動やそこで提供されている授業、e-Learning を通してここの学生がみずから専門とする言語の上達を図るとともに、さまざまな言語や文化に積極的に触れてほしい。

グローバル人材育成事業は来年度末で期間を終了する。私達は、学生の学習意欲をさらに高めるためにも、この事業を本学の教育課程の中で位置づけて行かなければならないと考えている。この報告書が将来への一助となることを祈る。

1 iCoToBa 概要

高橋 慶治(国際関係学科)

iCoToBa(多言語学習センター)は、2013 年 4 月に本学の外国語学習支援と異文化理解および異文化交流推進を目的に開設された。iCoToBa には、英語 2 名、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語各 1 名の外国人教員がバラエティ豊かな語学授業を提供している。また、留学アドバイザー教員と語学学習アドバイザー教員による個別指導も行っており、学生の外国語能力養成と留学計画を含めた計画的な学修ができるようサポートしている。

ここでは、iCoToBa が果たしている役割を概観した上で、開講科目と施設、運営体制について述べる。

iCoToBa の役割

1) 語学授業の提供

英語 45 時間(90 分×30 コマ)、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語は、各 15 時間(90 分×10 コマ)の語学授業を開講している。語学授業は、専攻外国語と第 2 外国語の授業や外国語学部学生の必修科目の時間帯を調査し、できるだけ学生が履修しやすい時間帯に設定するように工夫している。(第 2 章、第 3 章、第 5 章参照)

2) 語学学習アドバイジングと自律学習支援

iCoToBa では、専任の語学学習アドバイザーが、TOEFL や IELTS など、英語圏の大学への留学に必要な試験準備の指導に加え、留学準備に関する個別相談にのっている。また、e-Learning を用いた語学学習に学生が自主的に取り組めるよう、e-Learning ガイダンスを立案・実施している。英語以外の e-Learning については、各学科・専攻の iCoToBa 委員が中心となり、使用方法や勉強方法について説明会を開催している。(第 6 章、第 7 章参照)

3) 留学アドバイザーによる個別指導および留学体験報告会の実施

留学アドバイザーが、国際交流室との協働のもと、個別に留学準備のための相談に応じている。加えて、留学体験をした学生の体験談を聞くイベントなど、学生への留学への動機づけを目指したイベントを計画・実施している。(第 4 章、第 7 章参照)

4) 異文化理解、異文化交流を促進させるイベントの開催

外国の文化を紹介・体験するイベントや、本学留学生や近隣機関との交流イベントなどを開催している。これは、本学の学生にとって、異文化を理解し実際に外国語でコミュニケーションする機会にもなっている。また、これらの多くのイベントは、教員が企画運営をするのではなく、企画段階から学生も参加することで、学生の自主性や行動力、マネジメント能力育成も目指し

ている。(第4章参照)

5) 学生活動のサポート

4の活動を契機に、学生自身が「ともに創りだす楽しさ」を発見することも多い。これを成長の機会ととらえ、iCoToBaでは、学生自身が企画を作成し実施することも推奨、サポートしている。現在では、学生の自主グループ iCoToBa Supporters Club (ISC)が組織化され、iCoToBaの運営に積極的に参画している。(第8章参照)

6) 「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援(旧グローバル人材育成推進事業)」の促進

2012年9月に採択された上記事業の推進のため、グローバル人材育成推進室や教養教育センターと協働して事業を実施している。(第4章参照)

7) 情報発信

HPやmanabaを活用し、外国語学習や留学に関する情報提供を行っている。また、学生の自主的な活動のサポートとしてmanabaコミュニティを立ち上げ、運営している。(第10章参照)

加えて、iCoToBaで取り組んでいる語学授業や教育手法について研究会での実践報告や教材開発も行っている。(第9章参照)

iCoToBaでは、2013年度より外国語学部で導入したインターネット・ポートフォリオシステムmanabaを、iCoToBaの科目履修システムや学生指導などのコミュニケーションツールとして積極的に活用している。

iCoToBa 開講授業の目的

iCoToBaでは、英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語の5言語とこれらの言語圏の文化について、学生のレベルに応じ4種類の授業を開講している。

1) 総合的な語学能力養成

「話す、聞く、読む、書く」の4技能に基づいた授業、および、留学生活に必要となる場面でのコミュニケーション能力養成を目指した授業

2) 言語圏の社会や文化について理解を深める

視聴覚教材やインターネット、レアリア(実物教材)を取り入れ、ディスカッションや学生による調査を取り入れた授業

3) グループで課題を決め、外国語を用いてプロジェクトワークを行う授業

学生自身がリサーチし、外国語でまとめ、発表する、情報リテラシーについても学べる授業

4) 語学検定対策

外国語学部「グローバル人材プログラム」で指定されている語学検定対策授業、および英語圏への留学に必要となるTOEFL、IELTSの授業

なお、iCoToBa で開講されている各言語の「日本紹介」、「比較文化セミナー」、「リサーチ発信プロジェクト[1]」「リサーチ発信プロジェクト[2]」、「学生共同プロジェクト」は、「グローバル人材プログラム」の指定科目である。

施設の特徴

iCoToBa は、交流スペースである「iLounge」、パソコンを利用し e-Learning コンテンツなどを学習できる「Self Study Space」、語学授業やミーティングに活用できる「Activity Space」からなる。

1) iLounge

学生が自由に会話を楽しめるスペースで、昼休みにはいつも多言語が飛び交っている。Visual-Study スペースでは、海外のテレビ番組を視聴したり、海外映画を楽しむことができる。また、語学学習や留学のための雑誌や書籍なども自由に閲覧できる。

2) Self Study Space

Self Study Space には、パソコンが 14 台設置され、自由に使うことができる。すべてのパソコンには、ロゼッタストーンソフトがインストールされており、e-Learning システムなども活用して自分のペースで語学学習に取り組むこともできる(受付でヘッドホンの貸し出しも行っている)。また、場に縛られない自由な学習のために、貸出用の iPad を 10 台、ノートパソコンを 5 台設置している。

3) Activity Space

可動式のテーブルと椅子が配置され、特大サイズのホワイトボードとインターネット対応電子ホワイトボードを完備している。このスペースでは、プロジェクト型の授業やピア学習など、さまざまな形態の授業を行うことができる。

iCoToBa 運営体制

2015 年度の iCoToBa は、以下のスタッフにより運営された。

[iCoToBa(多言語学習センター)]

専任講師	英語担当	Fern Sakamoto (2015 年 11 月から休職)
専任講師	英語担当	Brett Hack
専任講師	フランス語担当	Morgan Dalin
准教授	スペイン語担当	Sergio Neri
准教授	ドイツ語担当	Morten Hunke
准教授	中国語担当	顧 令儀
専任講師	語学学習アドバイザー	寺澤 君江
非常勤講師	留学アドバイザー	大山 守雄
事務職員	iCoToBa 受付	岡崎 まどか(2015 年 10 月まで)

岩井 美樹(2015 年 10 月から)

[iCoToBa 委員会]

委員長	高橋 慶治 (国際関係学科)
委員	宮谷 敦美 (グローバル人材育成推進室副室長)
委員	森田 久司 (英米学科)
委員	佐藤 久美子 (ヨーロッパ学科フランス語圏専攻)
委員	糸魚川 美樹 (ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻)
委員	四ツ谷 亮子 (ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻)
委員	中西 千香 (中国学科)
委員	寺澤 君江 (iCoToBa 学習アドバイザー)
担当事務職員	水野 淑子 (グローバル人材育成推進室)
	岡崎 まどか (グローバル人材育成推進室、2015 年 10 月まで)
	岩井 美樹 (グローバル人材育成推進室、2015 年 10 月から)

2 iCoToBa ガイダンス

iCoToBa では新年度に 2 種類のガイダンスを実施している。iCoToBa の存在を知り、身近に感じてもらうことを目的とした iCoToBa Welcome Week と、外国語学習の動機づけと主体的な学びを促すことを主眼に置いた iCoToBa 新入生ガイダンスである。iCoToBa 新入生ガイダンスは、グローバル人材育成推進室と協働で実施している。以下、ガイダンスの実施内容について紹介する。

2.1. iCoToBa Welcome Week

2015 年度の iCoToBa Welcome Week は、4 月 8 日(水曜日)から 4 月 14 日(火曜日)にかけて開催された。Welcome Week 期間中は、1)各言語の授業説明会と体験授業、2)異文化理解イベント、3)自由会話を楽しむ時間が毎日設定され、多くの学生が参加した。(スケジュールは pp.12-13 参照)。昨年度同様、学生が集中し混乱するのを避け、より多くの学生が参加できるよう言語ごとにスケジュール調整した。

英語のガイダンスは期間中毎日開催し、授業説明に加えて、英語が話されている国や地域に関する豆知識大会、ドイツの文化やスポーツをトピックに話し合うなど、コミュニケーションを楽しめるイベントを提供した。中国語のガイダンスでは、iCoToBa 教員による中国茶のデモンストレーションを行い、学生の語学学習に対する関心を高めた。



Welcome Week 5 日目および 6 日目には、世界のスイーツ体験 (Sweets of the World)を開催した。1 年生を中心に 94 名の学生が参加し、多くの学生に iCoToBa を利用する機会を提供した。(詳細は第 4 章参照)



Welcome Week 期間中に iCoToBa を利用した学生数はのべ 592 名 (1 日平均 118 名)であり、学年では 1 年生が最も多く全体の 60% (357 名)であった。Welcome Week の開催により、新入生に iCoToBa の施設や授業内容等について十分周知できたと考えられる。

(寺澤君江)

2.2. iCoToBa 新入生ガイダンス

新入生を対象とした iCoToBa ガイダンスは、目的別に iCoToBa ガイダンス I と iCoToBa ガイダンス II として、各学科・専攻ごとに 2 回実施された。iCoToBa ガイダンス I については、昨年同様に合同で開催した学科・専攻もあった。それぞれのガイダンスの目的は下記のとおりである。

iCoToBa ガイダンス I : iCoToBa の説明、グローバル人材プログラムの説明・履修方法、
外国語学習の動機づけ

iCoToBa ガイダンス II : e-Learning、manaba の使い方の理解

以下は、各学科・専攻が行ったガイダンス内容に関する報告である。

[英米学科・国際関係学科]

第 1 回新入生対象ガイダンス(4 月 8 日)



本ガイダンスでは、グローバル人材育成プログラムとはどのようなものなのかということについての導入として、前半で、英語について小グループに分かれてディスカッションを行ない、後半で、グローバル人材になるためにはどのような能力や知識が必要になるかについて話し合った。

まず、英語そのものや英語話者に対して、どのようなイメージを持つか、どのような国や文化で使われているかという質問から始まり、なぜ、英語を勉強するようになったか、英語で将来何をしたいかなどを話し合った。最後に、英語の勉強法について考えた。勉強法については、成功した方法、失敗した方法などを、新入生の体験だけではなく、教員の意見も紹介され、とても盛況であった。以上の議論の後、グローバル人材育成プログラムについての説明がなされ、次回の iCoToBa ガイダンス II の開催日時・場所等を学生に周知して、終了となった。

第 2 回新入生対象ガイダンス(4 月 15 日 英米、4 月 16 日 国際関係)

本ガイダンスでは、manaba および e-Learning の使い方について、新入生がコンピュータを使用しながら学習した。e-Learning については、ALC NetAcademy 2(以下、アルク)とロゼッタストーンが利用できるが、主にアルクの使用について、講習を行った。より具体的に、基本的なログイン方法の紹介の後、学生自ら、アルクの実力診断テスト(語彙)をその場で受けさせた。manaba については、基本的な使用方法の解説を実演とともに行い、さきの iCoToBa ガイダンス I で議論した内容をファイルにし、それを manaba 上にアップロードするなどの作業をさせることにより、manaba を使うことにより、何ができるのかということを理解させた。(森田久司)

[ヨーロッパ学科フランス語圏専攻]

2014 年度と同様、4 月に、二度にわたり新入生ガイダンスを行った。

第 1 回新入生対象ガイダンス(4 月 8 日)



昨年に引き続き、初回は、フランス語学習の入門として、フランス語を話す国々、地域に関してどう思うか、どんなイメージを持っているか、フランス語を学んだ 4 年後の自分をどうイメージするか等を学生たちに尋ねた。進行も去年に引き続き、外国語学習のそれぞれのテーマについて、グループディスカッションを行いながら、それぞれの考えを発表させた。入学間もない彼らにとって、仲間と議論しながら何らかの答えを導くということは、それほど容易なことではなかったであろう。しかし、それぞれのグループで話し合った内容を、自分たちで考え、言葉を選びながらまじめに取り組んでいた。

第 2 回新入生対象ガイダンス(4 月 15 日)

2 回目は、グローバル人材育成プログラムの修了までの履修方法や、iCoToBa、manaba、e-Learning の活用方法、学習方法などについて、実際にパソコンを触りながら説明をした。本学の iCoToBa、manaba、e-Learning は、それぞれ活用の頻度を上げることで、自分のスキルアップや視野を広げられる。日々の外国語学習の中で、これらをフルに活用して、さらなるスキルアップに努めてもらうことを促した。

(佐藤久美子)

[ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻]

2014 年度同様 2015 年度も、iCoToBa 教員とともに、専攻独自のガイダンスをおこなった。スペイン語圏専攻では、毎年 5 月に 1 泊 2 日で新入生研修合宿を実施しており、iCoToBa ガイダンスの目的および内容について、研修合宿と重複する部分が多いことが単独開催の理由である。

第 1 回新入生対象ガイダンス(4 月 10 日)

上記研修合宿において、スペイン語を学ぶ目的、スペイン語を使って何がしたいか、何ができるかなどを考えながらレポートにまとめ、グループ討論を実施している。そのため、本ガイダンスでは、グローバル人材プログラムの説明と iCoToBa の利用法、1 年生対象の iCoToBa プログラムおよび教員紹介をおこなった。



第 2 回新入生対象ガイダンス(4 月 14 日)

e-ポートフォリオ manaba の利用法についてのオリエンテーションを目的とし、ログイン方法から始め、各自これまでの外国語学習を振り返るレポートを作成し、担当教員に提出するところまでをおこなった。スペイン語オンラインコースについては、5 月中旬からの使用となるため、語学検定試験 DELE との対応を説明し、簡単なデモンストレーションでの紹介のみにとどめ、

別日程でガイダンスをおこなった。

(糸魚川美樹)

[ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻]

前年度に続き、2015 年度も iCoToBa 教員、国際交流推進委員の協力を得て、専攻単独のガイダンスを行った。

第 1 回新入生対象ガイダンス(4 月 8 日)

第 1 回目のガイダンスには、iCoToBa 教員、国際交流推進委員、iCoToBa 委員が参加し、iCoToBa の授業プログラム内容の紹介と、協定大学留学の概要についての説明を行った。また開講第 1 週目には、iCoToBa 教員が企画した行事、2・3 年生向けの正課授業での補足説明を通じて、それぞれのレベルに応じた授業への導入をスムーズに行うことができた。

第 2 回新入生対象ガイダンス(4 月 15 日)

第 2 回目は、e-ポートフォリオ manaba のガイダンスとし、前年度同様ログインから始め、これまでの外国語学習を振り返るレポート提出までを義務づけた。また、e-Learning プログラム利用の導入も行った。

(四ツ谷亮子)

[中国学科]

2015 年度は、中国学科のみで、研究概論(中国語)の授業の中の 3 回を利用して、新入生ガイダンスを行った。

第 1 回新入生対象ガイダンス(4 月 14 日)

初回は、グローバル人材育成プログラムの修了までの履修方法や、iCoToBa、manaba、e-Learning の活用方法、学習方法などについて、実際にパソコンを触りながら説明をした。

第 2 回新入生対象ガイダンス(4 月 15 日)

2 回目、3 回目は、中国語をこれから 4 年間学ぶことになる学生たちに、1 年後、2 年後、3 年後、卒業後の自分がイメージできるように、語学的な動機付けとグローバル人材とはどういった人間を指すのかなど、幅広い論点でそれぞれのグループでディスカッションを行い、個々の考えを出し合い、まとめ、グループの代表を決めて、考えを発表した。

まだ入学間もない彼らにとって、仲間と議論しながら何らかの答えを導くということは、それほど容易ではない。しかし、それぞれのグループで話し合った内容を、自分たちで考えて、ことばを選びながらまじめに取り組んでいた。

今回、学科のみで行うにあたって、より学生に自発的に行動を起こせるよう、県大生として、4 年間、どんな過ごし方をすべきかを早いうちから考えられるように議論をさせ、注意を喚起したつもりである。とかく県大生は、おとなしく、まわりの様子を伺ってから行動をするタイプが多い。時にプライドが邪魔して、上手に立ち振る舞えないことも多い。典型的な県大生から脱出するべく、活発で明るく、自分をしっかり持てる人材になってもらいたいと強く願いながら、今回のガイダンスを行った。

人間的な向上と同時に、語学スキル、IT スキルなどの社会にでるまでに必要なスキル、リテ

ラシーをしっかり身につけて、周囲への気づきを感じ、学生同士で切磋琢磨しながら、充実した大学生活を送ってもらいたいと強く願う。

(中西千香)

iCoToBa Welcome Week Schedule					
	4月8日(水)	4月9日(木)	4月10日(金)	4月13日(月)	4月14日(火)
1限					
2限	謝先生：中国茶会と中国語 (10:30~11:30)	TOEIC 説明会(英語) (10:30~10:50)	謝先生：中国茶会と中国語 (10:30~11:30) Sergio 先生： スペイン語文化 (11:30~12:00)	Sergio 先生： スペイン語文化 (11:00~11:30)	* 詳細は裏面参照 2 年生以降
ランチ タイム	Morten 先生：1 年生対象 サッカー Football 基 A.S. (ドイツ語) (12:10~12:40)	Morten 先生：1 年生対象 カフェトリニゲン (ドイツ語) (12:10~12:40)	Brett 先生 英語圏短期大会 (12:00~12:50) Sergio 先生：1 年生対象 スペイン語とランチ (12:15~12:45)	Fern 先生と Brett 先生(英語) Coffee Time(12:10~12:40)	謝先生：中国茶会と中国語 (12:00~13:00)
3限	Fern 先生と Brett 先生(英語) Coffee Time (13:30~14:00)	Morgan 先生： 歓迎会 A.S.(フランス語) (13:00~13:30)	Morgan 先生： 個別相談(フランス語)	Morten 先生： ドイツ語留学説明会 2 年生以上	Sergio 先生： スペイン語文化 (13:00~13:30)
4限	TOEIC 説明会(英語) (14:30~14:50)	Morgan 先生： 個別相談(フランス語)	Fern 先生と Brett 先生(英語) Coffee Time(14:30~15:00)	Morgan 先生： 個別相談(フランス語)	Morgan 先生： 個別相談(フランス語))
5限	TOEIC 説明会(英語) (16:10~16:30)	Morgan 先生： 歓迎会 A.S.(フランス語) (16:10~16:40)	Morgan 先生： 歓迎会 A.S.(フランス語) (16:10~16:40)	iCoToBa combined event Sweets of the World <要予約>	iCoToBa combined event Sweets of the World <要予約>

イベントの詳細は裏面を見てください。質問は iCoToBa 受付(6 棟 2 階)まで。

iCoToBa Welcome Week

グローバルな文化に触れながら自分の言語スキルをアップできるって知ってた？
4月8日～14日 iCoToBa(多言語学習センター)のウェルカムウィークです。
面白いイベントがたくさん開催されるので、是非参加して iCoToBa の良さを体験してください！

iCoToBa の授業が分かるイベント

🇺🇸 ファーン先生とフレット先生のコーヒータイム
コーヒー・お茶を楽しみながら、あなたのコースにぴったりの iCoToBa の英語授業について相談できます。
8日(水) 17:30~18:00 10日(金) 14:30~15:00 13日(月) 12:10~12:40

🇨🇳 iCoToBa 歓迎説明会：中国語と中国語
数種類の中国語を楽しみながら、iCoToBa の中国語授業について話しましょう。
8日(水) 10:30~11:30 10日(金) 10:30~11:30 14日(火) 12:00~13:00
(途中入退室可)

🇫🇷 フランス語 歓迎会
モーガン先生と iCoToBa のフランス語授業について話しましょう。
9日(木) 17:00~17:30 16:10~16:40 10日(金) 16:10~16:40

🇪🇸 スペイン語とランチ (1 年生対象)
セルヒオ先生と iCoToBa のスペイン語授業についておしゃべりしましょう。
10日(金) 12:15~12:45 14日(火) 12:15~12:45

🇩🇪 ドイツ語の授業説明会
モーテン先生が iCoToBa のドイツ語授業について詳しく話します。
13日(月) 12:50~14:20

🇯🇵 TOEIC 説明会
英語検定試験 TOEIC に関する説明会を開きます。情報ゲットで得点アップ！
8日(水) 14:30~14:50 16:10~16:30 9日(木) 10:30~10:50
全て iCoToBa iLounge で開催します。

🇫🇷 iCoToBa フランス語 個別相談
iCoToBa のフランス語科目に関する質問に、Morgan 先生が答えてくれます。
9日(木) 14:30~15:00 10日(金) 12:50~14:20
13日(月) 14:30~15:00 14日(火) 14:30~15:00

iCoToBa の雰囲気体験できるイベント

🇫🇷 🇩🇪 🇪🇸 Sweets of the World
世界のスイーツを体験しましょう。(詳細はチラシをご覧ください)
13日(月) 15:10~17:40 14日(火) 16:10~17:40 場所：iCoToBa 300
参加希望者は4月10日(金)までに iCoToBa 受付で申込(各日50名)
早急にこのチャンスを手に入れよう！

🇺🇸 英語圏豆知識大会
英語圏のクイズに答えて、景品をGETしよう！
10日(金) 12:00~12:50 場所：iCoToBa iLounge 無料

🇪🇸 スペイン語圏文化 (2・3 年生対象)
スペイン語圏の文化について知り、話しかけよう！
10日(金) 11:30~12:00 13日(月) 11:00~11:30 12:15~12:45
14日(火) 13:00~13:30 (途中入退室可)
場所：iCoToBa Activity Space 無料

🇩🇪 サッカー Football 世界と人を知る
サッカーに興味のある人集まれ！ドイツ語でサッカーに関する単語を学ぼう！
ドイツ語学習経験がある人もない人も大歓迎！
8日(水) 12:10~12:40 場所：iCoToBa Activity Space 無料

🇩🇪 カフェトリニゲン (1 年生対象)
コーヒーを飲みながら、ドイツ語学習のこと、ドイツ語留学のことなど、
Morten 先生と話しましょう。
9日(木) 12:10~14:40 場所：iCoToBa iLounge 無料

iCoToBa (多言語学習センター E棟2階) の語学授業
英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語

→授業開始 4月15日(水)、受講受付 4月8日(水)～21日(火)締切厳守

授業内容をチェックするには?

- ①iCoToBa前掲示板&iCoToBa受付でプリントを手に入れる
- ②インターネットポータルシステムmanabaの「iCoToBa」コース掲示板を見る
※iCoToBaガイダンスⅡで説明
- ③iCoToBa HP「新着情報」から「2015前期iCoToBa授業一覧」へアクセス
<http://www.for.aichi-pu.ac.jp/icotoba/index.html> (県大HPにバナーあり)

授業登録するには? →manaba の「iCoToBa」コース「レポート」から申し込む
※ iCoToBaガイダンスⅡで説明

どの授業を選べばいい?

- ①iCoToBa Welcome Week [4月8日(水)～14日(火)] のイベントに参加しよう
- ② 新入生iCoToBaガイダンスⅠで説明を聞く
- ③iCoToBaランチタイムで先生&学生に訊く

International Cultural Events

大学生なんだから、いろんなコトしようよ!

①iCoToBaの異文化交流イベント

iCoToBa前掲示板、iCoToBaHP新着情報、manabaコミュニティ「みんな集まれ iCoToBa広場」で、まめにチェックしよう

②iCoToBa Supporters Club (ISC) に参加しませんか?

学生のiCoToBaサークル活動! 企画イベント大募集

まずは、Welcome Week のイベントに参加して、楽しさを実感してください!

よくわからない・まとめて誰かに相談したい

①「グローバル人材プログラム」履修ガイダンスで相談

4月7日(火) 13:00-17:00 ※同時刻に学部の履修相談あり

場所:iCoToBa (E棟2階) Activity Space

②iCoToBaのアドバイザーに相談する

寺澤先生(語学学習)、大山先生(留学)

③学科・専攻のグローバル人材育成推進室委員に訊く

委員 英米:久田、フランス:原、スペイン:江澤、

ドイツ:杉原、中国:川尻、国際:宮谷

留学情報にも目配りを!

2015夏ショートプログラム説明会 4月17日(金)12:10～13:00 H004/各大学の説明会 4月20日～28日 昼休み
※iCoToBa

留学説明会 6月17日(木)12:50～14:20 S201

協定大学への留学、奨学金情報→国際交流室(E棟1階)で予約して相談

留学ってどんな感じ?ゼロから相談したい→iCoToBa留学アドバイザー大山先生に相談(要予約:月曜日2～5限)

留学に関する質問はabroad@for.aichi-pu.ac.jpへメールでも受付ます

経験者の意見を聞きたい! →iCoToBaの「留学体験発表会」に参加(毎週月曜ランチタイム 4月20日～)

一目でわかる 外国語学部「グローバル人材プログラム」&iCoToBa (多言語学習センター) 新入生用

忘れちゃいけないガイダンス

①新入生対象グローバル人材育成推進事業ガイダンス

4月6日(月) 14:00-15:00 場所:講堂

②iCoToBaガイダンスⅠ

英米・国際 4月8日(水) 16:10-17:40 場所:S101

フランス 4月8日(水) 12:30-14:00 場所:H202

スペイン 4月10日(金) 10:30-12:00 場所:H004

ドイツ 4月8日(水) 昼休み～3限 場所:H203

中国 4月14日(火) 10:30-12:00 場所:B203

③iCoToBaガイダンスⅡ [e-LearningとmanabaのID忘れずに]

英米 4月15日(水) 16:10-17:40 場所:C217, C218

フランス 4月15日(水) 12:50-14:20 場所:H205

スペイン 4月14日(火) 12:50-14:20 場所:H204

ドイツ 4月15日(水) 昼休み～3限 場所:H204

中国 4月15日(水) 12:50-14:20 場所:C218

国際 4月16日(木) 14:30-16:00 場所:C218

重要!

e-LearningとmanabaのIDは入学式で配布された資料に入っています。
iCoToBaガイダンスⅡに必ず持って来てください。

e-Learning セツかくのチャンス最大限に活かさなきゃ!

① ALCネットアカデミー2(＋ロゼッタストーン)ガイダンス

4月22日(水) 23日(木) 24日(金) 27日(月) 28日(火)

すべて 12:10～12:40 場所:H205

②マンツーマンで質問できるセッション 4月16日(水)～5月12日(火)

火曜日4限・水曜日1限:ロゼッタストーン講習会

木曜日3限・金曜日4限:ALCネットアカデミー2講習会

場所:iCoToBa SSS わからないことは 寺澤先生に質問しよう!

※第2外国語(対象言語のみ)のIDとマニュアルは、5月に授業で配布

iCoToBa (多言語学習センター E棟2階) の語学授業
英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語

→授業開始 4月15日(水)、受講受付 4月8日(水)～21日(火)締切厳守

授業内容をチェックするには?

- ①iCoToBa前掲示板&iCoToBa受付でプリントを手に入れる
- ②インターネットポータルシステムmanabaの「iCoToBa」コース掲示板を見る
- ③iCoToBa HP「新着情報」から「2015前期iCoToBa授業一覧」へアクセス
<http://www.for.aichi-pu.ac.jp/icotoba/index.html> (県大HPにバナーあり)

授業登録するには? →manaba の「iCoToBa」コース「レポート」から申し込む
※manabaの使い方が分からない! →iCoToBaの受付で声をかけてください!

どの授業を選べばいい?

- ①iCoToBa Welcome Week [4月8日(水)～14日(火)] のイベントに参加しよう
- ②iCoToBaランチタイムで先生&学生に訊く

International Cultural Events

大学生なんだから、いろんなコトしようよ!

①iCoToBaの異文化交流イベント

iCoToBa前掲示板、iCoToBaHP新着情報、manabaコミュニティ「みんな集まれ iCoToBa広場」で、まめにチェックしよう

②iCoToBa Supporters Club (ISC) に参加しませんか?

学生のiCoToBaサークル活動! 企画イベント大募集

まずは、Welcome Week のイベントに参加して、楽しさを実感してください!

よくわからない・まとめて誰かに相談したい

①「グローバル人材プログラム」履修ガイダンスで相談

4月7日(火) 13:00-17:00 ※同時刻に学部の履修相談あり

場所:iCoToBa (E棟2階) Activity Space

②iCoToBaのアドバイザーに相談する

寺澤先生(語学学習)、大山先生(留学)

③学科・専攻のグローバル人材育成推進室委員に訊く

委員 英米:久田、フランス:原、スペイン:江澤、

ドイツ:杉原、中国:川尻、国際:宮谷

留学情報にも目配りを!

2015夏ショートプログラム説明会 4月17日(金)12:10～13:00 H004/各大学の説明会 4月20日～28日 昼休み
※iCoToBa

留学説明会 6月17日(木)12:50～14:20 S201

協定大学への留学、奨学金情報→国際交流室(E棟1階)で予約して相談

留学ってどんな感じ?ゼロから相談したい→iCoToBa留学アドバイザー大山先生に相談(要予約:月曜日2～5限)

留学に関する質問はabroad@for.aichi-pu.ac.jpへメールでも受付ます

経験者の意見を聞きたい! →iCoToBaの「留学体験発表会」に参加(毎週月曜ランチタイム 4月20日～)

一目でわかる 外国語学部「グローバル人材プログラム」&iCoToBa (多言語学習センター) 2年生以上用

グローバル人材プログラムガイダンス

履修ルールがよくわからない人

今年のiCoToBa科目、どれをとればいい? ここで解決!

4月7日(火) 13:00-17:00

場所:iCoToBa (E棟2階) Activity Space

注意! グローバル人材プログラム

の修了を目指す人は!

「グローバル人材プログラム」の「インターンシップ」は教養教育科目「インターンシップ」のみです!

チャレンジしようと思っている人、必ず履修登録を!

インターンシップ説明会 4月8日(水) 12:50～ S棟201

e-Learning まだやってないの?

セツかくのチャンス最大限に活かさなきゃ!

① ALCネットアカデミー2(＋ロゼッタストーン)ガイダンス

4月22日(水) 23日(木) 24日(金) 27日(月) 28日(火)

すべて 12:10～12:40 場所:H205

②マンツーマンで質問できるセッション 4月16日(水)～5月12日(火)

火曜日4限・水曜日1限:ロゼッタストーン講習会

木曜日3限・金曜日4限:ALCネットアカデミー2講習会

場所:iCoToBa SSS わからないことは 寺澤先生に質問しよう!

※第2外国語(対象言語のみ)のIDとマニュアルは、5月に授業で配布

3 iCoToBa の授業

iCoToBa では、5 言語（英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語）の語学授業を開講している。授業はレベル別（CEFR 基準 A1~C1）、目的別（4 技能別、留学準備、外国語学部グローバル人材プログラム対象科目）に設定している。そして、正課の授業で身につけた言語知識をもとに、運用能力を身につけることと、学習言語が話されている地域の文化や社会について、学習言語を使って調べ発信することを目指した授業設計をしている。

以下では、2015 年度に開講した授業について報告する。開講授業一覧と各受講者数は、「11. 資料(pp.123-131)」を参照されたい。

3.1. 2015 年度前期開講授業

【英語】

J-Ambassador (Fern Sakamoto, Monday 1st period)

Objective: To reflect upon Japanese culture, identifying stereotypes, reality and possible foreign perspectives.

To acquire vocabulary necessary in talking about Japanese traditions and objects.

To be able to communicate information about Japan clearly and naturally, without compromising content or resorting to unnecessary dictionary use.

Course contents: Each unit addressed a different element of the Japanese lifestyle that students are likely to be questioned about overseas. Students considered reasons behind core Japanese practices and principles and practiced explaining and discussing Japanese truths and stereotypes. The course culminated in a workshop with visiting Russian exchange students, prepared and led by the class members.

General Overview and agenda: This was a small class with just four students. This meant that students and teacher got to know each other very well and a comfortable class environment was easy to achieve. All four students were dedicated and attendance was consistent, so it was possible to carry out some pair and group projects despite the small class number. The small number facilitated a successful final project class together with exchange students (who also numbered four). Student surveys indicated that all students felt that they had learned to better use their English to appropriately explain Japanese customs, foods etc.

Creating Change (Fern Sakamoto, Monday 3rd period)

Objective: To gain awareness of issues facing the global community.

To enhance critical thinking and problem solving skills.

To learn how to apply SMART goals in developing creative solutions.

Course contents: Students began by learning a little about various situations in the world today.

They then chose one specific problem to investigate further, and delivered a presentation to the group explaining the issue in detail. The focus then moved to how to address these types of problems. Two guest speakers from international NPOs delivered lectures on this topic, and students worked to develop and present their own action plans, using SMART goals to suggest something that they could do to help the situation.

General Overview and agenda: Enrollment in this course was very small, making group work problematic from the onset. Students did however attend consistently and a good group dynamic was achieved. Guest speaker sessions were attended by other class students to supplement numbers, and were both well-received. Students had many chances to speak English in the class, but the tiny class number made such discussions difficult to sustain for long periods, and also limited the actual ability of the students to “make a difference”. A larger class number is necessary to make this type of class truly successful so if it is to be implemented in future adequate care to select an appropriate schedule slot will be important.

Survival English (Fern Sakamoto, Tuesday 1st period)

Objective: To develop effective strategies for dealing with new situations.

To acquire useful situation-specific English expressions.

To enhance natural communication skills.

Course contents: Each unit students looked at a different social situation that students might encounter abroad. Students were presented with possible strategies and useful expressions to help them navigate such situations, and practiced speaking in pairs and small groups. There was a lot of role-play and speaking practice time in this class.

General Overview and agenda: This class was popular among first grade students and was full to capacity. Attendance remained consistent throughout and the class atmosphere was very positive. Students were nervous at the beginning of the course, but were able to relax and overcome their fear of mistakes as the course progressed. Survey responses indicate that students enjoyed this class and felt that their conversations skills and confidence improved as a result of the course. Many students commented positively on the frequent group and pair shuffling, and on the opportunity to speak a lot without being limited to specific grammatical structures or questions. This course appears to have met the above objectives for students, and to have been a good motivational start for these first grade students.

Word Power (Fern Sakamoto, Tuesday 2nd period)

Objective: To be able to use online spaced repetition software and develop an effective autonomous learning practice.

To acquire (at least) 350 new vocabulary items and be able to use them in conversation.

To gain confidence and fluency in everyday conversation on a range of topics.

Course contents: Students used free online software to learn words related to the topic of the week. They then practiced using the new words in class through a range of conversation-based activities. The final part of each class was devoted to the design and maintenance of personalised online flashcards for use throughout the week in learning the next set of target vocabulary.

General Overview and agenda: This class was small with only two students. While this meant that it was very easy to monitor student progress and troubleshoot any problems with the software, it made in-class discussions less rich than they would have been with a wider range of experiences and opinions. Ultimately, students were able to increase their vocabulary, but the opportunities to speak with others and be motivated by discovering and using new words in conversation were somewhat limited. Students commented in surveys that they felt they had learned useful new tools for remembering vocabulary through the class. There is value in exposing students to online tools such as that used in this class, but the timing of the class and way to attract students need to be carefully considered in future courses.

J-Ambassador (Fern Sakamoto, Wednesday 2nd period)

Objective: To reflect upon Japanese culture, identifying stereotypes, reality and possible foreign perspectives.

To acquire vocabulary necessary in talking about Japanese traditions and objects.

To be able to communicate information about Japan clearly and naturally, without compromising content or resorting to unnecessary dictionary use.

Course contents: Each unit addressed a different element of the Japanese lifestyle that students are likely to be questioned about overseas. Students considered reasons behind core Japanese practices and principles and practiced explaining and discussing Japanese truths and stereotypes. The course culminated in a student project to introduce Japanese cuisine.

General Overview and agenda: Attendance in this class was very consistent, which facilitated smooth group project work and a good group dynamic. Unfortunately due to teacher illness, the original mid-semester project (a workshop with JICA trainees) had to be cancelled. In its place an end-of-semester event was created and students worked positively and actively to organize the event. Student surveys indicated that they enjoyed the extensive class discussions in English, and the challenge of preparing their own final project event. Many commented that due to this class they now feel able to talk about Japan without using *romaji* and without relying on dictionaries, which is one of the main goals of the class.

News English (Fern Sakamoto, Wednesday 3rd period)

Objective: To deepen understanding of current affairs through the media.

To acquire vocabulary necessary in understanding and talking about news issues.

To practice formulating and expressing personal opinions on current events.

Course contents: Students learned about current events through print, TV and internet media.

Each class focused on one international or domestic news story. Students learned target vocabulary related to the topic and held discussions related to the issue. Students also maintained a news journal, writing about one news story each week and using this to discuss the week's news at the beginning of each class.

General Overview and agenda: Situated on a Wednesday afternoon, it was expected that attendance in this class would fluctuate from week to week depending on university guidance sessions. Nonetheless, numbers remained fairly good throughout the course, with between 12 and 20 students attending each class. This class had a very large range of abilities in participants but requiring students to prepare (via their news journal) each week ensured that all students were able to speak out at the start of class and seemed to be an effective equalizer. Students commented that they enjoyed the chance to speak with a range of people and hear different opinions. Student comments indicated that while for some the main benefit was in vocabulary acquisition or listening skills, others felt that they learned more general knowledge about the world. The fluctuating attendance meant that it was difficult to do any project work or in-depth group work in this class, but it was an appropriate "lighter" class for Wednesday afternoons.

TED Talks (Fern Sakamoto, Thursday 4th period)

Objective: To enhance listening skills and get used to a range of accents.

To broaden awareness of world issues.

To enhance critical thinking skills and practice exchanging opinions in English on a range of topics.

Course contents: Each week students watched one TED Talk and discussed the topic it raised. Students used audio scripts to navigate spoken academic language, learn new words, and gain familiarity with English spoken in a range of accents. In the latter part of the course students chose their own TED Talk, and prepared and led the class based on their talk.

General Overview and agenda: This class attracted a range of grades and ability levels. The nature of the TED Talks materials however, meant that students were able to access it at their own level, by watching before class, or printing out the audioscript if they wished to. Attendance was consistent after the first few weeks, and the classroom dynamic was relaxed and positive. Students commented in the surveys that they especially enjoyed being able to choose their own talks and lead a class. One comment suggested that listening to each TED Talk more times in the class would be beneficial. This is a good point and will be followed up on in future classes. Another student commented on the need for a clearer schedule. Teacher illness affected the original schedule and this may have been confusing.

Survival English (Fern Sakamoto, Friday 1st period)

Objective: To develop effective strategies for dealing with new situations.

To acquire useful situation-specific English expressions.

To enhance natural communication skills.

Course contents: Each unit students looked at a different social situation that they might encounter abroad. Students were presented with possible strategies and useful expressions to help them navigate such situations, and practiced speaking in pairs and small groups. There was a lot of role-play and speaking practice time in this class.

General Overview and agenda: This class was popular and was full to capacity. Attendance fluctuated somewhat, but a core of dedicated students remained consistent and the class atmosphere was very positive. Survey responses indicate that students enjoyed this class and felt that their conversations skills and confidence improved as a result of the course. Many students commented positively on the frequent group and pair shuffling, and on the opportunity to speak a lot without being limited to specific grammatical structures or questions. This course appears to have met the above objectives for students, and to have been a good motivational start for these first grade students. The fluctuating attendance could be addressed by moving the class out of the first period timeslot.

Short Essay Writing (Fern Sakamoto, Friday 4th period)

Objective: To gain an understanding of appropriate composition structure.

To acquire set phrases and vocabulary used in academic writing.

To develop critical thinking skills and be able to write in a logical, well-argued manner.

Course contents: Students studied appropriate structure, flow and language to use in simple academic writing. They developed writing and editing skills and extended their academic vocabulary, while gaining practice with timed and untimed writing tasks.

General Overview and agenda: This class was also offered online for students who had a timetable clash preventing them from attending. Surprisingly, the students who were most dedicated to submitting assignments on time were those who were participating in an online capacity. This suggests that the online option is worth continuing. Informal feedback gathered from students suggests that the workload for this course was too heavy. Students agreed that it was necessary to write a lot in order to improve, but they would prefer more in-class writing time and fewer out-of-class writing assignments. This will be accommodated to some extent in future classes.

Comparative Study of Cultures: The English-Speaking World 1

(Brett Hack, Monday 4th period)

Objective: To learn more about the English-speaking world.

To increase interest in travel and global involvement.

To gain experience giving a presentation in English.

Course contents: Each week focused on a different country or region. Students participated in an interactive lecture interspersed with discussion questions and activities. In the final week, students gave presentations on regions of their choice.

General Overview and agenda: This class had a high number of strong students from many

different grades. The competitive “game show” aspect of the course was particularly successful here. Survey results showed that many students had internalized the course’s messages of diversity and active interest. The presentations in this class were especially strong, with students utilizing multimedia in very creative ways.

Research Project and Presentation 1 (Brett Hack, Monday 5th period)

Objective: To be able to work effectively in a group.

To learn how to manage large tasks and set schedules.

To gain experience giving a presentation in English.

Course contents: Students completed long-term group projects of their choice, while learning the skills and tactics needed to manage a group project. Later units showed how to design and organize a successful presentation. Projects were presented during the final week of class.

General Overview and agenda: In this semester, I introduced a “goal phrases” system. During group work sessions, the students had a list of English phrases connected to project work. They were encouraged to refer to this list when conducting meetings in order to increase the level of English in their conversations. Consequently, students used more English in their group meetings than in previous semesters. However, English use tended to trail off towards the end of sessions, indicating that the system needs improvement.

Media and Culture (Brett Hack, Tuesday 2nd period)

Objective: To be able to experience and talk about media in English.

To develop critical thinking and discussion skills.

To gain experience writing an argumentative essay in English.

Course contents: This class featured units on major media presences in modern life, including film, comics, popular fiction, SNS, chat culture, ads, and others. After learning some useful media language and concepts, students participated in these media forms and then engaged in critical discussion about the issues underlying media and culture. In the final units, students wrote an argumentative essay about a text of their choice.

General Overview and agenda: The course this semester suffered from a schedule conflict with upperclassmen’s (the target students) job hunting activities. Consequently, attendance was a problem. However, all the students participated to the best of their abilities and worked hard at mastering the critical language skills in the course. Student essays were of high quality. Students indicated on the survey that they felt their language skills had improved as well.

Research Project and Presentation 2 (Brett Hack, Tuesday 4th period)

Objective: To be able to work effectively in a group.

To learn how to manage large tasks and set schedules.

To gain experience giving a presentation in English.

Course contents: Students completed long-term group projects of their choice, while learning the skills and tactics needed to manage a group project. Later units showed how to design and organize a successful presentation. Projects were presented during the final week of class.

General Overview and agenda: Although this class had a mixed dynamic (students from grades 1 through 3) they all displayed excellent teamwork skills and dedication to their projects. This class also was the most receptive to the “goal phrases” system described above, and consequently had the most fulfilling English use during meetings. Survey results indicated that students appreciated the level of freedom the group work afforded them.

Real-Life English Expressions (Brett Hack, Tuesday 5th period)

Objective: To acquire new vocabulary and expressions used in daily life.

To shift understanding of vocabulary towards real-life application.

To develop the ability and motivation to learn new words by oneself.

Course contents: This class focused on practical vocabulary acquisition, particularly on figurative expressions, idioms, and other "natural" phrases that are difficult for beginners to learn. The class also taught beginners how to "be their own teachers" when it comes to acquiring new vocabulary.

General Overview and agenda: Responding to troubles that occurred with the class during the previous semester, I simplified the course structure and made it more accessible to beginner-level students. The results were very satisfying. The first-year students (the bulk of the class) remained involved and student absence was much less of a problem. The final dialogues and performances were very entertaining this semester, indicating that my emphasis on the performative aspects of conversation was a positive change that the students responded well to.

Get Good at Speaking (Brett Hack, Wednesday 3rd period)

Objective: To put into practice language and skills studied in other classes.

To extend vocabulary related to a range of topic areas.

To gain confidence and fluency in spoken English.

Course contents: This class combined methods from 3 previous iCoToBa conversation classes – English Improv, Group Discussion, and the Conversation Coach – into one course. The course featured a rotating series of units on group discussion, flexibility and quick response, and free talk.

General Overview and agenda: This course was made to respond to student requests last semester for a longer and more involved free talk class. The results were very good. The class quickly understood the rotating structure and thus became more adept at cultivating the skills trained. Although student absences were a problem, as with all Wednesday afternoon courses, the high number of participants ensured that there was always a sizable group, making for a fun atmosphere. Survey results praised the active nature of the class.

Research Project and Presentation 3 (Brett Hack, Thursday 4th period)

Objective: To be able to work effectively in a group.

To learn how to manage large tasks and set schedules.

To gain experience giving a presentation in English.

Course contents: Students completed long-term group projects of their choice, while learning the skills and tactics needed to manage a group project. Later units showed how to design and organize a successful presentation. Projects were presented during the final week of class.

General Overview and agenda: This class had the highest number for students for the course this semester. Consequently, the energy level was high and friendly competition between students encouraged high-quality projects and passionate presentations. While some groups responded well to the “goal phrases” system described above, other groups did not adopt it fully. The final presentation day was very lively and successful, with students from other classes attending to support friends and comment on other presentations.

Pronunciation Profiles 1 (Brett Hack, Thursday 5th period)

Objective: To improve pronunciation and intonation, especially of trouble sounds.

To apply learned pronunciation to natural listening and speaking.

To look at how personality and emotion can affect pronunciation.

Course contents: Students listened to a talk by a famous person and isolated a pronunciation point. After practicing the pronunciation point through drills and games, students returned to the featured person's talk and reproduced the day's point in a larger text.

General Overview and agenda: The student makeup for this class was ideal for the course: over 20 students, almost all of them in their first year. Consequently, the class dynamic was very good. This year's group of students showed very keen enthusiasm in improving their pronunciation, often staying after class to practice certain difficult sounds and receive further explanation. Survey results indicated that the combination of pronunciation and audiovisual media featuring famous speakers was well-received this semester too.

Japan Contents Culture Translation Project (Brett Hack, Friday 2nd period)

Objective: To get practice translating from Japanese to English.

To think about how one culture's ideas can transfer into another.

To decide what is cool about “cool Japan.”

Course contents: In this class we looked at contemporary Japanese cultural contents - novels, manga, movies, and television. After discussing the contents and themes of these works, we practiced translating them into English. In the final weeks, students formed groups and chose a text to translate fully.

General Overview and agenda: This class had a very interesting group dynamic, since wildly disparate personality types were attracted to the content. Consequently, discussion was sometimes stilted. However, the common point of interest in contemporary culture allowed

students to overcome shyness to a satisfactory degree. The final translation projects showed a much higher degree of success, with students flourishing in the written medium. Survey results indicated that the chance to translate from Japanese to English was a unique and stimulating challenge for many students.

Pronunciation Profiles 2 (Brett Hack, Friday 3rd period)

Objective: To improve pronunciation and intonation, especially of trouble sounds.

To apply learned pronunciation to natural listening and speaking.

To look at how personality and emotion can affect pronunciation.

Course contents: Students listened to a talk by a famous person and isolated a pronunciation point. After practicing the pronunciation point through drills and games, students returned to the featured person's talk and reproduced the day's point in a larger text.

General Overview and agenda: This class had a smaller number of students, mostly 4th year students with many other obligations. Consequently, there were more absences that would be ideal. Also, the light-hearted “edutainment” atmosphere of the course was not ideal for some of these older students, one of whom indicated on the survey that they would have preferred a more rigorous class. This lukewarm reception, when compared to the strong success of the Thursday class, indicated that greater communication about the nature of the course is needed at the beginning of the class.

Comparative Study of Cultures: The English-Speaking World 2

(Brett Hack, Friday 4th period)

Objective: To learn more about the English-speaking world.

To increase interest in travel and global involvement.

To gain experience giving a presentation in English.

Course contents: Each week focused on a different country or region. Students participated in an interactive lecture interspersed with discussion questions and activities. In the final week, students gave presentations on regions of their choice.

General Overview and agenda: This was a very mixed class. The high number of students made overall participation successful. However, some more advanced students were unhappy with the quality of discussion their lower-level classmates added. I added another week of preparation time for the final presentation, which happily resulted in high-quality presentations. Several students wrote on the survey that my instruction was easy to understand, which indicates that I succeeded in keeping a level-appropriate classroom English.

TOEIC Intensive 1, 2, 3, 4

(寺澤君江、月曜日 10:30～12:00、17:50～19:20、火曜日 10:30～12:00、17:50～19:20)

授業目的: TOEIC 受験対策

授業内容: スコアのアップを目標に授業を展開した。重点としては、試験問題におけるボキャ

ブラリーを強化させるため、品詞ごとに重要単語を確認し、反復練習により語彙を定着させていった。さらに、学生が苦手とするリスニングのパート4に焦点をあて、公式問題を用いたシャドウイング練習を位置づけた。また、時間配分がポイントとなるリーディングパートにおいて、出題方法や問題傾向を分析することにより、効率よく解答するテクニックが身につくように助言を与えた。授業の最後には、学習成果を確かめるため、毎回ミニ模擬試験の時間を設定した。

アンケート結果分析・来期の課題：効率のよい授業展開が学生には好評であった。授業の核となる問題傾向の分析を通して、解き方のコツをつかめた学生が多いようであった。本学の学生が苦手とするリーディングパートの時間配分に関しては、実践することにより感覚的に理解したように思われる。また、解説と問題演習をバランスよく展開することにより、学生の集中力を持続させることができた。ボキャブラリーチェックを授業の中に位置づけたことにより、学生の語彙力強化に対する意識が高まったように見受けられた。

TOEIC Early Birds 1, 2（寺澤君江、火曜日 8:50～10:20、木曜日 8:30～10:20）

授業目的：TOEIC 受験対策

授業内容：スコアのアップを目標に授業を展開した。演習を中心に授業を展開した。リスニングとリーディングそれぞれの攻略方法および問題解説に重点を置いた。

アンケート結果分析・来期の課題：問題演習により、解き方のコツをつかめた学生が多いようであった。解説の時間がやや不十分であったようである。特に、リスニングにおいてはスクリプトを提示してほしいという要望があった。語彙力強化に関しては、学生のニーズに答えることができていた。

Strategic TOEFL 1, 2（寺澤君江、水曜日 10:30～12:00 金曜日 12:50～14:20）

授業目的：アメリカ留学を目指す学生の TOEFL 受験対策

授業内容：試験の4つのパート(リスニングセクション、リーディングセクション、スピーキングセクション、ライティングセクション)における攻略方法を身につけることができるようにアドバイスした。スピーキングセクションおよびライティングセクションではリスニング力も必要とされるため、特に、ノートテイキングの方法の説明と演習に時間を割いた。授業全体を通して毎回サンプル問題によるミニ模擬試験を実施した。スピーキング力強化に関しては、iCoToBa の iContact(外国人教員との会話練習)を利用することを奨励し、そのための課題も個々のレベルに合わせて提供した。

アンケート結果分析・来期の課題：少人数制の授業であったため、学生が質問しやすい雰囲気となり、好評であった。個々の弱点に焦点を合わせながら進めることができ、学生は学習スタイルに関して満足していたようであった。この講座により、TOEFL の問題の解き方のコツをつかめた学生が多かった。授業を通して、リスニングにおけるノートテイキングやスピーキングにおける内容構成を理解するきっかけとなったように思われる。しかしながら、全13コマ(1コマ90分)という限られた時間で4つのパート全てをカバーするには時間が足りないと感じた。

Successful IELTS 1, 2 (寺澤君江、月曜日 16:10～17:40 水曜日 12:50～14:20)

授業目的: イギリス留学を目指す学生の TOEFL 受験対策

授業内容: 試験に対応するため、4 つのパート(リスニングセクション、リーディングセクション、スピーキングセクション、ライティングセクション)を全てカバーできるように授業を展開した。それぞれのパートの問題分析および解き方のコツに触れながら、演習を位置づけた。学生の苦手とするライティングは重点的に指導にあたった。スピーキングセクションに関しては、テーマを提供し、iCoToBa の iContact を利用することを奨励した。

アンケート結果分析・来期の課題: リスニングパートの演習を授業で位置づけたことにより、スコアアップが見られたようである。学生が苦手とするライティングパートに関しては、クリティカルシンキングの練習を通して、ライティングに対する苦手意識が薄くなったのではないだろうか。留学を見通し、講座終了後も個人で継続的に努力することが望ましい。

Listening for Exams 1, 2 (寺澤君江、火曜日 12:50～14:20、水曜日 14:30～16:00)

授業目的: 検定試験(TOEIC/TOEFL/IELTS)受験対策のためのリスニング力強化

授業内容: 全ての検定試験に対応できるよう、様々な題材を取り上げた。上記の 3 種類の検定試験で出題される英文を用いて、シャドウイング、ディクテーション、内容理解、サマリーなどにより、多面的に学習を展開した。

アンケート結果分析・来期の課題: 大学受験レベルのリスニングからの脱却を図ったため、学生にとっては難しく感じたようである。理解するので精一杯となり、問題に正解するところまでたどり着けなかったことが多かった。しかしながら、この講座はチャレンジ精神を喚起することに貢献できていたようである。学生の知的好奇心を刺激するためにも、このような学習の機会を提供していきたい。リスニング力向上のため、iCoToBa の外国人教員による他の授業または検定対策講座との同時受講を学生に勧めていきたい。学生からは、同じ系統の上級者編の授業を希望する声が多く聞かれた。

【フランス語】

めざせ仏検準 1 級 (ダレン モルガン、月曜日 10:30～12:00)

授業目的: 仏検に合格するための授業。試験に出る問題を繰り返し解き、書く練習をし、二次試験での面接の準備をした。

授業内容: 上記の「めざせ仏検 2 級」の授業と同じように、試験に必要な語彙と文法の練習を重ねて行った。学生が既に学ぶコツを知っていたので、優先的に会話を通して言語の構造を習得できるようにした。とっさにフランス語が口から出る力を向上するために、聞き取り、言葉遊び、論文や即興等の練習を多く行った。また、写真の描写と分析を行い、さまざまな世界観について会話し、大人らしい意見交換が出来たと思う。

アンケート結果分析・来期の課題: 少人数のグループであったが、受講した学生のモチベーションが高かったため、非常に内容の濃い授業になった。仏検のためのフランス語だけでなく、日常会話で使う単語と文法も学んだ。今後は、もう少し人数が多ければよいと思う。ア

ンケートでは、「留学後に衰えてしまうスピーキング力、リーディング力を維持するのに大変役に立った、留学中のことを思い出してやる気がでた」とあり、留学した学生にとっては、自身の経験を分析したり、滞在を思い出したりして、さらに成長することができたと思う。とても有益な授業だったと思う。

ニッポンなう。 (ダレン モルガン、月曜日 16:10～17:40)

授業目的: 日本の文化、観光スポットなど、自分の国のことについて、留学先で正しいフランス語で上手に説明できるように学ぶ。総合的に発表力とフランス語のレベルを向上させる。

授業内容: 日本の習慣、宗教、考え方、音楽、社会、労働や文化など、様々な事柄について、質問し合ったり会話をしたりして、学生が自分の意見を言葉にする能力を向上することを目指した。また、学生自身が選んだ話題について、2～3 名で協力して取り組み、フランス語での説明や、演技を行った。

アンケート結果分析・来期の課題: 2 年生として、フランス語力が若干低いと感じた。あまり上手く話せない学生もいたが、話す事が好きになるように、簡単な言葉で言いたい事をたくさん伝える方法を学んだ。シャイな学生も、話すことについて自信がついたと思う。フランス語で話す楽しさを身に付けて、日常でよく使う単語や表現の知識がついた。学生たちが、言いたい事をフランス語で言えるようになったので、とても良かったと思う。アンケートでは、「おしゃべりをするみたいに、楽しく討論できたところがよかった」「自由に話して内容を進めるところ、肩の力を抜いて参加できるところがよかった」「フランス語を積極的に話そうという雰囲気がある点がよかった」とあり、特に授業の雰囲気作りが上手くできたと思う。

リサーチ・発信プロジェクト (ダレン モルガン、火曜日 8:50～10:20)

授業目的: フランスの地方や町とその遺産等について知識を得る。海外生活の目的・計画を組み立てる。フランス語で情報を検索して、フランス語で発表する。いろんな側面から総合的にフランス語を上達させる。

授業内容: 1 つ目は、学生が興味のある町を決め、インターネットを利用して情報収集した。その結果を、2～3 名のグループになり、パワーポイントで発表した。2 つ目は、地方の料理や名物について、口頭でレシピと材料を説明し、クイズを出し合った。フランス語によるプレゼンテーションとクイズを通して、正しいフランス語、パワーポイントの作り方と人の前で発表の仕方を学んだ。

アンケート結果分析・来期の課題: 皆の前で発表するという苦手意識を克服し、楽しみながら話すことができるようになった。ただ、楽しいアットホームな雰囲気であったからか、作業中に日本語で話す学生が多かった。フランス語で情報を検索することも、フランス語版のキーボードを使う難しさも、最終的には楽しんで行うことができたと思う。学生はフランス料理について興味があったため、楽しい発表ができ、内容も良く出来ていたと思う。フランスの地理、料理、歴史と単語の知識が増えたと思う。アンケートでは、「学生がみんなしっかり参加して、自発的に学べるところがよかった」「フランスについて、ほかの授業では知ることのできない事まで知ることができてよかった」「フランス語を聞き手に伝わるように話し、文を

考え、楽しいスライドを作ったのはとても良い練習になった」等、自分で情報収集したことをフランス語でプレゼンテーションすることは学生にとってよい経験になったと思うので、今後も継続して行いたい。

発音サロン (ダレン モルガン、月曜日 14:30～16:00、火曜日 12:50～14:20)

授業目的: 基礎の語彙と文法の知識を得る。フランス語は意外と難しくなく楽しい言語だと知ってもらうための授業。

授業内容: 練習とゲームを通して、正しい言い方と発音を学ぶ。発音の基本的な構造を習得する。2～3人で簡単なフランス語で描写すること、またパリの観光名所にまつわるフランス語を学び、行きたい場所に行く方法と聞き方を学んだ。フランスの料理やレストランで注文するための語彙を学んだ。

アンケート結果分析・来期の課題: 受講者が多く、2回に分けて授業を行った。月曜日4限のグループはモチベーションが高く、楽しく面白く学習できたと思う。火曜日3限のグループはモチベーションが非常に低くて、毎回学生が発言するように促すのは大変だった。もっと単語や表現を教えたいが、基本的なフランス語の知識がほとんどないために、なかなか難しかった。アットホームな雰囲気の授業だったが、月曜のグループは、集中力の続かない学生が目立ち、何度も注意したが、授業中の私語が多かった。また、火曜のグループは、静か過ぎて、反応が無くてつらかった。アンケートでは、「買い物の仕方やパリ旅行など、身近な話題を取り上げていてよかった」「教員と学生との距離が近いから授業も楽しいし、わからないことがあってもすぐに気軽に質問できるところがよい」「教科書に載っていない言葉を知れてよかった」等、全体的に満足度が高い印象がした。様々なゲーム等を通して、フランス語を楽しめたと思う。

フランス語圏なう。 (ダレン モルガン、木曜日 12:50～14:20)

授業目的: フランスやフランス語圏の国へ留学する事について具体的に考え、準備する。具体的なプロジェクトを通して、フランスの地方や町についての知識を共有する。フランス語で情報を検索する。フランス語を話す力、書く力、グループワークの能力を高める。

授業内容: 具体的なプロジェクトを2つ行った。一つ目は iCoToBa Magazine のためのバイリンガル記事を作成した。二つ目はフランス語圏の地域を紹介するためのプレゼンテーションを行った。

アンケート結果分析・来期の課題: シャイな学生が多かったが、気軽な雰囲気で、楽しみながらプロジェクトを進めることができた。初めは恥ずかしがっていた学生がよく話すようになったり、上達のはっきりと目に見えたりする学生がいたのは、教える側にとって非常に嬉しいことであった。今後も、フランス等で役に立つガイドやバイリンガル記事の作成を継続して行いたい。レベルは初級だったので、複雑なフランス語を使うことが出来なかったが、フランスとフランス語圏について、かなり具体的なイメージが出来たと思う。アンケートで「留学/フランスの若者事情などを授業で取り上げてほしい」という意見があったので、来期は、そのような希望に添える内容(履歴書・志望動機書の書き方、若者事情について)を考えたい

と思う。授業で、ガイドを作成している時、学生同士でもフランス語で話し合いをして欲しかったが、どんなに注意しても日本語で話していたのは残念だった。

フランス語クラブ中・上級 (ダレン モルガン、木曜日 16:10～17:40)

授業目的: 「語学の授業」というより、「フランス語クラブ」のような雰囲気にし、「フランス語を楽しむ」という事を意識して行った。授業の内容については、学生主体で決めていき、学生が望む活動をネイティブ教員と一緒に行うことで、語学を学ぶことは楽しいと再認識してもらおう。フランス留学前に、役に立つフランス語そして目的地について知識を得ること。

授業内容: 後期に留学する予定の学生達だったため、主に留学準備について時間を使った。留学のための準備として、毎回、履歴書や志望動機書の記載の仕方を学んだり、アルバイトの仕方、留学の目的地について情報収集を行った。

アンケート結果分析・来期の課題: 留学直前の学生だったためか、モチベーションの高い学生で、とてもよい授業になったと思う。人数の少ないクラスだったが、学生がこの時間をどう過ごしたいかを決めていたので、とても積極的に参加する授業になった。「留学」を具体的なトピックにして、役に立つフランス語、文化や一般的な情報を覚えることができた。アンケートでも、「フランスへ行った時に少しでも生活の助けになる情報をたくさん学べた、実践的でとても楽しかった」とあり、よい時間の使い方が出来たと思う。

フランス語ではなそうⅡ (ダレン モルガン、火曜日 14:30～16:00)

授業目的: 日常的な出来事について、受講者全員で議論する事により、フランス語の知識と話す楽しさを身に付ける。留学の準備を行う。

授業内容: フランス語クラブのような、留学中によく使う単語、目的地について情報収集する。またリアルなフランス語を身に付ける。

アンケート結果分析・来期の課題: 学生全員のレベルが高かったため、留学した学生と交流ができ、会話をメインとした授業が毎回できた。授業の中で、学生が発言する機会を多く設けた結果、フランス語の上達が目に見えてわかった。また、楽しみながら、フランス語を使って意見を言えるようになったと思う。単にフランス語を話すのではなく、自分の考えを表現したり、他の人の意見を聞いてから、自分の意見を主張したり、議論することができた。授業は、小人数のグループで、気楽で明るい雰囲気で話しやすかったと思う。会話を楽しみながら、具体的な情報を集めることができた。フランス語を話す力と話す速さは、かなり上達できたと思う。アンケートでは、「ネイティブの先生との距離が近い、気軽に話せるのがよかった」「フランスでの話し言葉や日常生活についてたくさん知れた、即興でロールプレイをしたのが自分の語学力を試せた気がしてよかった」「主題以外にいろいろ学べるところがよかった」等、学生も楽しみながらフランス語が上達できた授業になったと思う。

めざせ仏検準2級 (ダレン モルガン、金曜日 14:30～16:00)

授業目的: 仏検に合格するための授業。試験に出る問題を繰り返し解き、書く練習をし、二次

試験での面接の準備をした。

授業内容: 聞き取り、書き取り、または会話を通して、徹底的な練習のプログラムを行った。試験に出る単語と文法のルールをしっかりと学び、日常生活で使うフランス語(熟語、ことわざ等)も勉強した。仏検二次試験の面接の準備、画像の描写の練習も行った。

アンケート結果分析・来期の課題: 仏検の一般的な対策はもちろん行ったが、もっと楽しく勉強できるように工夫を考えた。毎回違う練習をしたことによって、仏検用の語彙だけでなく、日常でよく使う単語の知識も増えたと思うし、発言力と書く力も増えたと思う。アンケートでは、「フランス語を使う機会がたくさんあって楽しい」「形式ばらず、学びたい事がすぐ聞けて楽しく授業ができる」「全員で楽しみながらやろうとしてくれた、仏検だけでなく色々な話ができよかった」「発言や授業参加がしやすくてよかった」とあり、仏検前の学生にとって、良い授業ができたと思う。

フランス語クラブ初級 (ダレン モルガン、金曜日 16:10~17:40)

授業目的: 「語学の授業」というより、「フランス語クラブ」のような雰囲気にし、「フランス語を楽しむ」ということを意識して行った。授業の内容については、学生主体で決めていき、学生が望む活動をネイティブ教員と一緒に行うことで、語学を学ぶことは楽しいということを再認識してもらえるように努めた。

授業内容: 授業の内容はフランス語学科の宿題、会話、ゲーム、料理イベントとフランス語で映画鑑賞であった。毎回二本立てで授業を行った。一方はフランス語の映画を上映し、もう一方はゲーム、会話の練習等を行った。

アンケート結果分析・来期の課題: 毎回、学生がやりたい事を決めることができていたが、やりたいことが特にない学生、決められない学生が多く、結局、教員がいくつかの内容を準備することになった。結果的に、面白い授業になったと思う。しかし、女子学生はネイティブ教員と話したくても、男子学生が既にネイティブ教員といると、女子学生は映画を選択する等、男性と女性が一緒に参加しなかったことに驚いた。ある学生は、毎回映画鑑賞をしていたので、会話をしようと誘ったが、結局映画鑑賞を選択した。映画は、出来るだけ内容がわかりやすいものを選んだが、字幕がなかったため、学生はよくわからなかったとの事なので、今後は字幕付きのものか、更にわかりやすい映画を選びたいと思う。アンケートでは、「普通の授業より単語が頭に入りやすいところがよかった」「ゲームや映画などを通してフランス語を学べる点がよかった」「とにかく楽しくて分かりやすい」とあり、フランス語クラブの目的が達成できていると思う。学生がフランス語を楽しみ、難しい言語ではないことを感じてもらうように努めた。

【スペイン語】

スペイン語圏世界とグローバリティ 1 / El Mundo Hispánico y la Globalidad (Sergio Neri, Friday 4th period)

Objective: To understand the formation of the Hispanic world in 3 phases of Globalization:

Phase 1, the fusion of different languages and cultures of the Iberian peninsula with foreign cultures such as Arabic. Phase 2, expansion of the Spanish culture and language to America, Africa, Asia and its fusion with local cultures. Phase 3, the formation of a pan-Hispanic culture, scenarios and challenges of the present and the future. We'll learn accessible academic vocabulary used in universities of Hispanic countries.

Course contents: The course content was based on a brief description of phenomena and processes that have given rise to cultural, political, economic and social systems that are shaping the Hispanic world. These factors were analyzed from the theoretical perspective of Globality of Peter Sloterdijk and other authors' theories.

General Overview and agenda: Topics were covered in a general but solid manner, with simple, easy to understand terms for students who have completed the level B1 and above. These terms, despite being simple, are used in university education in Spanish-speaking countries. This can be useful for the students aiming to study in Hispanic countries and for those who will make a research in Spanish.

比較文化研究（比較文化セミナー） / Estudios Culturales

Comparativos (Sergio Neri, Tuesday 3rd period)

Objective: To try to understand what culture is, how a person relates to its own culture, how cultures relate with other cultures and how they interact.

Course contents: We analyzed the influence of the culture on its products such as films, music, food, etc. We used theories of culture, and Post-colonial studies to try to explain cultural phenomena such as Interculturalism, Transculturation, Acculturation, Pluriculturalism, Cultural Semiotics, etc. We have compared the cultures of the Hispanic countries and Japan in aspects such as thinking, beliefs, attitudes and activities of daily life. We learned easy academic vocabulary used in Spanish-speaking universities.

General Overview and agenda: Students had very active discussions and showed a high sense of respect and understanding for the culture of the other. That will certainly produce good results when students confront multicultural issues in their future careers.

リサーチ発信プロジェクト: グローバル科目 / Metodología y Léxico para Proyectos de Investigación (Sergio Neri, Wednesday 3rd period)

Objective: To better understand some research methods, to manage a research project and to

acquire certain vocabulary in academic Spanish related to the subject. That will help students to join regular courses in Spanish speaking universities and to conduct research in those countries for their assignments or for their graduation papers.

Course contents: Strategies for choosing a subject of research and how to delimitate it. Types of research approach. Research methods. Research design. Research management. How to design and conduct interviews and surveys, discourse and vocabulary. Data analysis. Discussion. Each topic includes academic vocabulary and discourse analysis.

General Overview and agenda: Students learned some strategies that help choosing a subject for research and delimitating it into feasible objectives, they chose a research method that suited their objectives and made a group research that included interviews and a survey. This proved to be useful because most students did not have a clear idea of what they wanted to research during their study abroad, which was going to start the next semester. Then they learned how to analyze the results of the interviews and how to design a survey accordingly in order to find out if the opinions expressed in the interviews were shared by other Japanese. The students commented that they had lots of fun in these last two steps of the research. Finally, we learned how to analyze and discuss the results of the surveys.

日本文化をプレゼン / Habilidades de Presentación sobre la Cultura

Japonesa (Sergio Neri, Wednesday 4th period)

Objective: The aim of the course is to help students develop a project in which they make a presentation of a certain topic related to the Japanese culture in order to promote a better understanding of Japanese culture when students go abroad in exchange programs with universities of Spanish-speaking countries.

Course contents: We learned how to select topics of Japanese culture in order to make a presentation of them. We will see how to find information on the selected topic and how to organize ideas in a text to be used as a guide for the presentation. We moved into planning and conducting presentations, dividing them into sections in a logical sequence, using interesting graphics, how to handle the interaction with the public, create interest and participation, handle questions and answers, etc. The course included easy-to-learn academic vocabulary used in universities from Spanish-speaking countries.

General Overview and agenda: Students were very active, they did not hesitate practicing in every class the different skills we learnt. At the beginning, they found it difficult to select the information that was essential for their presentation and to discard the information that was not pertinent. We learned strategies for reading and for searching information. With this and a lot of practice they managed to evaluate text content and discern useful information.

時事問題読解 / Comprensión Lectora de Noticias de Actualidad

(Sergio Neri, Monday 2nd period)

Objective: The aim of this course was to help students discern different types of text used in news. Students learn reading strategies and practice them thoroughly. They get awareness of discourse and use it to better understand the author's intention and the opinion of people, institutions, etc. who play a role in today's context of Spanish and Latin American societies.

Course contents: We analyzed the discourse and its different types in the text, what is Pragmatics and its use in different kinds of text. We studied strategies to read and understand texts. We learned academic vocabulary used in universities in Spanish speaking countries. We reviewed different styles and the use of metaphor, irony, idioms, etc. in news about the current situation of Spain and Latin America.

General Overview and agenda: When students were presented actual pieces of news from authentic media, they thought they could not read such big texts, containing many idioms and academic words, but they got a pleasant surprise when they actually did it after analyzing the text by smaller sections and applying the different strategies we saw in class.

DELE B1 対策 / Preparación para el examen DELE B1

(Sergio Neri, Monday 4th period)

Objective: The aim of this course is to help students acquire the necessary strategies for succeed in the DELE B1 test to be conducted in May and in November.

Course contents: We learned strategies to comprehend medium sized texts such as articles, news, interviews, etc. Also we learned how to write short texts such as letters, comments, etc. We developed strategies to understand short dialogues and other examples orally. We worked on strategies for expressing and interacting orally. We used many practice tests for DELE B1. To be certified in DELE a big amount of vocabulary is required, therefore we studied vocabulary dividing it into semantic clusters and study as much at home as in class.

General Overview and agenda: Step by step, students developed the necessary skills required in this test, nevertheless there the dates of the application of the test do not coincide with the completion of the course, creating as a result, great pressure for the students and professor in order to work enough to improve the skills in time for the May test. Therefore, it was necessary to employ extra time to work with the students who were going to do the test in May. That extra time was dedicated from the iContact time, so that we were able to work two sessions of half a koma per week. A lot of extra homework was necessary as well.

DELE A2 対策 / Preparación para el examen DELE A2

(Sergio Neri, Thursday 4th period)

Objective: The aim of this course is to help students acquire the necessary strategies for succeed in the DELE A2 test to be conducted in May and in November.

Course contents: We learned strategies to comprehend medium sized texts such as articles, news, interviews, etc. Also we learned how to write short texts such as letters, comments, etc. We developed strategies to understand short dialogues and other examples orally. We worked on strategies for expressing and interacting orally. We used many practice tests for DELE A2. To be certified in DELE a big amount of vocabulary is required, therefore we studied vocabulary dividing it into semantic clusters and study as much at home as in class.

General Overview and agenda: Step by step, students developed the necessary skills required in this test, nevertheless there the dates of the application of the test do not coincide with the completion of the course, creating as a result, great pressure for the students and professor in order to work enough to improve the skills in time for the May test. Therefore, it was necessary to employ extra time to work with the students who were going to do the test in May. That extra time was dedicated from the iContact time, so that we were able to work two sessions of half a koma per week. A lot of extra homework was necessary as well.

初級スペイン語 A1・クラス 1 / Español Básico Nivel A1・Grupo 1

(Sergio Neri, Tuesday 4th period)

Objective: The aim of this course was to help students get the skills of a language that had never studied before. During their 1st year, students need more support in getting the founding of a foreign language. Cultural aspects of the target language should also be included in the course in order to help them communicate more effectively in Spanish.

Course contents: The contents of this course were selected in order to correspond with the contents of the courses of Spanish from the regular curricula. This way students were able to see the same contents from more than one approach, which can help students who had difficulties with a determined topic. Additionally they had more opportunity to practice the knowledge already acquired in their regular courses.

General Overview and agenda: Because of the large number of students, the quality of time dedicated to each student was going to decrease considerably. As a solution to solve this the class was divided into two groups of 24 and 25 students and half a koma was dedicated to each group. Although the class time was reduced to half the time, it was considered better to give attention to every one of the students because this was their 1st year and they needed more contact with Spanish language. Reducing the number of students in order to have a full 1 koma class, would let half the students without any class at all. The result was that many students got very good motivation for Spanish language and for iCoToBa courses.

初級スペイン語 A1・クラス 2 / Español Básico Nivel A1・Grupo 2

(Sergio Neri, Friday 2nd period)

Objective: The aim of this course was to help students get the skills of a language that had never studied before. During their 1st year, students need more support in getting the founding of a foreign language. Cultural aspects of the target language should also be included in the course in order to help them communicate more effectively in Spanish.

Course contents: The contents of this course were selected in order to correspond with the contents of the courses of Spanish from the regular curricula. This way students were able to see the same contents from more than one approach, which can help students who had difficulties with a determined topic. Additionally they had more opportunity to practice the knowledge already acquired in their regular courses.

General Overview and agenda: Because of the large number of students, the quality of time dedicated to each student was going to decrease considerably. As a solution to solve this the class was divided into two groups of 24 and 25 students and half a koma was dedicated to each group. Although the class time was reduced to half the time, it was considered better to give attention to every one of the students because this was their 1st year and they needed more contact with Spanish language. Reducing the number of students in order to have a full 1 koma class, would let half the students without any class at all. The result was that many students got very good motivation for Spanish language and for iCoToBa courses.

第 2 外国語としてのスペイン語 1 / Español como Segunda Lengua

Extranjera A1 alto

(Sergio Neri, Thursday 5th period)

Objective: This course is for Kendai students who are not specializing in Spanish but are taking this as a second language as part of their program. The aim of this course is to help students develop a level of Spanish that enables them to join other courses of iCoToBa addressed to students of the Spanish specialty. Since the former have less time of Spanish instruction, more practice is needed for them in order to communicate with the students of Spanish department.

Course contents: The contents of the course were coordinated according to the contents of the language classes they already had as part of their curriculum, so that it covers the same subjects for practice and developing a good performance as well as new topics considered necessary to improve their communication.

General Overview and agenda: The level of the students were very different on person to person basis, as consequence of this the results were mixed. Some students were motivated enough that they were frequently found in iCoToBa talking in Spanish with students of the Spanish department, their communication was effective. But the results on other students were more limited and they were not able to sustain conversation in Spanish with other students. More

work needs to be done in order to find possible answers to this disparity.

【ドイツ語】

ドイツ日常語と実践会話 I - Deutsche Alltagssprache und

Sprachpraktisches I (Morten Hunke, Tuesday 1st period)

Objective: How to translate your classroom language skills to real live communication – even for students at beginner level? How to apply the language learned from regular classes more efficiently. There will be a strong focus on spoken language in German. This class was largely based upon: *Und du? Sprechsituationen im Unterricht - NEU!*

Course contents: Every lesson started off with games or other activities repeating vocabulary and structures covered in prior lessons. An emphasis was placed upon mastering certain fields of simple communication well: colours, appearance, character, and food items etc. Students regularly engaged in speaking tasks in pairs, small groups. Regular writing tasks were also set.

General Overview and agenda: The agenda was to build as much as possible on last year's (positive) experience. This wholly succeeded. The student speaking ratio was even improved upon. Teacher talking time was regularly below 25% (as measured by an external observer). Students regularly engaged each other speaking for almost 50% of the time. Again regular haiku/tanka (homework) tasks were set – on average 2 short writing tasks per week. For the first time this semester students produced their own performances of haiku and tanka on video. According to the survey, student's motivation was increased for virtually all (4.8) participants. This is a very encouraging figure. The students positively responded to a lot of time given for conversation and to the frequent repetition of exercises. All students thought the textbook and the explanations given by the teacher were useful.

ドイツ日常語と実践会話 II - Deutsche Alltagssprache und

Sprachpraktisches II (Morten Hunke, Wednesday 1st period)

Objective: How to translate your classroom language skills to real live communication – even for students at beginner level? How to apply the language learned from regular classes more efficiently. There will be a strong focus on spoken language in German. This class was largely based upon: *Und du? Sprechsituationen im Unterricht - NEU!*

Course contents: Every lesson started off with games or other activities repeating vocabulary and structures covered in prior lessons. An emphasis was placed upon mastering certain fields of simple communication well: colours, appearance, character, and food items etc. Students regularly engaged in speaking tasks in pairs, small groups. Regular writing tasks were also set.

General Overview and agenda: The agenda was to build as much as possible on last year's (positive) experience. This wholly succeeded. The student speaking ratio was even improved upon. Teacher talking time was regularly below 25% (as measured by an external observer). Students regularly engaged each other speaking for almost 50% of the time. Again regular haiku/tanka (homework) tasks were set – on average 2 short writing tasks per week. For the first time this semester students produced their own performances of haiku and tanka on video. According to the survey, student's motivation was increased for all (5.0) participants. This is a very encouraging figure. The teacher's way of speaking and explanations were ranked equally as high. As were the teacher's passion towards the course and willingness to provide outside examples and to walk the road less travelled wherever deemed necessary.

ドイツ日常語と実践会話 III - Deutsche Alltagssprache und

Sprachpraktisches III (Morten Hunke, Tuesday 3rd period)

Objective: How to translate your classroom language skills to real live communication? How to apply the language learned from regular classes more efficiently. How do I overcome inhibitions/difficulties in orally making use of my German? How do I engage in everyday speech acts even if I'm not 100% sure what to say? There will be a strong focus on spoken language in German.

Course contents: Every lesson started off with specially designed speaking exercises. Throughout, the course of the class students gave prepared and impromptu presentations, performed reading out aloud scenarios – after having identified pauses and major phrasal stress - wrote their own dialogues, engaged in role play and drama exercises. An emphasis was placed on aspects of popular culture (football, food and music).

General Overview and agenda: The agenda was to compliment the regular classes of the second and/or third academic years as accurately as possible. On many, if not most, points on the questionnaire students gave this class a 5 out of 5: language learning methodology, teacher's way of speaking and delivering explanations, materials, teacher's degree of commitment, outside explanations and practice opportunities, teacher's passion towards the course, and last but not least an increase in the students' own motivation. Because the class was very small indeed, the students wished for somewhat larger numbers. This can only be supported by the teacher himself. Since students choose their own extracurricular iCoToBa classes on top of regular classes, however, little can be done to influence such factors from an administrative perspective. It is planned to do extensive advertising for the corresponding course in the coming semester.

ドイツ日常語と実践会話 IV - Deutsche Alltagssprache und

Sprachpraktisches IV (Morten Hunke, Tuesday 4th period)

Objective: How to translate your classroom language skills to real live communication? How to apply the language learned from regular classes more efficiently. How do I overcome inhibitions/difficulties in orally making use of my German? How do I engage in everyday speech acts even if I'm not 100% sure what to say? There will be a strong focus on spoken language in German.

Course contents: Every lesson started off with specially designed speaking exercises. Throughout, the course of the class students gave prepared and impromptu presentations, performed reading out aloud scenarios – after having identified pauses and major phrasal stress - wrote their own dialogues, engaged in role play and drama exercises. An emphasis was placed on aspects of popular culture (football, food and music).

General Overview and agenda: The agenda was to compliment the regular classes of the second and/or third academic years as accurately as possible. On many, if not most, points on the questionnaire students gave this class a 5 out of 5: language learning methodology, teacher's way of speaking and delivering explanations, materials, teacher's degree of commitment, outside explanations and practice opportunities, teacher's passion towards the course, and last but not least an increase in the students' own motivation. Because the class was very small indeed, the students wished for somewhat larger numbers. This can only be supported by the teacher himself. Since students choose their own extracurricular iCoToBa classes on top of regular classes, however, little can be done to influence such factors from an administrative perspective. It is planned to do extensive advertising for the corresponding course in the coming semester.

ドイツ日常語と実践会話 V - Deutsche Alltagssprache und

Sprachpraktisches V (Morten Hunke, Thursday 3rd period)

Objective: How to translate your classroom language skills to real live communication? How to apply the language learned from regular classes more efficiently. How to overcome inhibitions/difficulties in orally making use of my German? How to engage in everyday speech acts even if I'm not 100% sure what to say? Or even how to express my thoughts? There will be a strong focus on articulatory and acoustic phonetics, prosody, and spoken language.

Course contents: Every lesson started off with specially designed speaking exercises and games. Throughout the course of the class students gave short prepared and impromptu presentations, or were reading out aloud existing or self-produced scenarios. Topics were selected according to usefulness for everyday scenarios rather than level of language difficulty. Thus, a certain tolerance level on behalf of the learner to produce language material without understanding the entire vocab and/or grammar was an important factor.

General Overview and agenda: The agenda was to compliment the iCoToBa and regular classes of the first academic year as accurately as possible. Thus, for this class no textbook materials were used. The class aimed at creating students' awareness of and skills in comprehending and producing German. Students were overwhelmingly satisfied with the class. 4.7 recorded their level of motivation had increased. In particular did students appreciate the regular game activities, aimed at improving all aspects of students prosodic ability and competence. One student requested more explanation in Japanese and there was concern voiced over the tiny classroom. With more than 30 students in the class and way in excess of 25 present every week, the classroom was a joke. This must be addressed next semester.

検定試験対策 - Testvorbereitung (Morten Hunke, Thursday 4th period)

Objective: Preparation for German language tests on levels A1 through to B2. A particular focus will be on understanding and preparing for the differences in format. The course requires students to practise and study individually. This class aims at preparation for the Goethe Institut/Österreichisches Sprachdiplom exams rather than the Japanese format 独検.

Course contents: Every lesson focus entirely on the student's own needs and requirements for study. Students produce their own count down timetable for test prep – with help, assistance, and feedback from the teacher. They then engage in the weekly prep activities they set themselves. In class they mostly report and their progress and on difficulties encountered. Principles for tactics in approaching test tasks were discussed and practised on mock test materials.

General Overview and agenda: The language ability levels of students differed considerably. Despite the low (A1) entrance level criteria, students in first year cannot attend this class in semester 1. Their language abilities are simply too basic. Also, since the university sponsors participation in 独検 only – a test format that is not recognized in Europe at all – more thought has been given to how to design a test preparation class that best meets students' needs and expectations. This year there was participation in the class of around 8-12 students. In fact, when the ÖSD exam in June approached even more students joined the class informally. Out of 13 students taking the exam, eleven passed outright. Only two students will have to retake parts of the exam. A very good success for our work at iCoToBa in terms of supporting test preparation.

発音、パフォーマンス - Aussprache und Performance

(Morten Hunke, Monday 3rd period)

Objective: This class specifically addresses pronunciation from a performance vantage point. Students are introduced to a method to improve their own speaking and performing abilities using an intensive approach making productive use of drama pedagogy and

(canonical) poetry. To give a poetry performance at a semester final event in front of a public audience. This semester, for the first time, a short comical play was added to the agenda. This was done in order to keep increasing what is demanded of students in terms of performance abilities.

Course contents: Every lesson started off with activities taking from drama pedagogy. These were aiming to improve the students' ability to control voice projection, facial expressions, gestures, and body posture in relation to an audience. The safe non-intimidating environment within the group and the classroom were of vital importance here. Students, furthermore, picked a poem with which they thenceforth engaged with for a large part of the semester.

General Overview and agenda: Eight students started the course this semester and all eight joined in the semester final Gedicht+Performance *plus α*. A success in itself. An encouraging majority (4.0) commented they had improved their language skills using the newly introduced method. The request for speaking materials outside the realm of poetry from last semester has been answered. Students felt their motivation to study further had improved considerably (4.8). 4.9 commented they could feel the teachers' passion towards the class and the subject.

日本紹介 - Japanbotschafter (Morten Hunke, Wednesday 3rd period)

Objective: This class will feature a number of highly practical activities to make you more prepared for your student life in Germany. There will be input from current German students and Japanese Kendai returnee students. Students will (re-)discover Japan and Japanese culture from the vantage point of a foreigner. This outlook will be added onto with their own view and understanding of things. The class will be aiming at providing practical skills wherever possible.

Course contents: The most important lesson to take away from this class is the difference in perception about things Japanese from individual to individual and from outside and inside Japan. Stereotyping ought to be avoided wherever possible. Students actively learned how to introduce their own country and aspects of its culture in the target language German. Multimedia resources were used as well as a number of presentation and discussion formats in order to liven up the cross cultural content of the class. Aspects of popular culture and student life in both countries were emphasised in terms of topics. Some of the posters produced contributed actively to showcasing the German partner universities at Open Campus and Germany study events.

General Overview and agenda: The class make up represented students from year 2 and year 3. The atmosphere in class was very good. A lot of time could be spent on preparing students actively for study abroad experiences. Since the class was comparatively large this semester a lot of project work was engaged in. Students produced videos in groups, introducing the university and Japanese dishes. Students overall liked the class and their

motivation to study further was largely increased (4.7). Up 0.5 points from last semester 4.3 of students felt their language ability had improved through participation in the class.

ドイツの文化：留学ケア - Deutsche Kultur>

Auslandsstudiumsnachbetreuung (Morten Hunke, Tuesday 2nd period)

Objective: This class is taking a closer look at German food culture and the sphere of cross cultural issues between speakers of German and Japanese. It is aimed at both returnee students and students who have not (yet) been abroad. Practical speaking and presentation as well as research skills are the focal aspects of attention.

Course contents: The class aims at taking students with higher than average ability in German courtesy of a study abroad stay further and to allow them to improve their language skills even further. The content featured debates about social issues in Japan and Europe, looking back at one's past and childhood, discussing job prospects and job hunting practices in Japan and Germany and many other engaging subjects.

General Overview and agenda: Finding a suitable date and time for the class proved tricky at the beginning of the semester. However, in the end a slot could be found that at least 6 students a week could make. In reality, there were seldom more than 3 students present. This class is especially suffering under the job hunting activities students need to undertake. Still 4.8 of the students felt their motivation had increased. The casual atmosphere was also commented on positively. Most students thought the course met its aims (4.6). More student speaking time and opportunities would be much welcomed by both the students and the teacher. However, with the extreme irregularity in attendance this is something not easily accomplished.

リサーチ発信プロジェクト - Forschungs- und Präsentationsprojekt

(Morten Hunke, Thursday 5th period)

Objective: Doing research in the target language German is an important aspect of preparation for studying abroad in a German speaking country. Academic practices vary considerably to those in Japan. This is something students will be led to practically embrace throughout the course of the class. In three stages: group presentation, pair presentation, the level of responsibility for the individual student gradually rises.

Course contents: For the group presentations, students presented German language films in groups of twos and threes. The pair presentation was a written report interpreting and analysing the findings from interviews with German speakers and Japanese natives about their habits as to how to celebrate Christmas, New Year's Eve and the New Year. For the individual presentations a number of German (popular) cultural topics were chosen. The presentations took place on one day. They were video recorded.

General Overview and agenda: The atmosphere in class was very good. Although, it became

apparent that especially for the students from year 2 it was sometimes not easy to complete all the tasks with ease. All students performed in the final presentation event. The blend of students from year 2 and 4 made worked very well this year and has to be deemed maximally beneficial learning environment for all involved. Almost all participants felt their motivation to study the target language and culture further to have increased through participating in the course (4.9). Students also largely felt their language level had improved (4.6).

【中国語】

中国と日本の比較文化 （陳晏、木曜日 12:50～14:20）

授業目的: 日中文化をテーマに、両国文化・価値観がどのように似ているのか、違っているのかを比較し、日中文化の質性を明らかにすることを目的とする。

授業内容: 学生が興味のあるテーマについて考え、ディスカッションを行い、それぞれの見方・感想を一人ずつ発表した。その後、総括して日中文化の似ている所と違う所を解析していく。テーマとして、「日中若者の就職観について」「中国人観光客が漁村の商品を爆買する」「日本衆議院が新安保法を表決する」「海外の中国語の奇遇」等を扱った。原則として、中国語で授業を行い、表現できない場合は日本語を使用した。語学力を鍛えながら、日中文化の理解を向上させた。

アンケート結果分析・来期の課題: 「普段の生活に対する意識が変わった」「中国語での表現・通訳能力が付いた」「慣用語や成語などの使用」「発言回数の多さ」などのアンケート結果から、学生に日中文化について考える機会を与え、普段勉強しなかった用語を身に付けさせることができたと思われる。更に、自分で考え、発言できる能力はある程度伸ばした。来期の課題は、学生数が少ないので、もっと一歩進んだ議論が必要ではないかと思う。

リサーチ・発信プロジェクト （陳晏、木曜日 14:30～16:00）

授業目的: 中国語の新聞を通し、ホットニュースなどの話題について議論を重ね、実用的な中国語を滑らかに話し、中国の新聞を楽しむことを目標とする。

授業内容: 毎回精選された約 300～400 字の新聞記事を読んだ上で、一人ずつ発言する機会を与えることによって、仲間と一緒に議論して認識を高めた。その内容として「ネット・ショッピングについて」「割り勘について」「スマートホンについて」等を扱った。

アンケート結果分析・来期の課題: 「中国語の表現力などが鍛えられた」「一人ずつ発言する機会を得た」などの点で、学生から評価された。更に、「中国社会がある程度理解できた」とのことで、中国への知識や理解などをある程度高めたと思われる。来期の課題として、中国の事情について、多くの学生が関心を寄せる話題をより幅広く議論していく。

発音特訓講座 A、B、C、D

(刘 庆普、金曜日 8:50~9:35、9:35~10:20、10:30~11:15、11:15~12:00)

授業目的: 中国語発音の基礎となる声調や、日本人にとって特に難しい発音をクリアし、正しい発音を身につけることを目的とする。

授業内容: 基本的な発音要領を説明し、一人一人に発音させたり、ピンインを読ませたりして、それぞれの問題点を改善する。中国語の短文や詩を読ませたり、指で数字の遊びをしたり、子供向けのなぞなぞを読ませたりして、学生たちが気楽に発音できるようにいろいろ工夫して採り入れる授業にする。

アンケート結果分析・来期の課題: 「一人一人発音する機会を設けて助かった」、「少人数で十分練習できた」、「単語を読むだけでなく、歌を歌うことで楽しく学べた」、「一つ一つ発音を細かく、しっかりとアドバイスをしてくれた」、「アットホームな雰囲気が良かった」、などなど学生たちから満足の声を頂いた一方、「時間が短すぎる」、「歌などがもっとほしい」、「もっと発音の練習がやりたい」という意見もあった。この授業は教員の説明や解釈で成り立つ授業ではなく、一人一人発音させて訂正しての繰り返しだから、ほかの講義とは違う。この意味では確かに 45 分は短い。これから、もしまたこの講義を担当させていただく機会があったら、より良い充実した授業になるよう工夫したい。

中国語で日本を紹介する (刘 庆普、金曜日 12:50~14:20)

授業目的: 日本の生活や文化が中国語で紹介できるように、中国語での発信力を高めることを本授業の目的とする。

授業内容: 受講者は 6 人である。まず、みんなで中国人に知ってもらいたい話題を話し合いによって決める。それから、3 つのグループに分かれ、同じテーマについて三つの面から調べ、発表の準備、発表という三つの段取りを取ってやっていく。この授業は全部で 13 回あり、3~4 つの話題をめぐる、今まで習った言葉で、自分のできる表現で発表してもらう。最後に、それぞれ発表したものをまとめた形にできたらよいと思う。

アンケート結果分析・来期の課題: 学生たちは自分の目標を持っているので、積極的に授業に取り組むことができた。学生からは「一人一人が発表をし、そのことについて全員で話すことがよかった」、「たくさん発表ができた」、「先生が一人一人の原稿を丁寧におしえてくれた」、「いっぱいしゃべられた」等という評価があった。これからの課題として、この授業は中国語の発信力を高めることを目的としているので、作文を作って、発表の時それを朗読するというやり方だと目的達成はできない。今後、これについてもっと工夫しなければならない。

【多言語】

Collaborative Project (Fern Sakamoto & Atsumi Miyatani, Wednesday 4th period)

Objective: To learn fieldwork skills and apply them to interview local businesses and gather

information about them.

To consider traditional Japanese techniques and crafts from an "outside" perspective and find ways to explain and promote them effectively to a range of audiences.

To write and present polished articles in both Japanese and English effectively describing and promoting one local business.

Course contents: In the first part of the class students learned techniques for interviewing and fieldwork. They were assigned groups and local businesses and prepared questions conducted on-site interviews. Students then came up with concepts to focus on and created articles in various languages promoting the businesses to different audiences. The course culminated in a presentation and workshop session where students presented and discussed their concepts and final articles with company presidents and representatives.

General Overview and agenda: This course was without doubt the most demanding of the iCoToBa classes offered. Students indicated on course-end surveys that the workload was indeed heavy, but that the course was rewarding and that they felt that they learned and grew a great deal. More than specific language growth, students tended to feel that they benefited in areas of leadership, group work, corporate experience and communication skills. The final weeks of the course were hectic and students devoted a great deal of their own time to their final presentation preparations. Future courses need to be better planned to facilitate a more even distribution of effort across the course.

3.2. 2015 年度後期開講授業

【英語】

Short Essay Writing (Morita Chua Liang, Monday 1st period)

Objective: To gain an understanding of appropriate composition structure.

To acquire set phrases and vocabulary used in academic writing.

To develop critical thinking skills and be able to write in a logical, well-argued manner.

Course contents: Students studied appropriate structure, flow and language to use in simple academic writing. They developed writing and editing skills and extended their academic vocabulary, while gaining practice with timed and untimed writing tasks.

General Overview and agenda: This class was also offered online for students who had a timetable clash preventing them from attending. Surprisingly, the students who were most dedicated to submitting assignments on time were those who were participating in an online capacity. This suggests that the online option is worth continuing. Informal feedback gathered from students suggests that the workload for this course was too heavy. Students agreed that it was necessary to write a lot in order to improve, but they would prefer more in-class writing time and fewer out-of-class writing assignments. This will be

accommodated to some extent in future classes.

J-Ambassador (Morita Chua Liang, Monday 3rd period)

Objective: To reflect upon Japanese culture, identifying stereotypes, reality and possible foreign perspectives.

To acquire vocabulary necessary in talking about Japanese traditions and objects.

To be able to communicate information about Japan clearly and naturally, without compromising content or resorting to unnecessary dictionary use.

Course contents: Each unit addressed a different element of the Japanese lifestyle that students are likely to be questioned about overseas. Students considered reasons behind core Japanese practices and principles and practiced explaining and discussing Japanese truths and stereotypes. The course culminated in a workshop with visiting Russian exchange students, prepared and led by the class members.

General Overview and agenda: Students and teacher got to know each other very well and a comfortable class environment was achieved. All students were dedicated and attendance was consistent, so it was possible to carry out some pair and group projects. Student surveys indicated that all students felt that they had learned to better use their English to appropriately explain Japanese customs, foods etc.

TED Talks (Morita Chua Liang, Monday 4th period)

Objective: To enhance listening skills and get used to a range of accents.

To broaden awareness of world issues.

To enhance critical thinking skills and practice exchanging opinions in English on a range of topics.

Course contents: Each week students watched one TED Talk and discussed the topic it raised. Students used audio scripts to navigate spoken academic language, learn new words, and gain familiarity with English spoken in a range of accents. In the latter part of the course students chose their own TED Talk, and prepared and led the class based on their talk.

General Overview and agenda: This class attracted a range of grades and ability levels. The nature of the TED Talks materials however, meant that students were able to access it at their own level, by watching before class, or printing out the audioscript if they wished to. Attendance was consistent after the first few weeks, and the classroom dynamic was relaxed and positive. Students commented in the surveys that they especially enjoyed being able to choose their own talks and lead a class.

Global Leader (Morita Chua Liang, Tuesday 4th period)

Objective: To prepare students to function and lead in global, intercultural contexts.

Course contents: The students took turns to lead a lesson and choose a topic relevant to global leadership.

General Overview and agenda: The students were keenly aware of the issues in today's world of

globalization and intensified internationalization. Through discussion we were able to analyze and delve more deeply into the issues.

News English (Morita Chua Liang, Wednesday 3rd period)

Objective: To deepen understanding of current affairs through the media.

To acquire vocabulary necessary in understanding and talking about news issues.

To practice formulating and expressing personal opinions on current events.

Course contents: Students learned about current events through print, TV and internet media.

Each class focused on one international or domestic news story. Students learned target vocabulary related to the topic and held discussions related to the issue. Students also maintained a news journal, writing about one news story each week and using this to discuss the week's news at the beginning of each class.

General Overview and agenda: Situated on a Wednesday afternoon, it was expected that attendance in this class would fluctuate from week to week depending on university guidance sessions. Nonetheless, numbers remained fairly good throughout the course. This class had a large range of abilities in participants but requiring students to prepare (via their news journal) each week ensured that all students were able to speak out at the start of class and seemed to be an effective equalizer. Students commented that they enjoyed the chance to speak with a range of people and hear different opinions. Student comments indicated that while for some the main benefit was in vocabulary acquisition or listening skills, others felt that they learned more general knowledge about the world. The fluctuating attendance meant that it was difficult to do any project work or in-depth group work in this class, but it was an appropriate "lighter" class for Wednesday afternoons.

Survival English (Morita Chua Liang, Friday 1st period)

Objective: To develop effective strategies for dealing with new situations.

To acquire useful situation-specific English expressions.

To enhance natural communication skills.

Course contents: Each unit students looked at a different social situation that students might encounter abroad. Students were presented with possible strategies and useful expressions to help them navigate such situations, and practiced speaking in pairs and small groups. There was a lot of role-play and speaking practice time in this class.

General Overview and agenda: This class was popular among first grade students. The class atmosphere was very positive. Students were nervous at the beginning of the course, but were able to relax and overcome their fear of mistakes as the course progressed. Students enjoyed this class and felt that their conversational skills and confidence improved as a result of the course. Students commented positively on the opportunity to speak a lot without being limited to specific grammatical structures or questions. This course appears to have met the above objectives for students, and to have been a good motivational start for these first grade students.

Topic Talk (Fern Sakamoto & Teobesta Tesfa Endrias, Friday 3rd period)

Objective: To learn useful vocabulary related to everyday topics and those of personal interest.

To enhance natural conversational ability over a broad range of topics.

To develop effective communication strategies.

To gain confidence and enjoy communicating in English.

Course contents: The main goal in this class was to talk a lot. Each week students learnt some new words and expressions related to an everyday topic and spent most of class time talking with the guidance of two students assigned to lead the discussion. Students practiced giving opinions, asking questions, and keeping up a natural conversation while building their confidence and fluency. Informed of each week's topic in advance, students had to prepare ten new words related to the topic as preparation before class.

General Overview and agenda: It was a bit of a challenge to take over a class mid-semester and I wish we had had a class to get to know each other a little better before we picked up from where Fern had left off. As the students were meant to lead a class and they had already prepared their material, both our personal introductions and their efforts suffered a bit. With time, the atmosphere got more relaxed but that they spent most of the class talking about that day's prepared topic meant that it took much longer than necessary to break the ice. As a whole, the students were very keen to talk and they did not need much intervention to express themselves in their little groups while those leading the class came well prepared to get them going beyond the time allocated for their activity. Each pair got to experience what it is like to be on the other side of the classroom when they played the role of the teacher. The process of researching, preparing and presenting their activity to classmates proved a valuable experience to them, teaching them at the same time what it means to try to interest unmotivated or even combative students with what had taken so much effort to prepare. I rarely had to intervene as the teacher, however. Having the support of a partner as well as their complimentary set of skills helped the leading pair see each other through some of the minor difficulties. As participants, not all students were serious about their vocabulary preparation but so long as they were present, most proved diligent and cooperative. That their classmates had chosen interesting topics for them to discuss while actively encouraging them to express their varying opinions assured the success of every class.

What's so funny? (Fern Sakamoto & Teobesta Tesfa Endrias, Friday 4th period)

Objective: To watch/read examples of comedy from around the world and discuss the humour therein.

To consider what makes people in different parts of the world laugh.

To examine linguistic mechanisms involved in humor understanding.

Course contents: Students watched or read various comedic episodes and considered what people in different parts of the world tend to find funny. We discussed linguistic and cultural aspects of humour after understanding the basics of the (neuro) biology of laughter

itself. Students found their own examples of humour popular in specific parts of the world and considered just what made them so funny.

General Overview and agenda: Trying to explain and understand humour can easily kill the enjoyable aspect of what makes something exactly funny. However, the six students who attended each class of the semester after I took over had the intellectual curiosity and ability to see beyond the challenge. They seemed to enjoy the theory as much as the laughter to be had while watching examples of comedy. As a result, that none of them had done the reading assigned came as a surprise. They never failed to come to class without having completed their group work, however and that helped lessen any tensions that might have ruined the otherwise excellent atmosphere, which had quickly been established right from the start of our meeting. In fact, each pair's presentation addressing the humour in an English speaking country, complete with the appropriate examples and theoretical explanations was impressive while the way they expertly and creatively weaved together what we learnt in class when producing their humorous routine exceeded my expectations. In the, I was happy to learn that they had found the class both enjoyable and educational, having found an answer to the questions that had motivated them to enroll.

Research Project and Presentation 1 (Brett Hack, Monday 2nd period)

Objective: To be able to work effectively in a group.

To learn how to manage large tasks and set schedules.

To gain experience giving a presentation in English.

Course contents: Students completed long-term group projects of their choice, while learning the skills and tactics needed to manage a group project. Later units showed how to design and organize a successful presentation. Projects were presented during the final week of class.

General Overview and agenda: In this semester, I introduced set of "planning documents" that aided students in planning out the steps of their project and dividing work. These connected to the "goal phrases" system from last semester to encourage more English use. This system worked well in this class, which consisted of four first-year students. The extra guidance allowed them to successfully complete the meeting sections of the class.

Comparative Study of Cultures: The English-Speaking World 1

(Brett Hack, Monday 4th period)

Objective: To learn more about the English-speaking world.

To increase interest in travel and global involvement.

To gain experience giving a presentation in English.

Course contents: Each week focused on a different country or region. Students participated in an interactive lecture interspersed with discussion questions and activities. In the final week, students gave presentations on regions of their choice.

General Overview and agenda: This class had a number of students from many different

departments. Although it was a quieter class than usual, students still paid attention and participated well. Survey results showed that many students enjoyed the audiovisual aspects of the class. The presentations in this class displayed a good command of visual aesthetics, in part because many students had taken my Research Project and Presentation class before.

What is “Japan,” anyway? (Brett Hack, Tuesday 2nd period)

Objective: To develop a critical awareness of how conceptions of Japan are formed.

To be able to form opinions on and discuss contemporary social issues.

To learn how to write an academic argument paper in English.

Course contents: This class was for advanced learners, especially those who have completed a study-abroad program. It was an immersion course using real theoretical texts. We examined how concepts of Japan and Japanese identity are in need of reevaluation as the country moves through the global and digital 21st Century. Students wrote theoretical case studies and participated in a conference in iCoToBa.

General Overview and agenda: This class benefited from a large number of “veterans” – students who had taken my advanced classes before. They participated actively in their discussions and encouraged newer students who were at first intimidated by the level of difficulty. Consequently, the quality of discussion grew as the semester progressed. The final papers and conference were also great successes, and indicated the large amount of linguistic and critical skills the veterans had obtained through this kind of CLIL instruction.

Real-Life English Expressions and Idioms (Brett Hack, Tuesday 4th period)

Objective: To acquire new vocabulary and expressions used in daily life.

To shift understanding of vocabulary towards real-life application.

To develop the ability and motivation to learn new words by oneself.

Course contents: This class focused on practical vocabulary acquisition, particularly on figurative expressions, idioms, and other “natural” phrases that are difficult for beginners to learn. The class also taught beginners how to “be their own teachers” when it comes to acquiring new vocabulary.

General Overview and agenda: The simplified course structure implemented last semester continued in this semester as well. The class was a mix of first-year students and upper-classmen from majors other than English, and the emphasis on performance and free talk allowed these two groups to share experiences and benefit from contact with each other. Survey results indicated that students in this semester enjoyed the kinds of phrases the class provided.

Critical Thinking and Writing Workshop (Brett Hack, Wednesday 2nd period)

Objective: To understand the concepts and language of critical theory written in English.

To be able to express complex ideas in speech and in writing.

To prepare to write a graduation thesis or marketing document in English.

Course contents: This small workshop-style class catered to 4th year students in the British and American Studies department, as well as students in the Collaborative Project class. The instructor provided advice and editing assistance based on the particular document the students were working on.

General Overview and agenda: The survey results for this class were overwhelmingly positive. The small number allowed the instructor to focus on each student's individual academic needs. Consequently, students felt this class was instrumental in preparing them to write their graduation theses. The students in the Collaborative Project class also benefitted from ideas about "sales languages" in English.

Get Good at Speaking (Brett Hack, Wednesday 3rd period)

Objective: To put into practice language and skills studied in other classes.

To extend vocabulary related to a range of topic areas.

To gain confidence and fluency in spoken English.

Course contents: This class combined methods from 3 previous iCoToBa conversation classes – English Improv, Group Discussion, and Conversation Coach – into one course. The course featured a rotating series of units on group discussion, flexibility and quick response, and free talk.

General Overview and agenda: As with the previous semester, this course fulfilled its role of providing an opportunity for casual speaking practice. Due to many on-campus schedule conflicts, student absences were a bigger problem this semester, meaning that the rotating structure was more difficult to implement. However, the core group of students were active and got along well, making for a fun atmosphere. Survey results indicated that students enjoyed the class.

Research Project and Presentation 2 (Brett Hack, Thursday 4th period)

Objective: To be able to work effectively in a group.

To learn how to manage large tasks and set schedules.

To gain experience giving a presentation in English.

Course contents: Students completed long-term group projects of their choice, while learning the skills and tactics needed to manage a group project. Later units showed how to design and organize a successful presentation. Projects were presented during the final week of class.

General Overview and agenda: This class had the highest number of students for the course this semester, and included many self-motivated students from years 1 through 3. Consequently, project work was very smooth. Final presentations were especially creative in this class, with the presenters using realia, music, skits, and product demonstrations to increase audience interest. English use tended to trail off in the free work sessions, so I required the students to at least begin and end their meetings in English using the phrases from the

course.

Study English with Movies (Brett Hack, Thursday 5th period)

Objective: To learn methods for independent English study using movies.

To improve listening and vocabulary.

To become more motivated to study at home.

Course contents: This was not exactly a class but more of a study skills workshop. American films were shown in class. After this, the instructor showed various methods through which one might use the film at home to work on developing English language skills. These methods were utilized in class, and students were encouraged to try them at home using films of their choice.

General Overview and agenda: Due to the nature of the topic and the accessible class level, this class had an excessively high enrollment. Anticipating a number of “ghost” students due to the complications in our registration system, I did not perform a cut. Within three weeks the class stabilized to a good number of 24 students, who all enjoyed the fun atmosphere of the class. Survey results indicated that students felt the class was well-structured to suit their needs.

What is “Global,” anyway? (Brett Hack, Tuesday 3rd period)

Objective: To develop a critical awareness of the global forces at work in our daily lives.

To be able to form opinions on and discuss contemporary global issues.

To learn how to think and write critically in English.

Course contents: This class was for advanced learners, especially those who have completed a study-abroad program. It was an immersion course using real theoretical texts. We examined how language, politics, economy, culture, and identity are changing as they enter a global frame of reference.

General Overview and agenda: This class unfortunately had only two students enrolled. However, both of these students had excellent English skills and were very motivated to learn and discuss the topic of globalism. Therefore, I changed the orientation of this class towards a more casual “idea session” format, while maintaining the rigor of the reading material and contents. Instead of written essays, the final project had each student lead one full class session, choosing readings material and discussion topics.

Comparative Study of Cultures: The English-Speaking World 2

(Brett Hack, Friday 4th period)

Objective: To develop a critical awareness of the global forces at work in our daily lives.

To be able to form opinions on and discuss contemporary global issues.

To learn how to think and write critically in English.

Course contents: This class was for advanced learners, especially those who have completed a study-abroad program. It was an immersion course using real theoretical texts. We

examined how language, politics, economy, culture, and identity are changing as they enter a global frame of reference.

General Overview and agenda: This class unfortunately had only two students enrolled.

However, both of these students had excellent English skills and were very motivated to learn and discuss the topic of globalism. Therefore, I changed the orientation of this class towards a more casual “idea session” format, while maintaining the rigor of the reading material and contents. Instead of written essays, the final project had each student lead one full class session, choosing readings material and discussion topics.

TOEIC Intensive 1, 2, 3, 4

(寺澤君江、月曜日 10:30～12:00、17:50～19:20、火曜日 10:30～12:00、17:50～19:20)

授業目的: TOEIC 受験対策

授業内容: スコアのアップを目標に授業を展開した。重点としては、試験問題におけるボキャブラリーを強化させるため、品詞ごとに重要単語を確認し、反復練習により語彙を定着させていった。さらに、学生が苦手とするリスニングのパート 4 に焦点をあて、公式問題を用いたシャドウイング練習を位置づけた。また、時間配分がポイントとなるリーディングパートにおいて、出題方法や問題傾向を分析することにより、効率よく解答するテクニックが身につくように助言を与えた。授業の最後には、学習成果を確かめるため、毎回ミニ模擬試験の時間を設定した。

アンケート結果分析・来期の課題: 効率のよい授業展開が学生には好評であった。授業の中核となる問題傾向の分析を通して、解き方のコツをつかめた学生が多いようであった。試験の際、特に Part3 および Part4 の攻略法が役立ったと報告を受けた。また、本学の学生が苦手とするリーディングパートの時間配分に関しては、実践することにより感覚的に理解できたように思われる。解説と問題演習をバランスよく展開することにより、学生の集中力を持続させることができた。ボキャブラリーチェックを授業の中に位置づけたことにより、学生の語彙力強化に対する意識が高まったように見受けられた。

TOEIC Early Birds 1, 2 (寺澤君江、水曜日 8:50～10:20、金曜日 8:30～10:20)

授業目的: TOEIC 受験対策

授業内容: スコアのアップを目標に授業を展開した。演習を中心に授業を展開した。リスニングとリーディングそれぞれの攻略方法および問題解説に重点を置いた。

アンケート結果分析・来期の課題: 問題演習により、解き方のコツをつかめた学生が多いようであった。解説の時間がやや不十分であったという意見が聞かれた。特に、リスニングにおいてはスクリプトを提示してほしいという要望があった。語彙力強化に関しては、学生のニーズに応じることができていた。目標スコアと達成スコアを明確にすることで、学生の意欲が持続された。

TOEFL (寺澤君江、水曜日 10:30～12:00)

授業目的: アメリカ留学を目指す学生の TOEFL 受験対策

授業内容: 試験の 4 つのパート(リスニングセクション、リーディングセクション、スピーキングセ

クション、ライティングセクション)における攻略方法を身につけることができるように授業を展開した。スピーキングセクションおよびライティングセクションではリスニング力も必要とされるため、特に、ノートテイキングの方法の説明と演習に時間を割いた。授業全体を通して毎回サンプル問題によるミニ模擬試験を実施した。スピーキング力強化に関しては、iCoToBa の iContact(外国人教員との会話練習)を利用することを奨励し、そのための課題も個々のレベルに合わせて提供した。

アンケート結果分析・来期の課題: 少人数制の授業であったため、学生が質問しやすい雰囲気となり、好評であった。個々の弱点に焦点を合わせながら進めることができ、問題の解き方のコツをつかめた学生が多かった。授業を通して、リスニングにおけるノートテイキングやスピーキングにおける内容構成を理解するきっかけとなったように思われる。しかしながら、全 13 コマ(1 コマ 90 分)という限られた時間で 4 つのパート全てをカバーするには時間が足りないと感じた。

Successful IELTS (寺澤君江、月曜日 16:10～17:40)

授業目的: イギリス留学を目指す学生の TOEFL 受験対策

授業内容: 試験に対応するため、4 つのパート(リスニングセクション、リーディングセクション、スピーキングセクション、ライティングセクション)を全てカバーできるように授業を展開した。それぞれのパートの問題分析および解き方のコツに触れながら、演習を位置づけた。学生の苦手とするライティングは重点的に指導にあたった。スピーキングセクションに関しては、テーマを提供し、iCoToBa の iContact(外国人教員との会話練習)を利用することを奨励した。

アンケート結果分析・来期の課題: 学生が苦手とするライティングパートに関しては、プレライティングとして、クリティカルシンキングのトレーニングに時間を費やすことが求められた。留学を見通し、講座終了後も個人で継続的に努力することが望ましい。

Listening for Exams 1, 2 (寺澤君江、火曜日 12:50～14:20、水曜日 14:30～16:00)

授業目的: 検定試験(TOEIC/TOEFL/IELTS)受験対策のためのリスニング力強化

授業内容: 全ての検定試験に対応できるよう、様々な題材を取り上げた。上記の 3 種類の検定試験で出題される英文を用いて、シャドウイング、ディクテーション、内容理解、サマリーなどにより、多面的に学習を展開した。

アンケート結果分析・来期の課題: 大学受験レベルのリスニングからの脱却を図ったため、学生にとっては難しく感じたようである。理解するので精一杯となり、問題に正解するところまでたどり着けなかったことが多かった。しかしながら、この講座はチャレンジ精神を喚起することに貢献できていたようである。学生の知的好奇心を刺激するため、今後さらにオーセンティックな教材を用いた学習の機会を提供していきたい。リスニング力向上のため、iCoToBa の外国人教員による他の授業または検定対策講座との同時受講を学生に勧めたい。

Speaking for TOEFL: Integrated (寺澤君江、金曜日 12:50～14:10)

授業目的: アメリカ留学を目指す学生の TOEFL 受験対策

授業内容: 試験のスピーキングパート(インテグレイティッド)の実践演習。スピーキングセッションではリスニング力も必要とされるため、シャドウイング実践を毎時、位置づけた。また、ノートテイキングの方法の説明と演習に時間を割いた。授業全体を通して毎回サンプル問題による模擬試験を実施することにより、パブリックスピーキングの力を向上させることにつながった。

アンケート結果分析・来期の課題: 少人数制の授業であったため、学生が質問しやすい雰囲気となり、好評であった。個々の弱点に焦点を合わせながら授業を展開し、学生は自らの上達を実感することができた。この講座により、TOEFL の問題の解き方のコツをつかめただけでなく、一般的な英語のスピーキング力が向上したと感じる学生が多かった。このスタイルの授業を増やしてほしいと言う要望が多く聞かれた。

【フランス語】

フランス語圏なう。 (ダレン モルガン、木曜日 12:50～14:20)

授業目的: フランスやフランス語圏の国へ留学する事について具体的に考え、準備する。具体的なプロジェクトを通して、フランスの地方や町についての知識を共有する。フランス語で情報を検索する。フランス語を話す力、書く力、グループワークの能力を高める。

授業内容: 具体的なプロジェクトを2つ行った。一つ目は、フランス語圏の地域を紹介するためのプレゼンテーションを行った。二つ目は、そのプレゼンテーションの内容を元に、その地域の料理、伝統的な祭りなどをさらに掘り下げて調べ、iCoToBa マガジンのためのバイリンガル記事を作成した。

アンケート結果分析・来期の課題: 参加した学生のモチベーションが低く、レベルも高くはなかった。学生らが自ら選んだ地域の情報を検索し、まとめるという作業が必要であったため、教員と学生の間でのフランス語会話が、ほかの授業と比べて少なくなってしまった。グループによって作業の進み方が大きく違い、授業の進め方に気を配った。最終的には、フランス語圏について具体的な知識が得られたし、フランス語での記事作成、検索の仕方、プレゼンテーションの練習にもなったので、授業の内容的には良かったと思う。アンケートでは、「自分の興味のあることについて調べ、自分の言葉で発表するのがよかった」という意見が多かった。また、「プレゼンテーションをフランス語で行ったのがよかった」という意見もあった。プレゼンテーションのスキルアップが必要だと感じるよいきっかけになればよいと思う。授業の中で、学生同士でもフランス語で話し合いをして欲しかったが、どんなに注意しても日本語で話していたのは残念だった。

ニッポンなう。 (ダレン モルガン、月曜日 16:10～17:40)

授業目的: 日本の文化や観光スポットなど、自分の国のことについて、留学先で正しいフランス語を使って上手に説明できるように学ぶ。発表力とフランス語のレベルを向上させる。

授業内容: 日本の習慣、宗教、考え方、音楽、社会、労働や文化など、様々な事柄について、

質問し合ったり会話をしたりして、学生が自分の意見を言葉にする能力を向上することを目指した。また、学生自身が選んだ話題について、2～3名のグループで協力して取り組み、フランス語での説明や、演技を行った。

アンケート結果分析・来期の課題: 2年生としては、全体的にフランス語力が若干低いと感じた。

あまり上手く話せない学生もいたが、話す事が好きになるように、簡単な言葉で言いたい事をたくさん伝える方法を学んだ。シャイな学生も、話すことについて少しずつ自信がついていく過程が見えた。フランス語で話す楽しさに気づき、日常でよく使う単語や表現の知識がついた。授業の雰囲気作りが上手くできたと思う。アンケートでは、「外国人から見た日本、日本人がどのようなものかを様々な側面からみられたのがよかった」「予習が必要じゃない反面、その場で実践的にフランス語を使わなければならない、よい意味で逃げ場がない」という意見があった。ゲーム形式の授業内容も好評だった。

リサーチ・発信プロジェクト (ダレン モルガン、火曜日 8:50～10:20)

授業目的: フランスの地方や町とその遺産等について知識を得る。海外生活の目的・計画を組み立てる。フランス語で情報を検索して、フランス語で発表する。いろんな側面から総合的にフランス語を上達させる。

授業内容: 1つ目は、学生が興味のある町を決め、インターネットを利用して情報収集した。その結果を、2～3名のグループになり、パワーポイントで発表した。2つ目は、地方の料理や名物、伝統的な祭りなどについて調べ、これについてもグループごとに記事にまとめた。フランス語によるプレゼンテーションとクイズ等を通して、正しいフランス語、パワーポイントの作り方と人の前での発表の仕方を学んだ。

アンケート結果分析・来期の課題: 全体的にモチベーションが低い学生が多かった印象がある。うまく発表できたグループもあったが、準備不足、発表の苦手意識からうまく発表出来なかったグループも見られた。学生同士が、作業中に日本語で相談しているのが気になり、フランス語を使うようにと何度か言ったが、最後まで日本語を使っていて残念だった。記事については、どのグループも概ね上手にできていた。留学後の学生がすばらしい発表を行ったが、質疑応答が盛り上がらなかった。この授業だけではないが、これまでのアンケート等でフランス人留学生、留学後の学生と一緒に授業を進めたいという希望がある割には、実際には盛り上がりず残念であった。アンケートでは、「先輩の発表が聞けたのが為になった」「留学体験を聞けてよかった」という意見があった。自分で情報収集したことをフランス語でプレゼンテーションすることは学生にとってよい経験になったと思う。

めざせ仏検準2級 (ダレン モルガン、金曜日 14:30～16:00)

授業目的: 仏検に合格するための授業。試験に出る問題を繰り返し解き、書く練習をし、二次試験での面接の準備をした。

授業内容: 聞き取り、書き取り、または会話を通して、徹底的な練習のプログラムを行った。試験に出る単語と文法のルールをしっかりと学び、日常生活で使うフランス語(熟語、ことわざ等)も勉強した。仏検二次試験の面接の準備、画像の描写の練習も行った。

アンケート結果分析・来期の課題: 学生のモチベーションが高く、よい雰囲気です授業を進められたと思う。一般的に、試験対策というと、つまらなくなりがちだが、楽しみながらも試験対策になるような練習を多く取り入れた。この授業に参加した学生たちが、皆 1 次試験に合格し、また、2 次試験の予想合格率も 80 パーセントくらいと高かった。話す力、文法力ともに上達しているのが感じられた。毎回違う練習をしたことによって、仏検用の語彙だけでなく、日常でよく使う単語の知識も増えたと思うし、発言力と書く力も増えたと思う。アンケートでは、「少人数だからたくさんフランス語が話せるところが良い」「辞書では知れない言葉の表現が学べた」「仏検に受かるためだけではなく、日常会話で実際に自分がかえる様にたくさんのフレーズを聞いて、発音できた」とあり、良い授業ができたと思う。来期も同じように継続していきたいと思う。

めざせ仏検準 1 級 (ダレン モルガン、月曜日 10:30～12:00)

授業目的: 仏検に合格するための授業。試験に出る問題を繰り返し解き、書く練習をし、二次試験での面接の準備をした。

授業内容: 上記の「めざせ仏検準 2 級」の授業と同じように、試験に必要な練習を重ねて行った。学生が既に学ぶコツを知っていたので、優先的に会話を通して言語の構造を習得できるようにした。とっさにフランス語が口から出る力を向上するために、聞き取り、言葉遊び、なぞなぞ、即興等の練習を多く行った。また、2 次試験対策として、哲学的な質問に論理的に答えられるよう、さまざまな世界観について会話し、大人らしい意見交換が出来たと思う。

アンケート結果分析・来期の課題: 少人数のグループであったが、受講した学生のモチベーションが高かったため、非常に内容の濃い授業になった。とてもよい雰囲気です授業を進めることができた。仏検のためのフランス語だけでなく、日常会話で使う単語と文法も学んだ。遅刻、欠席が目立ち、何度も注意したが、改善されず残念ではあったが、学生たちのレベルは上達しているのがはっきりと分かった。アンケートでは、「遠慮のないフランス語がよい」「質の高い討論をフランス語で出来るように先生が助けてくれるところが良かった」という意見があった。また、グローバル人材プログラムについて「取得が難しすぎて、他のやりたいことが出来なくなるのが残念」という意見、「C1 レベルのフランス語の授業」を取り上げて欲しいという要望があった。とても有益な授業だったと思う。

発音サロン (ダレン モルガン、月曜日 14:30～16:00、火曜日 12:50～14:20)

授業目的: 基礎の語彙と文法の知識を得る。フランス語は意外と難しくなく楽しい言語だと知ってもらうための授業。

授業内容: 練習とゲームを通して、正しい言い方と発音を学ぶ。発音の基本的な構造を習得する。2～3 人のグループで簡単なフランス語で描写したり、パリの観光名所にまつわるフランス語を学んだり、行きたい場所に行く方法と聞き方を学んだ。フランスの料理やレストランで注文するための語彙を学んだ。また、火曜日に登録した学生たちを 2 つのグループに分け、iCoToBa マガジンのための記事を執筆した。

アンケート結果分析・来期の課題: 受講者が多く、月曜と火曜の2回に分けて授業を行った。毎週同じメンバーで、モチベーションも高く、恥ずかしがらない学生が多かったので、非常によい雰囲気です。授業を進めることができました。アンケートでは、「細かい文法ではなく、すぐにも使えそうな日常会話が学べてよかった」「少人数だから質問しやすい」「フランスについて、普通の授業とは違った角度で知れてよかった」「失敗をおそれず発言する力を育むような対応をしてくれたことがよかった」等、全体的に満足度が高い印象がした。様々なゲーム等を通して、フランス語を楽しめたと思う。

フランス語クラブ初・中級 (ダレン モルガン、金曜日 16:10～17:40)

授業目的: 「語学の授業」というより、「フランス語クラブ」のような雰囲気にし、「フランス語を楽しむ」ということを意識して行う。

授業内容: 授業の内容については、学生主体で決めていき、学生が望む活動をネイティブ教員と一緒に行うことで、語学を学ぶことは楽しいということを再認識してもらえるように努める。フランス語学科の宿題、会話、ゲーム、フランス語での映画鑑賞など幅広く対応する。

アンケート結果分析・来期の課題: 毎回、学生がやりたい事を決めることができるようにしていたが、やりたいことが特になく、決められない学生が多く、結局、教員側が提案する形になった。少人数だったが、出席率が高かったので、楽しみながらフランス語が学べたと思う。少人数の中で学生同士のレベルの差がかなりあり、その調整が難しかった。アンケートでは、「先生の熱心さが伝わった」「たくさん話せる機会があつてよかった」「いろいろな取り組みで楽しく学べてよかった」「話す力、読む力がついた」「単語やフレーズをもっと覚えたい」とあり、フランス語クラブの目的が達成できていると思う。学生がフランス語を楽しみ、難しい言語ではないことを感じてもらえたと思う。来期も継続していきたい。

フランス語クラブ中・上級 (ダレン モルガン、木曜日 16:10～17:40)

授業目的: 「語学の授業」というより、「フランス語クラブ」のような雰囲気にし、「フランス語を楽しむ」という事を意識して行う。授業の内容については、学生主体で決めていき、学生が望む活動をネイティブ教員と一緒に行うことで、語学を学ぶことは楽しいと再認識してもらう。役に立つフランス語、将来行く可能性のある目的地について知識を得ること。

授業内容: 留学から帰ってきた学生たちだったので、仏検対策、次の留学の準備、フランス語圏で実際に生活するための準備等を行った。

アンケート結果分析・来期の課題: 留学経験がある学生たちだったのでモチベーションが高く、とてもよい授業内容になったと思う。日常会話力から一歩先へ進めるよう、自分の意見を論理立てて相手に伝える力をつけるような授業を行った。アンケートでは、「映画、インターネットサイト、ゲームなど色々な教材を使うところがよかった」「教員がフランス人なので現地人の考え方を知れてよかった」「フランス語をネイティブ教員と話せる機会、人数が少なく、学生と教員の距離が近いので質問がしやすい」「そのとき自分がやりたい事を授業の内容にしてくれてよかった」という意見があった。留学経験のある学生は、フランス語力もちろんあるが、積極性柔軟性があり、役に立つフランス語、文化や一般的な情報を

得ることができたと思うし、楽しくて充実した授業にすることができた。

フランス語ではなそう！ (ダレン モルガン、火曜日 14:30～16:00)

授業目的: 日常的な出来事について、受講者全員で議論する事により、フランス語の知識と話す楽しさを身に付ける。

授業内容: 留学中によく使う単語、その目的地について情報収集する。またリアルなフランス語を身につける。留学を経験した学生には、自身の留学経験を分析して、フランスへまた行きたいという気持ちが芽生えるように促す。

アンケート結果分析・来期の課題: すでに留学経験のある学生たちだったので、滞在中に学んだ事柄を分析したり、文化の違いなどについて議論したりした。学生たちが、すでにフランス語の語彙、文法の知識があったし、モチベーションも高かったので、積極的に会話に参加し、良い雰囲気の中で、議論が盛り上がった。シャイな学生もいたが、最終的に積極的に話せるようになったので良かった。授業の中で、学生が発言する機会が多く、フランス語の上達が目に見えてわかった。また、楽しみながら、フランス語を使って意見を言えるようになったと思う。単にフランス語を話すのではなく、自分の考えを表現したり、他の人の意見を聞いてから、自分の意見を主張したり、大人らしい議論をすることができた。アンケートでは、「様々な教材(ビデオ、歌、ゲーム)があったのが良かった」「もう少し議論をしたかった」「少人数でよい」「自分から積極的に発言する力がついた」等、学生も楽しみながらフランス語が上達できた授業になったと思う。また、「ボキャブラリーの授業を取り上げて欲しい」「C1もしくはB2レベルの授業を追加して欲しい」という要望があった。

【スペイン語】

スペイン語圏世界とグローバリティ 1 / El Mundo Hispánico y la Globalidad (Sergio Neri, Friday 4th period)

Objective: To understand the formation of the Hispanic world in 3 phases of Globalization: Phase 1, the fusion of different languages and cultures of the Iberian peninsula with foreign cultures such as Arabic. Phase 2, expansion of the Spanish culture and language to America, Africa, Asia and its fusion with local cultures. Phase 3, the formation of a pan-Hispanic culture, scenarios and challenges of the present and the future. We'll learn accessible academic vocabulary used in universities of Hispanic countries.

Course contents: The course content was based on a brief description of phenomena and processes that have given rise to cultural, political, economic and social systems that are shaping the Hispanic world. These factors were analyzed from the theoretical perspective of Globality of Peter Sloterdijk and other authors' theories.

General Overview and agenda: Topics were covered in a general but solid manner, with simple, easy to understand terms for students who have completed the level B1 and above. These

terms, despite being simple, are used in university education in Spanish-speaking countries. This can be useful for the students aiming to study in Hispanic countries and for those who will make a research in Spanish.

比較文化研究（比較文化セミナー） / Estudios Culturales

Comparativos (Sergio Neri, Wednesday 4th period)

Objective: To try to understand what culture is, how a person relates to its own culture, how cultures relate with other cultures and how they interact

Course contents: We analyzed the influence of the culture on its products such as films, music, food, etc. We used theories of culture, and Post-colonial studies to try to explain cultural phenomena such as Interculturalism, Transculturation, Acculturation, Pluriculturalism, Cultural Semiotics, etc. We have compared the cultures of the Hispanic countries and Japan in aspects such as thinking, beliefs, attitudes and activities of daily life. We learned easy academic vocabulary used in Spanish-speaking universities.

General Overview and agenda: Students had very active discussions and showed a high sense of respect and understanding for the culture of the other. That will certainly produce good results when students confront multicultural issues in their future careers.

リサーチ発信プロジェクト: グローバル科目 / Metodología y Léxico

para Proyectos de Investigación (Sergio Neri, Wednesday 3rd period)

Objective: To better understand some research methods, to manage a research project and to acquire certain vocabulary in academic Spanish related to the subject. That will help students to join regular courses in Spanish speaking universities and to conduct research in those countries for their assignments or for their graduation papers.

Course contents: Strategies for choosing a subject of research and how to delimitate it. Types of research approach. Research methods. Research design. Research management. How to design and conduct interviews and surveys, discourse and vocabulary. Data analysis. Discussion. Each topic includes academic vocabulary and discourse analysis.

General Overview and agenda: Students learned some strategies that help choosing a subject for research and delimitating it into feasible objectives, they chose a research method that suited their objectives and made a group research that included interviews and a survey. This proved to be useful because most students did not have a clear idea of what they wanted to research during their study abroad, which was going to start the next semester. Then they learned how to analyze the results of the interviews and how to design a survey accordingly in order to find out if the opinions expressed in the interviews were shared by other Japanese. The students commented that they had lots of fun in these last two steps of the research. Finally, we learned how to analyze and discuss the results of the surveys.

日本文化をプレゼン / Habilidades de Presentación sobre la Cultura

Japonesa (Sergio Neri, Monday 5th period)

Objective: The aim of the course is to help students develop a project in which they make a presentation of a certain topic related to the Japanese culture in order to promote a better understanding of Japanese culture when students go abroad in exchange programs with universities of Spanish-speaking countries.

Course contents: We learned how to select topics of Japanese culture in order to make a presentation of them. We will see how to find information on the selected topic and how to organize ideas in a text to be used as a guide for the presentation. We moved into planning and conducting presentations, dividing them into sections in a logical sequence, using interesting graphics, how to handle the interaction with the public, create interest and participation, handle questions and answers, etc. The course included easy-to-learn academic vocabulary used in universities from Spanish-speaking countries.

General Overview and agenda: Students were very active, they did not hesitate practicing in every class the different skills we learnt. At the beginning, they found it difficult to select the information that was essential for their presentation and to discard the information that was not pertinent. We learned strategies for reading and for searching information. With this and a lot of practice they managed to evaluate text content and discern useful information.

時事問題読解 / Comprensión Lectora de Noticias de Actualidad

(Sergio Neri, Monday 2nd period)

Objective: The aim of this course was to help students discern different types of text used in news. Students learn reading strategies and practice them thoroughly. They get awareness of discourse and use it to better understand the author's intention and the opinion of people, institutions, etc. who play a role in today's context of Spanish and Latin American societies.

Course contents: We analyzed the discourse and its different types in the text, what is Pragmatics and its use in different kinds of text. We studied strategies to read and understand texts. We learned academic vocabulary used in universities in Spanish speaking countries. We reviewed different styles and the use of metaphor, irony, idioms, etc. in news about the current situation of Spain and Latin America.

General Overview and agenda: When students were presented actual pieces of news from authentic media, they thought they could not read such big texts, containing many idioms and academic words, but they got a pleasant surprise when they actually did it after analyzing the text by smaller sections and applying the different strategies we saw in class.

DELE B1 対策 / Preparación para el examen DELE B1

(Sergio Neri, Monday 3rd period)

Objective: The aim of this course is to help students acquire the necessary strategies for succeed in the DELE B1 test to be conducted in May and in November.

Course contents: We learned strategies to comprehend medium sized texts such as articles, news, interviews, etc. Also we learned how to write short texts such as letters, comments, etc. We developed strategies to understand short dialogues and other examples orally. We worked on strategies for expressing and interacting orally. We used many practice tests for DELE B1. To be certified in DELE a big amount of vocabulary is required, therefore we studied vocabulary dividing it into semantic clusters and study as much at home as in class.

General Overview and agenda: Step by step, students developed the necessary skills required in this test, nevertheless there the dates of the application of the test do not coincide with the completion of the course, creating as a result, great pressure for the students and professor in order to work enough to improve the skills in time for the May test. Therefore, it was necessary to employ extra time to work with the students who were going to do the test in May. That extra time was dedicated from the iContact time, so that we were able to work two sessions of half a koma per week. A lot of extra homework was necessary as well.

DELE A2 対策 / Preparación para el examen DELE A2

(Sergio Neri, Thursday 3rd period)

Objective: The aim of this course is to help students acquire the necessary strategies for succeed in the DELE A2 test to be conducted in May and in November.

Course contents: We learned strategies to comprehend medium sized texts such as articles, news, interviews, etc. Also we learned how to write short texts such as letters, comments, etc. We developed strategies to understand short dialogues and other examples orally. We worked on strategies for expressing and interacting orally. We used many practice tests for DELE A2. To be certified in DELE a big amount of vocabulary is required, therefore we studied vocabulary dividing it into semantic clusters and study as much at home as in class.

General Overview and agenda: Step by step, students developed the necessary skills required in this test, nevertheless there the dates of the application of the test do not coincide with the completion of the course, creating as a result, great pressure for the students and professor in order to work enough to improve the skills in time for the may test. Therefore, it was necessary to employ extra time to work with the students who were going to do the test in May. That extra time was dedicated from the iContact time, so that we were able to work two sessions of half a koma per week. A lot of extra homework was necessary as well.

初級スペイン語 A1・クラス 1 / Español Básico Nivel A1・Grupo 1

(Sergio Neri, Tuesday 4th period)

Objective: The aim of this course was to help students get the skills of a language that had never studied before. During their 1st year, students need more support in getting the founding of a foreign language. Cultural aspects of the target language should also be included in the course in order to help them communicate more effectively in Spanish.

Course contents: The contents of this course were selected in order to correspond with the contents of the courses of Spanish from the regular curricula. This way students were able to see the same contents from more than one approach, which can help students who had difficulties with a determined topic. Additionally they had more opportunity to practice the knowledge already acquired in their regular courses.

General Overview and agenda: Because of the large number of students, the quality of time dedicated to each student was going to decrease considerably. As a solution to solve this the class was divided into two groups of 24 and 25 students and half a koma was dedicated to each group. Although the class time was reduced to half the time, it was considered better to give attention to every one of the students because this was their 1st year and they needed more contact with Spanish language. Reducing the number of students in order to have a full 1 koma class, would let half the students without any class at all. The result was that many students got very good motivation for Spanish language and for iCoToBa courses.

初級スペイン語 A1・クラス 2 / Español Básico Nivel A1・Grupo 2

(Sergio Neri, Friday 2nd period)

Objective: The aim of this course was to help students get the skills of a language that had never studied before. During their 1st year, students need more support in getting the founding of a foreign language. Cultural aspects of the target language should also be included in the course in order to help them communicate more effectively in Spanish.

Course contents: The contents of this course were selected in order to correspond with the contents of the courses of Spanish from the regular curricula. This way students were able to see the same contents from more than one approach, which can help students who had difficulties with a determined topic. Additionally they had more opportunity to practice the knowledge already acquired in their regular courses.

General Overview and agenda: Because of the large number of students, the quality of time dedicated to each student was going to decrease considerably. As a solution to solve this the class was divided into two groups of 24 and 25 students and half a koma was dedicated to each group. Although the class time was reduced to half the time, it was considered better to give attention to every one of the students because this was their 1st year and they needed more contact with Spanish language. Reducing the number of students in order to

have a full 1 koma class, would let half the students without any class at all. The result was that many students got very good motivation for Spanish language and for iCoToBa courses.

第 2 外国語としてのスペイン語 1 / Español como Segunda Lengua

Extranjera A1 alto (Sergio Neri, Thursday 5th period)

Objective: This course is for Kendai students who are not specializing in Spanish but are taking this as a second language as part of their program. The aim of this course is to help students develop a level of Spanish that enables them to join other courses of iCoToBa addressed to students of the Spanish specialty. Since the former have less time of Spanish instruction, more practice is needed for them in order to communicate with the students of Spanish department.

Course contents: The contents of the course were coordinated according to the contents of the language classes they already had as part of their curriculum, so that it covers the same subjects for practice and developing a good performance as well as new topics considered necessary to improve their communication.

General Overview and agenda: The level of the students were very different on person to person basis, as consequence of this the results were mixed. Some students were motivated enough that they were frequently found in iCoToBa talking in Spanish with students of the Spanish department, their communication was effective. But the results on other students were more limited and they were not able to sustain conversation in Spanish with other students. More work needs to be done in order to find possible answers to this disparity.

【ドイツ語】

ドイツ日常語と実践会話 I – Deutsche Alltagssprache und

Sprachpraktisches I (Morten Hunke, Tuesday 1st period)

Objective: Students learn how to translate your classroom language skills to real live communication – even for students at beginner level? How to apply the language learned from regular classes more efficiently. There will be a strong focus on spoken language in German. This class was largely based upon: *Und du? Sprechsituationen im Unterricht - NEU!*

Course contents: Every lesson started off with games or other activities repeating vocabulary and structures covered in prior lessons. An emphasis was placed upon mastering certain fields of simple communication well: colours, appearance, character, and food items etc. Students regularly engaged in speaking tasks. Regular writing tasks were also set.

General Overview and agenda: In this semester a focus was put on performance and

pronunciation. From week 3 students chose their own favourite tanka from among what they had written over the course of the last and this semester. This tanka was adapted to yield a natural sounding performance. Multiple recordings of the performance of the same piece were undertaken. In between recordings self, peer, and teacher feedback were given. Students valued the passion of the teacher towards the class (5.0), the explanations outside the box (5.0), thought the textbook and materials were useful (4.5), and they generally felt more motivated (4.7) towards learning the target language.

Students' feedback in general was good once more. Remarking particularly on the practical and applied nature of the class. Students also regard the small size of the class as an advantage.

Unfortunately, over the course of the semester student numbers dwindled somewhat. So, that the semester final task was a little bit short on active participation.

ドイツ日常語と実践会話Ⅱ - Deutsche Alltagssprache und Sprachpraktisches II (Morten Hunke, Wednesday 1st period)

Objective: Students learn how to translate your classroom language skills to real live communication – even for students at beginner level? How to apply the language learned from regular classes more efficiently. There will be a strong focus on spoken language in German. This class was largely based upon: *Und du? Sprechsituationen im Unterricht - NEU!*

Course contents: Every lesson started off with games or other activities repeating vocabulary and structures covered in prior lessons. An emphasis was placed upon mastering certain fields of simple communication well: colours, appearance, character, and food items etc. Students regularly engaged in speaking tasks. Regular writing tasks were also set.

General Overview and agenda: In this semester a focus was put on performance and pronunciation. From week 3 students chose their own favourite tanka from among what they had written over the course of the last and this semester. This tanka was adapted to yield a natural sounding performance. Multiple recordings of the performance of the same piece were undertaken. In between recordings self, peer, and teacher feedback were given. Students valued the passion of the teacher towards the class (4.7), the explanations outside the box (4.7), thought the textbook and materials were useful (4.3), and they generally felt more motivated (4.7) towards learning the target language.

Students' feedback in general was good once more. Remarking particularly on the practical and applied nature of the class. Students also regard the small size of the class as an advantage. Students liked the native speaker teacher being entirely in charge of his own class.

Unfortunately, over the course of the semester student numbers dwindled somewhat. So, that the semester final task was a little bit short on active participation.

ドイツ日常語と実践会話Ⅲ – Deutsche Alltagssprache und

Sprachpraktisches III (Morten Hunke, Tuesday 4th period)

Objective: How to translate your classroom language skills to real live communication? How to apply the language learned from regular classes more efficiently. How do I overcome inhibitions/difficulties in orally making use of my German? How do I engage in everyday speech acts even if I'm not 100% sure what to say? There will be a strong focus on spoken language in German.

Course contents: Every lesson started off with specially designed speaking exercises. Throughout, the course of the class students gave prepared and impromptu presentations, performed reading out aloud scenarios – after having identified pauses and major phrasal stress - wrote their own dialogues, engaged in role play and drama exercises. An emphasis was placed on aspects of popular culture (football, food and music).

General Overview and agenda: The agenda was to compliment the regular classes of the second and/or third academic years as accurately as possible. On many, if not most, points on the questionnaire students gave this class top marks (5.0) on: language learning methodology, teacher's way of speaking and delivering explanations, materials, teacher's degree of commitment, outside explanations and practice opportunities, teacher's passion towards the course, and last but not least an increase in the students' own motivation. Because the class was very small indeed, the students wished for somewhat larger numbers. This can only be supported by the teacher himself. Since the students choose their own extracurricular iCoToBa classes on top of regular classes, however, little can be done to influence such factors from an administrative perspective. It is planned to do extensive advertising for the corresponding course in the coming semester.

ドイツ日常語と実践会話Ⅳ – Deutsche Alltagssprache und

Sprachpraktisches IV (Morten Hunke, Thursday 3rd period)

Objective: How to translate your classroom language skills to real live communication? How to apply the language learned from regular classes more efficiently. How do I overcome inhibitions/difficulties in orally making use of my German? How do I engage in everyday speech acts even if I'm not 100% sure what to say? There will be a strong focus on pronunciation (phonetics, phonology, and prosody).

Course contents: Every lesson started off with specially designed pronunciation exercises. The course focused on: rhythm, stress, intonation, vowel sounds, and some selected consonant sounds. Interactive materials, as well as engaging techniques like singing and ample repetition featured prominently.

General Overview and agenda: The agenda was to compliment the regular classes of the second and/or third academic years as accurately as possible. This time around, the focus was on building solid foundations in pronunciation ability. A feature of language learning sadly

often neglected in the regular German as a foreign language classroom in Japan. The easy going atmosphere and the hands on nature of the content, combined with a relatively small size were commented on as positives. This can only be supported by the teacher himself. Students enjoyed the games and studying sometimes somewhat abstract content matter in a practical fashion. 4.9 of students felt the teacher's passion towards the class and saw their own motivation for learning increased. 4.8 applauded the teacher's immediate reaction to student qualms or queries.

Since the students choose their own extracurricular iCoToBa classes on top of regular classes, however, little can be done to influence such factors from an administrative perspective. It is planned to do extensive advertising for the corresponding course in the coming semester.

ミュンスターアフターケア – Deutsche Kultur –

MÜNSTERnachbetreuung (Morten Hunke, Tuesday 3rd period)

Objective: This class is taking a closer look at German food culture and the sphere of cross cultural issues between speakers of German and Japanese. It is aimed at returnee students who have been to short term study abroad stays at the Westfälische-Wilhelms-Universität, Münster. Practical speaking and presentation as well as research skills are the focal aspects of attention.

Course contents: The class aims at taking students with higher than average ability in German courtesy of a study abroad stay further and to allow them to improve their language skills even further. The content featured debates about social issues in Japan and Europe, looking back at one's past and childhood, discussing job prospects and job hunting practices in Japan and Germany and many other engaging subjects.

General Overview and agenda: Finding a suitable date and time for this class proved tricky at the beginning of the semester. However, in the end a slot could be found that 2 students a week could make. This class is especially suffering from too many alternative classes for the target group all throughout the regular teaching week. Still 4.7 of the students felt their motivation had increased. The same figure was given to the manner of speaking by the teacher, the multi-faceted approaches taken. And the teacher's passion towards the subject. The students felt they did not produce enough phrasal utterances – something that from a professional perspective has to be utterly rejected. Ample speaking opportunity in a non-threatening environment was provided. Furthermore, students commented they would prefer a larger group. Something I can only wholeheartedly support.

ドイツの文化：留学ケア – Deutsche Kultur –

Auslandsstudiumsnachbetreuung (Morten Hunke, Tuesday 2nd period)

Objective: This class is taking a closer look at German food culture and the sphere of cross cultural issues between speakers of German and Japanese. It is aimed at both returnee students and students who have not (yet) been abroad. Practical speaking and presentation as well as research skills are the focal aspects of attention.

Course contents: The class aims at taking students with higher than average ability in German courtesy of a study abroad stay further and to allow them to improve their language skills even further. The content featured debates about social issues in Japan and Europe, looking back at one's past and childhood, discussing job prospects and job hunting practices in Japan and Germany and many other engaging subjects in a hand on manner and with a very casual class atmosphere. The students in this class also organised the annual iCoToBa German Christmas party together with the teacher.

General Overview and agenda: Finding a suitable date and time for the class proved tricky at the beginning of the semester. However, in the end a slot could be found that at least 6 students a week could make. In reality, there were seldom more than 3 students present. This class is especially suffering under the job hunting activities students need to undertake. Still, students appreciated the casual atmosphere and that the entire class is conducted through the medium of the target language. They feel their listening skills improved and they appreciate the proactive style in which speaking is often required in class. 4.7 of the students felt their motivation had increased. 5.0 felt the teacher's dedication and passion towards the class and 4.7 appreciated the diverse means of instruction by the teacher.

発音、パフォーマンス - Aussprache und Performance

(Morten Hunke, Thursday 4th period)

Objective: This class specifically addresses pronunciation from a performance vantage point. Students are introduced to a method to improve their own speaking and performing abilities using an intensive approach making productive use of drama pedagogy and (canonical) poetry. To give a poetry performance at a semester final event in front of a public audience. This semester, for the first time, a short comical play was added to the agenda. This was done in order to keep increasing what is demanded of students in terms of performance abilities.

Course contents: Every lesson started off with activities taking from drama pedagogy. These were aiming to improve the students' ability to control voice projection, facial expressions, gestures, and body posture in relation to an audience. The safe non-intimidating environment within the group and the classroom were of vital importance here. Students, furthermore, picked a poem with which they thenceforth engaged with for a large part of the semester.

General Overview and agenda: 3 students started the course this semester and all 3 joined in the semester final Gedicht+Performance *plus α*. A success in itself. An encouraging majority (4.3 – up 0.03 from last semester) commented they had improved their language skills using the newly introduced method. The request for speaking materials outside the realm of poetry from last semester has been answered. Students remarked the class had been fun. Students felt their motivation to study further had improved considerably (5.0 – up 0.02 from last semester). 5.0 (up 0.01 from last semester) commented they could feel the teachers' passion towards the class and the subject.

検定試験対策 - Testvorbereitung (Morten Hunke, Wednesday 3rd period)

Objective: Preparation for German language tests on levels A1 through to B2. A particular focus will be on understanding and preparing for the differences in format. The course requires students to practise and study individually. This class aims at preparation for the Goethe Institut/Österreichisches Sprachdiplom exams rather than the Japanese format 独検.

Course contents: Every lesson focus entirely on the student's own needs and requirements for study. Students produce their own count down timetable for test prep – with help, assistance, and feedback from the teacher. They then engage in the weekly prep activities they set themselves. In class they mostly report and their progress and on difficulties encountered. Principles for tactics in approaching test tasks were discussed and practised on mock test materials.

General Overview and agenda: The language ability levels of students this semester was quite coherent – all students were from year 2 studying for the B1 level ÖSD test. Also, since the university sponsors participation in 独検 only – a test format that is not recognized in Europe at all – more thought has been given to how to design a test preparation class that best meets students' needs and expectations. Students appreciate the practical approach taken and see the class as a 'counter measure to kentei tests' – that is very encouraging indeed. They also feel well introduced to the new test format. 4.2 of the students feel their language ability has improved through taking this class. All (5.0) felt more motivated and commented positively (5.0) on the teacher's passion towards the class.

This year there was participation in the class of around 2-6 students. That means, more students than enrolled participated in a number of the sessions offered. In fact, as the ÖSD exam in January approaches even more students are joining the class informally. A very good success for our work at iCoToBa in terms of supporting test preparation.

日本紹介 - Japanbotschafter (Morten Hunke, Monday 3rd period)

Objective: This class will feature a number of highly practical activities to make you more prepared for your student life in Germany. There will be input from current German students and Japanese Kendai returnee students. Students will (re-)discover Japan and

Japanese culture from the vantage point of a foreigner. This outlook will be added onto with their own view and understanding of things. The class will be aiming at providing practical skills wherever possible.

Course contents: The most important lesson to take away from this class is the difference in perception about things Japanese from individual to individual and from outside and inside Japan. Stereotyping ought to be avoided wherever possible. Students actively learned how to introduce their own country and aspects of its culture in the target language German. Multimedia resources were used as well as a number of presentation and discussion formats in order to liven up the cross cultural content of the class. Aspects of popular culture and student life in both countries were emphasised in terms of topics. Some of the posters produced contributed actively to showcasing the German partner universities at Open Campus and Germany study events.

General Overview and agenda: The class make up represented students from year 2 and year 3. The atmosphere in class was very good. A lot of time could be spent on preparing students actively for study abroad experiences. Since the class was comparatively large this semester a lot of project work was engaged in. Students produced videos in groups, introducing the university and Japanese dishes. Students overall liked the class and their motivation to study further was largely increased (5.0) – up 0.3 points from last semester. The class scored 5.0 in no less than seven categories in total:

1. own motivation, 2. teacher's passion, 3. multi-faceted explanations, 4. teacher cares about students' degree of understanding, 5. writing easy to read, 6. hand outs were useful, 7. teacher's way of speaking is easy to understand. Students felt their language ability had improved through participation in the class. They also commented positively on the time they had for speaking themselves.

リサーチ発信プロジェクト - Forschungs- und Präsentationsprojekt

(Morten Hunke, Friday 5th period)

Objective: Doing research in the target language German is an important aspect of preparation for studying abroad in a German speaking country. Academic practices vary considerably to those in Japan. This is something students will be led to practically embrace throughout the course of the class. In three stages: group presentation, pair presentation, the level of responsibility for the individual student gradually rises. The semester final presentation is held as a public event.

Course contents: For the group presentations, students presented German language films in groups of 2s. The pair presentation was a poster presentation presenting current trends in the German speaking world and relating the findings to the audience. The pairings always featured students from different year groups – this time there were 2 students each from years 2 and 3 and 1 student from year 4. All presentations were video recorded.

General Overview and agenda: The atmosphere in class was very good. Although, it became apparent that especially for the students from year 2 it was sometimes not easy to complete all the tasks with ease. All students performed in the final presentation event. The blend of students from year 2 and 4 made worked very well this year and has to be deemed maximally beneficial learning environment for all involved. The class scored 5.0 in no less than six categories in total: 1. own motivation, 2. teacher's passion, 3. multi-faceted explanations, 4. teacher cares about students' degree of understanding, 5. writing easy to read, 6. hand outs were useful. Students clearly appreciate the opportunity working with students from other years groups – 3 out of 5 mentioned this in their formative feedback. One student remarked that they wished there were a better integration of the iCoToBa classes with regular classes as s/he would love to take more of the teacher's other classes. Something I can only fully support.

【中国語】

日中文化比較（顧令儀、月曜日 3 限）

授業目的: 学生たちの興味がある分野を選んで、スライドを使いながら、中国の文化を紹介した。日中文化を比較しながら異文化理解を身に付けると同時に、学生の語学力を高めることを目的とする。

授業内容: 中国の地理が中国文化に対する影響や中国人の生活ぶりをスライドで学生に見せながら、中国語で説明を行った。また学生に中国文化と日本文化との違いを比較し、発表させることによって、語学力を鍛えながら異文化理解を深めた。

アンケート結果分析・来期の課題: この授業を通して、進歩したと思う欄に学生が「中国の文化についての知識」「中国語を聞く力」と書いているところから見れば、授業の目的がほぼ達成したと考えられる。「スライドで分かりやすい」、「少人数で意見を述べることができる」という評価もあった。ただ宿題や試験を学生に与えていないので、学生たちは授業外であまり復習しなかったと思われる。今後の課題として、学生の授業外の自主的に勉強する意欲を引き出すことだと思う。

実践中国語A(日常会話)（顧令儀、月曜日 4 限）

授業目的: テーマを学生に与えて、テーマについて話しあうことを通じて、学生の会話力を鍛えることが目的である。

授業内容: 授業中では中検に出た文法を説明し、スピーチやゲームを取り込みながら、聴解や会話の総合的な練習を繰り返した。少々語彙力が足りなくても、前向きに話そうとする姿勢を学生が身につけたと思う。

アンケート結果分析・来期の課題: 少人数の授業で、学生の要望に応じて中検 2 級の対策をやりながら会話の練習を行っていたことに対して、学生から評価を受けた。また学生から

も「自分の頭にあることを中国語で話すこと」が進歩したとのコメントを受け、授業の目的をほぼ達成したと思う。問題点は学生の要望(中検対策)と本来この授業の目的、つまり日常会話を如何にして結びつけるかということである。今後は学生の要望も重視しながら、授業内容を調整するつもりである。

リサーチ・発信プロジェクト (顧令儀、月曜日 5 限)

授業目的: グループプロジェクト(ブレインストーミングを行い、スケジュールを作り、仲間と一緒に問題を解決する)に必要な能力や方略を学ぶ。

授業内容: 学生にまずブレインストーミングにより関心のテーマを決めてもらい、そのテーマに対して如何なる調査をすればよいかということを討論させた。実際に調査を行ってから、学期末に調査結果の発表をした。

アンケート結果分析・来期の課題: 少人数で「質問しやすい環境でとても楽しい」、学生から良い評判を受けている。また中国に関する情報を調べる能力や問題の提起能力などの面で、学生は力が付いたと思われる。ただ、2 年生の語学力は選ばれたテーマを調べるにはやや物足りないので、次年度は学生の興味以外に、語学力も考慮に入れて慎重にテーマを選ぶ必要がある。また、一人しかいなかったのも、グループプロジェクト(ブレインストーミングを行い、スケジュールを作り、仲間と一緒に問題を解決する)に必要とされる能力の訓練はできなかったことは残念である。

複文トレーニング (顧令儀、火曜日 3 限)

授業目的: 複文に関わる接続詞を勉強し、より複雑な中国語を使える能力を身に付ける。また、苦手な表現を克服し、豊かな表現で中国語を使えることを目指す。

授業内容: 日常生活に使われる中国語の接続詞の意味と使い方、そして注意点を紹介し、似たような接続詞と比較しながら、豊かな表現と微妙なニュアンスを取り込みながら、様々な練習を繰り返した。

アンケート結果分析・来期の課題: この授業を受けている学生は長期留学していたため、複文だけでなく、やや難しい表現も取り入れて講義をしたので、学生にとっては非常に勉強できたと思われる。学生からも「文と文の関係性を意識して、文を作ったり読んだりする習慣が身につきました」とコメントし、授業の目的は達成したと思う。また、少人数の授業なので、わからないところはすぐに質問でき、会話の練習もできたことはこの授業の良いところである。ただ中国語を上達させるには、複文は避けて通れないところで、今後はより多くの学生が受けられるように時間を考えて授業を設定する必要がある。

発音と朗読 (顧令儀、火曜日 5 限)

授業目的: 中国語のきれいな響きを感じながら、文献を声に出して読んでみる。朗読を通じて、よりきれいな発音と中国語の語感をつかむことを目的とする。

授業内容: まず朗読に必要な中国語の語調、ポーズ、アクセントを理論的に紹介し、学生の

発音を指導しながら、多くの中国語の文学作品を感情を込めて読む練習をした。

アンケート結果分析・来期の課題: 学生は真剣に取り込んで練習し、一対一のクラスだったので、徹底的に練習できたと思われる。「発音が前よりキレイになった。文章を読む際に、流れ、強弱、止めるべき所、抑揚を意識して読めるようになった」という評価を受け、授業の目的を達成したと思われる。またこの授業を受けた学生が京都外国語大学の日本全国中国語スピーチコンテストと愛知大学の江蘇杯中国語スピーチコンテストでダブルチャンピオンとなった。問題点として、受講者が少なく、時間設定の問題か、それとも宣伝の問題かを反省し、次年度に生かすことが重要だと思う。

聴解と会話 (顧令儀、水曜日 3 限)

授業目的: 中国のテレビ番組を学生と一緒に見て、その内容を学生に確認し、学生に各自の感想を発表したり全員で討論したりすることによって、聴解力と会話を高めることを目的とする。

授業内容: 学生の要望に応じて、中国での人気番組「非常完美」や中国映画「非诚勿扰」を見ることができた。実際の生活の中で使われている中国語を学生に聞かせ、その内容について討論を行っていた。

アンケート結果分析・来期の課題: この授業は「微信の文面が以前よりも中国語らしくなった」「実際に使われている生きた中国語を学べた」等、良い評判を受けている。問題点の一つは時間設定で、学生から「授業日を変えて欲しい」との声があり、水曜日の午後はガイダンスが多いため、今後は授業を設定するときにもっと慎重すべきだと思う。また、「もっとディスカッションを行いたい」という要望もあったので、今後はできるだけ学生に話すチャンスを与えることに注意するつもりである。

発音と初級会話 (顧令儀、木曜日 2 限)

授業目的: 中国語の発音から学び、日常生活に使える簡単なフレーズを学習し、自然に使えること、そして中国語に対する興味を引き出すことを授業の目的とする。

授業内容: 初級レベルの学生向けの授業で、発音を練習し、初級の中国語常用文を学習し、実用性のある文を学生に教えた。学生に練習を楽しませるために、スライドやカード、実物を使って、講義を行っていた。

アンケート結果分析・来期の課題: 授業に参加した学生は皆中国学科ではなかったため、ピンインから授業を進めていた。週一回のみの授業で、しかも授業以外では練習することがなく、学生にとって発音はまだ課題として残されているようである。しかし、旅行に行った時に使えるような文を授業内容に取り入れることによって、学生の中国語に対する興味を引き出したと思われる。ただ宿題がないことは学生が復習しないで次の授業に参加させるということになるので、今後は宿題の導入も考えている。また、これからも初級レベルの中国語講義を開き、より多くの他の学科の学生を迎えることを考えている。

中国語で日本を紹介する (顧令儀、木曜日 3 限)

授業目的: 日本の生活や文化を中国語で紹介することによって、中国語学力のアップを目指すことを本授業の目的とする。

授業内容: 実際の受講者は 5 人で、学生の希望に応じて、2 つのテーマを取り上げて、2 つのチームでそれぞれのテーマについて調べ、原稿を作って、学期中と学期末に中国語で 3 回発表を行った。学生のレベルはばらばらだったので、チームを作る時長期留学の未経験者と長期留学帰りの学生を一緒にすることによって、互いの学習意欲を高めた。

アンケート結果分析・来期の課題: 学生たちは自分で選んだテーマを調べて、発表するので、積極的に授業に取り組んでいた。この授業は会話だけでなく、調べたものを分かりやすく伝える力や発表原稿を推敲する力、そして語彙力など総合的な訓練を行っていたため、学生から良い評価を受けている。去年の授業と比べて、報告書を作る時間を減らし、発表の練習時間を取り込むことによって、より良い発表が得られたと思われる。この授業は去年とまったく同じ時間に設定したが、来る学生は去年の四分の一に過ぎないのは問題だと思う。今後はもっと宣伝に力を入れるべきだと思う。

中検 3 級対策 (顧令儀、木曜日 4 限)

授業目的: 一年生および教養外国語で中国語を勉強している学生向けに、中国語検定試験 3 級対策の授業で、中検 3 級を合格させることを本講義の目的とする。

授業内容: 学生に対して、事前に e-Learning の「中国語検定過去問 Web」で過去問をやってくるように指示したので、授業するまでに、学生の問題点を把握して、授業中は学生にとっての難点を集中的に説明し、練習をした。

アンケート結果分析・来期の課題: この授業で、学生の過去問成績は 30 点くらい上がり、学生からも文法力や語彙力が上がって、中検の点数が上がったとの評価があったため、この授業は目的を達成したともいえる。12 月にアンケートを実施した時の人数が登録者数より少ないのは、11 月時点ですでに中検 3 級に合格した学生がいたからである。問題点は、学生が何故事前に e-Learning の「中国語検定過去問 Web」で過去問をやる必要があるかを理解しなかったところである。一回じっくり考えてから答えや説明を聞くことが勉強に繋がると思うので、今後は今のやり方を変える予定がなく、これまでと同じように授業を行う。

慣用句でリアルフレーズ (顧令儀、金曜日 2 限)

授業目的: 中国語の日常生活でよく使われている慣用句の意味や使い方を説明し、例をあげることによって、学生が活用できるようになることを目的とする。

授業内容: 日常生活でよく使われている慣用句の意味や使い方を説明し、その慣用句にまつわる物語や歴史背景を中国語で紹介することによって、学生の記憶にのこるようにした。また、復習の時間を設け、状況や場面を提示し慣用句を使う練習を繰り返した。

アンケート結果分析・来期の課題: 慣用句は留学帰りの学生にとってもよい挑戦となる内容であり、また多くの物語や風習などの文化的な要素が含まれていたため、学生たちは積極

的に取り組んで、楽しい授業となった。学生からも「自分の体験を中国語で話す力がついた」、「中国的発想や中国の文化も垣間見ることができた」と評価されている。問題点は慣用句の活用が毎回授業が始まる前の復習の時のみで、もっと練習を取り入れるべきだと思う。

【多言語】

地域ものづくり学生共同プロジェクト（宮谷敦美・坂本ファーン、水曜日 4 限）

授業目的: ターゲットと目的を決め、日本語と外国語を用いて効果的に伝える能力を養成する。また、チームでの課題解決を通して、マネジメント能力を養成する。

授業内容: プロジェクトは、以下の手順で行われた。異なる言語を学ぶ学生がチームとなり、ひとつの企業を担当する。企業インタビューや業界研究などで得た情報を基に、広報記事のターゲットを決定し、構成を考える。中間発表での教員・学生からのフィードバックを基に、内容を吟味し記事を作成する。最後に作成した記事に関して、企業関係者に公開プレゼンテーションを行う。以上のプロセスに必要な内容として、授業では①インタビューのしかた、②日本語および英語の記事タイトルのつけかたや論理構造、③効果的なプレゼンテーションのしかたの 3 点を学んだ。

アンケート結果分析・来期の課題: 本授業は、主として留学を体験した学生が履修しており、外国語能力の養成そのものを目的としていない。そのため、外国語能力の伸びについては、低い結果となった。また、チームによるプロジェクト実施にはじめて取り組んだ学生も多く、チームビルディングをどのようにしていけばよいか、最初の時点で相談を受けることもあった。来年度は、プロジェクト発足の時点でチームビルディングのための時間をしっかりと取りたいと思う。評価が高い点として、効果的に伝える力の向上と、プロジェクト遂行力の向上について、多くの学生が言及している。

3.3. 2015 年度サマープログラム

【英語】

TOEIC Intensive 1, 2（寺澤君江、1: 8 月 17 日 9:00～10:20、10:30～11:50、12:40～14:00 18～24 日 9:00～10:20、10:30～11:50 25 日 8:50～10:20、10:30～12:00
2: 31 日 9:00～10:20、10:30～11:50、12:40～14:00 9 月 1～3 日 9:00～10:20、10:30～11:50 4 日 8:50～10:20、10:30～12:00）

授業目的: TOEIC 受験対策

授業内容: スコアのアップを目標に授業を展開した。重点としては、試験問題におけるボキャブラリーを強化させるため、品詞ごとに重要単語を確認し、反復練習により語彙を定着させていった。さらに、学生が苦手とするリスニングのパート 4 に焦点をあて、公式問題を用

いてシャドウイングや Q&A によりリスニングコンプリヘンションに努めた。また、時間配分がポイントとなるリーディングパートにおいて、出題方法や問題傾向を分析することにより、効率よく解答するテクニックが身につくように助言を与えた。授業の最後には、学習成果を確かめるため、毎回ミニ模擬試験の時間を設定した。

アンケート結果分析・来期の課題: ボキャブラリーチェックやシャドウイングにより、学生は TOEIC 受験に必要な英語力を確認することができたように思う。パートごとの問題の傾向を理解し、解き方のコツをつかめた学生が多いようであった。授業展開においては、解説と問題演習をバランスよく展開することにより、学生の集中力を持続させることができた。授業時、ボキャブラリーチェックを授業に位置づけたことにより、学生の語彙力強化に対する意識が高まったように見受けられた。

TOEFL ITP (寺澤君江、8 月 5 日 8:50~10:20、10:30~12:00、10 日 8:50~10:20、10:30~12:00、11 日 8:50~10:20、10:30~12:00)

授業目的: アメリカ留学を目指す学生の TOEFL 受験対策

授業内容: 試験に対応できる英語力の基礎として、語彙力の強化に重点を置いた。試験の3つのパート(リスニングセクション、文法セクション、リーディングセクション)における、それぞれの出題傾向および問題分析を授業で位置づけ、攻略方法を身につけることができるようにアドバイスした。ハイスコア達成の戦略として、配点やスコア換算方法にも触れた。各セクションの説明・解説に加え、授業全体を通して毎回過去問題によるミニ模擬試験を実施した。

アンケート結果分析・来期の課題: 試験の傾向を理解し、問題の解き方のコツをつかめた学生が多いようであった。この講座を通して、ITPだけでなくiTBおよび米国留学に意識が向くきっかけとなったように思われる。質問しやすい雰囲気を心がけ、個々の弱点に焦点を合わせながら進めることができ、学生は学習スタイルに関して満足しているように感じられた。しかしながら、市販されている問題集や参考書が限られているため、授業終了後、学生が自主的に学習する可能性が低いように思われ、やや残念な気がした。

TOEFL last minutes (寺澤君江、8 月 10 日 12:50~14:20、14:30~16:00、16:10~17:40、17:50~18:35 11 日 12:50~14:20、14:30~16:00、16:10~17:40、17:50~18:35)

授業目的: 英語圏(イギリスを除く)留学を目指す学生の TOEFL 受験対策

授業内容: 試験に対応するため、4 つのパート(リスニングセクション、リーディングセクション、スピーキングセクション、ライティングセクション)をバランスよく学習する授業を設定した。それぞれのパートの問題分析および解き方のコツにふれながら、演習を位置づけた。リスニングパートでは、学生の苦手とするサイエンス分野を題材とする内容を重点的に扱い、リーディングパートでは、クリティカルおよびインタラクティブに読み進める方法が身につくように演習問題を位置づけた。

アンケート結果分析・来期の課題: 試験の傾向を理解する機会となったように思う。受講をきっかけに、留学に対して意識が高まった。限られた時間ではあったが、個々の質問に対応することができていた。また、授業時の学生のリクエストに応じて、部分的にスピーキング力強化のアクティビティも取り入れることができ、学生の英語学習に対する意欲を向上さ

せることができたのではないだろうか。今後、留学を見通し、講座終了後も個人で試験対策として、継続的に努力することが望ましい。

IELTS last minutes (寺澤君江、8月26日 8:50~10:20、10:30~12:00、12:50~14:20、14:30~15:15 27日 8:50~10:20、10:30~12:00、12:50~14:20、14:30~15:15)

授業目的: 英語圏留学を目指す学生のIELTS受験対策

授業内容: 試験に対応するため、4つのパート(リスニングセクション、リーディングセクション、スピーキングセクション、ライティングセクション)をバランスよく学習する授業を設定した。それぞれのパートの問題分析および解き方のコツにふれながら、演習を位置づけた。リスニングにおいては、学生の苦手とするサイエンスを題材とする内容を重点的に扱った。リーディングでは、クリティカルおよびインタラクティブに読み進める方法が身につくように演習問題にあたった。

アンケート結果分析・来期の課題: 試験の傾向を理解する機会となったように思う。講座の受講をきっかけに、留学に対して意識が高まった。限られた時間ではあったが、少人数であり個々の質問に対応することができていた。また、授業時の学生のリクエストに応じて、部分的にスピーキング力強化のアクティビティも取り入れることができ、学生の英語学習に対する意欲を向上させることができたのではないだろうか。今後、留学を見通し、講座終了後も個人で試験対策として、継続的に努力することが望ましい。

【フランス語】

思い出しフランス語 I – Le français dans la tête I

(ダレン モルガン、9月28日、29日、30日)

授業の目的: 初・中級レベル向けの授業。前期に学んだフランス語を復習する。スムーズに後期の授業に入れるようサポートする。

授業内容: 会話・聞き取りの練習、ゲームなどを通して単語と主な文法のルールを思い出させる授業。

今期のアンケート結果の分析および来期への課題: 前期に学んだ語彙と文法を使って、会話、聞き取りやゲームを中心に行った。夏休み期間中にフランス語に触れる機会が少なかった学生が多かったが、スムーズに言葉が出てくるようにカードやホワイトボードを使用しながら、ゲーム感覚で積極的に発言するよう促した。学生らが間違っても分からなくても、答えてみるという姿勢で授業に参加してくれたおかげで、全員参加型の非常に活発な集中講義となった。学生らから「とても楽しかった」という感想を聞き、後期も、このような雰囲気での授業になるよう、学生が楽しみながらフランス語を上達する環境、授業内容を考えていきたい。

【スペイン語】

Practical Spanish

(Sergio Neri, August 5, 6, 7 and 10, from 13:30 to 14:45 and 15:00 - 16:00, 6 koma in total)

The aim of the course was to prepare students who were going to depart Japan in August and September for studying abroad during one year. It is intended as a preparation to travel and live in Spain, Mexico, Peru. We saw the use of Spanish in daily life that Japanese students could face in their trip. Topics included : What to do and how to speak in airports, customs, buses, trains, hotels, restaurants, how to do procedures in universities, how to talk to teachers, administrative staff or other students in class and outside. We saw videos of real-life situations, we practiced, discussed the best ways to solve problems, etc.

How do you do in your first summer break?

(Sergio Neri, August 5, 6, 7 and 10, from 1:00 to 11:15 and 11:30 - 12:30, 6 koma in total)

In this course we studied strategies to continue studying Spanish at home during the summer holidays. The aim was to prevent the students' Spanish level from weakening during the holidays by the lack of practice. We learned how to use You Tube videos with Spanish themes and everyday life in Spanish speaking countries. We also used songs, movies, magazines, etc. in order to practice conjugations and other topics in fun ways, which otherwise could seem difficult. We used other online resources dedicated to the study of Spanish language such as the Cervantes Virtual Classroom, Ello.org, etc.

【ドイツ語】

ミュンスター大学夏期講座受講生対象コース① - Münster, wir kommen! – Praktisches Vorbereitungsblockseminar ①

(Morten Hunke , Thursday 6th August, 1st and 2nd period)

Objective: Hands on preparation for students attending a 4 week intensive summer course at the University of Münster in Germany in September. The course delivered extensive practice on everyday life communicative scenarios. And it provided useful (touristic/cultural) insights into life during a prolonged stay in Germany.

Course contents: Initially, students prepared posters about aspects of Münster, bicycle culture, food in Germany, football, etc. and presented these to their fellow students. Then food and sports culture for further researched. Students also received tips on cheap travel, how to obtain discounts, and researched the average cost of everyday living through the websites of major supermarket chains.

General Overview and agenda: The comparatively low number of students for this year's study

abroad preparatory course helped tremendously in making the content fit to the individual students' needs and wishes. In a very hands on fashion students found out about events in and around Münster during the time they would spend there and they were able to make concrete plans for weekend activities throughout the time of their stay.

ミュンスター大学夏期講座受講生対象コース② - Münster, wir kommen! – Praktisches Vorbereitungs-blockseminar ②

(Morten Hunke, Thursday 6th August, 3rd and 4th period)

Objective: Hands on preparation for students attending a 4 week intensive summer course at the University of Münster in Germany in September. The course delivered extensive practice on everyday life communicative scenarios. And it provided useful (touristic/cultural) insights into life during a prolonged stay in Germany.

Course contents: Initially, students prepared posters about aspects of Münster, bicycle culture, food in Germany, football, etc. and presented these to their fellow students. Then food and sports culture for further researched. Students also received tips on cheap travel, how to obtain discounts, and researched the average cost of everyday living through the websites of major supermarket chains.

General Overview and agenda: The comparatively low number of students for this year's study abroad preparatory course helped tremendously in making the content fit to the individual students' needs and wishes. In a very hands on fashion students found out about events in and around Münster during the time they would spend there and they were able to make concrete plans for weekend activities throughout the time of their stay.

ミュンスター大学夏期講座受講生対象コース③ - Münster, wir kommen! – Praktisches Vorbereitungs-blockseminar ③

(Morten Hunke, Friday 7th August, 2nd and 3rd period)

Objective: Hands on preparation for students attending a 4 week intensive summer course at the University of Münster in Germany in September. The course delivered extensive practice on everyday life communicative scenarios. And it provided useful (touristic/cultural) insights into life during a prolonged stay in Germany.

Course contents: Initially, students prepared posters about aspects of Münster, bicycle culture, food in Germany, football, etc. and presented these to their fellow students. Then food and sports culture for further researched. Students also received tips on cheap travel, how to obtain discounts, and researched the average cost of everyday living through the websites of major supermarket chains.

General Overview and agenda: The comparatively low number of students for this year's study

abroad preparatory course helped tremendously in making the content fit to the individual students' needs and wishes. In a very hands on fashion students found out about events in and around Münster during the time they would spend there and they were able to make concrete plans for weekend activities throughout the time of their stay.

【中国語】

声に出して読んでみたい 中国語 1、2 （顧令儀、9月13日～14日、2、3、4限）

授業目的: 中国語のきれいな響きを感じながら、文献を声に出して読んでみる。朗読を通じて、中国語の語感をつかむことを目的とする。

授業内容: 授業中にまずは朗読に必要な中国語の語調、ポーズ、アクセントを理論的に紹介し、これらの要素を注意しながら、中国語の文学作品を理解しながら、感情を込めて読む練習をした。

アンケート結果分析・来期の課題: 学生たちは真剣に取り込んで練習し、発音だけでなく、中国語の抑揚を意識して読んで楽しかったという評価を受けた。少人数の講義だったため、学生それぞれの特徴に応じて、発音やアクセントなどの問題が解決できたと思われる。ただ練習時間が短かったという問題点が残されているので、今後は授業を三日間にわたって行うことを考えている。

3.4. 2015 年度スプリングプログラム

【英語】

TOEIC Intensive （寺澤君江、2月8日～11日 9:00～10:20 10:30～11:50）

授業目的: TOEIC 受験対策

授業内容: スコアアップを目標に授業を展開した。重点としては、試験問題におけるボキャブラリーを強化させるため、品詞ごとに重要単語を確認し、反復練習により語彙を定着させていった。さらに、学生が苦手とするリスニングのパート4に焦点をあて、公式問題を用いてシャドウイングや Q&A によりリスニングコンプリヘンションに努めた。また、時間配分がポイントとなるリーディングパートにおいて、出題方法や問題傾向を分析することにより、効率よく解答するテクニックが身につくように助言を与えた。授業の最後には、学習成果を確かめるため、毎回ミニ模擬試験の時間を設定した。

アンケート結果分析・来期の課題: ボキャブラリーチェックやシャドウ2sイングにより、学生は TOEIC 受験に必要な英語力を確認することができたように思う。パートごとの問題の傾向を理解し、解き方のコツをつかめた学生が多いようであった。授業展開においては、解説と問題演習をバランスよく展開することにより、学生の集中力を持続させることができた。授業時、ボキャブラリーチェックを授業に位置づけたことにより、学生の語彙力強化に対

する意識が高まったように見受けられた。

English for Exams (寺澤君江、2月8日～11日 13:00～14:20 14:30～15:50)

授業目的: TOEIC/TOEFL/IELTS 受験対策

授業内容: それぞれの試験に対応するため、4つのパート(リスニングセクション、リーディングセクション、スピーキングセクション、ライティングセクション)をバランスよく学習する授業を設定した。それぞれのパートの問題分析および解き方のコツにふれながら、演習を位置づけた。リスニングパートでは、学生の苦手とするサイエンス分野を題材とする内容を重点的に扱い、リーディングパートでは、クリティカルおよびインタラクティブに読み進める方法が身につくように問題演習を位置づけた。スピーキングパートおよびライティングパートに置いては、試験だけではなく、実践的な場面で必要とされるレベルまで引き上げることを目標とした活動を設定した。

アンケート結果分析・来期の課題: スピーキングの練習が好評であった。オーセンティックな教材を用い、瞬発力をつけることを目標とした学習スタイルは学生にとっては新鮮に感じられたようであった。結果として、学習意欲をさらに高めることができた。

【フランス語】

フランスGO! (ダレン モルガン、初・中級レベル 1月21日3・4限、22日2・4限、
中・上級レベル 1月18日2・4限、19日2・4限、20日3限、21日3・4限)

授業目的: 初・中級レベル、中・上級レベル向けの授業。学科の試験対策、仏検対策。

授業内容: 初・中級レベルでは、学科の試験対策や仏検対策のプログラムを行った。主に二次試験の面接対策として、画像の描写や、試験官からの質問を想定し、その質問に対してすぐ回答する練習を行った。中・上級レベルも、同じく、学科の試験対策や仏検対策を行った。二次試験対策として、会話、議論、カードゲームを通して積極的に面接の練習を行った。その他、論文の話題選択の相談、試験準備、フランス語文の添削等、学生個人個人の希望する取り組みをサポートした。ある授業では、2年生と4年生がペアになって練習が出来たので、お互いにとっていい経験になったと思う。

授業の分析: 集中講義の時間割を決める際、あらかじめ学生からアンケートを取り、出席しやすいと思われる時間帯に時間割を決めたのにもかかわらず、参加人数が少なかったもので、とても残念であった。しかし、集中講義の日程が学科と仏検二次試験前だったので、参加した学生はモチベーションがあり、熱心に集中講義を受けていた。2年生は、会話力が足りないがモチベーションが高かった。仏検の面接練習のアドバイスや、練習をゲームを通して行ったことで、非常に楽しく学べたという感想があった。

【ドイツ語】

ドイツ語能力検定試験 ÖSD 対策講座 - ÖSD-Testvorbereitungskurs

(Morten Hunke, Monday 18th, 19th, 20th January 2nd, 3rd, and 4th period)

Objective: Preparing for Japanese style and European style tests are very different things indeed.

In these tailor made sessions students are being helped to prepare for the Austrian Language Diploma (ÖSD) tests in Nagoya in mid February. Speaking and listening are the key areas worked on in the sessions. However, feedback on writing and reading are also provided.

Course contents: Students signed up individually or in groups for the sessions that fit into their timetables. In the case of at least pairs aiming for the same level test a focus was put on oral tests. Students participating in the sessions were aiming for B1 and C1 level tests. Occasional overlaps of both did not interfere with the outset target activities.

General Overview and agenda: The atmosphere in the sessions was very good and largely very relaxed. Although, it became apparent that for all students the unusual test format has a lot of uncertainty in stock for them. Some students are very apprehensive and unsure about their own ability to perform well in these tests. A similar display of anxiety before Japanese style tests could not be noted. In a hands on fashion we worked to tackle exactly these apprehensions and anxieties and succeeded at least in raising most of the students' confidence levels considerably.

【中国語】

中検3級対策 (顧令儀、2月8日～2月10日2、3、4限)

授業目的: 3月の中検試験に備えて、3級を受ける1年生および基礎的な文法を復習したい2年生向けの授業で、過去問をやることを通して、基礎的な文法と語彙をチェックしながら、学生が中検3級試験で合格することを目標とする。

授業内容: 事前に e-Learning の「中国語検定過去問 Web」で過去問をやってくるように指示し、授業までに学生の問題点を整理し、授業中では説明と練習を中心的に行う。

4 iCoToBa のイベント

4.1. 2015 年度 iCoToBa 開催イベント

iCoToBa では、本学学生の異文化理解および異文化交流の促進を目的に様々なイベントを開催している。以下、2015 年度に実施したイベントについて報告する。なお括弧内は報告者を示す。

Sweets of the World (Sergio Neri)

This was an event as part of iCoToBa Welcome Week in which students and Professor Neri prepared a drink of hot chocolate. Students of all levels attended especially the ones from 1st year. During the degustation the students were oriented about the courses of Spanish offered in iCoToBa.



留学生歓迎会 (岡崎まどか)

4 月 22 日(水)に留学生歓迎会を開催した。台湾から 2 名、韓国から 2 名、中国から 2 名の計 6 名の留学生を迎え、33 名の日本人学生が参加した。

自己紹介から始め、伝言ゲームや、折り紙で鶴や兜を折るなどして交流を楽しんだ。その後、お菓子を食べながらのフリートークの時間を持ち、日本に来る前の印象と来た後の印象といった身近な話から、日韓・日中問題などお互いの歴史問題についても語るなど、内容も充実したものになった。歓迎会終了後も iCoToBa に留まり、多くの学生が交流を続けた。学生が中心となり計画・開催をすることができたイベントであった。



日韓交流会 (岡崎まどか)

5月27日昼休みに iCoToBa にて日韓交流会を行った。韓国の留学生と15名ほどの日本人学生が参加した。参加者はハングルでネームカードを書き、自分の名前のハングル表記がわからない学生には留学生が書き方を教えた。また、文化の違いがあらわれる恋愛事情や食べ物などのテーマについての話では参加者にとっての新たな発見もあり、話が弾んだ。



Goûter français (Morgan Dalin)

7月17日(金曜日)フランス語クラブの最後の授業を一年生向けのイベントに変更した。フランス人教員に作り方や食文化に関する説明を受けた後、17名の参加学生はクレープの生地を作って、自分でクレープを焼く体験をした。トッピングには、フランスの輸入ジャム4種類を用意し、学生が本場の食材を味わえるようにした。

1時間半の中で、フランスで人気の名物「クレープ」を食べながら、フランス語で話したり、フランスについて学んだりしながら、楽しい時間を過ごした。イベント終了後も、参加した学生が率先して後片付けに協力してくれ、来期も、このような雰囲気の良いイベントを行いたいと思う。

Survival Cooking (Fern Sakamoto)

This event, which was held in 5 August, was designed as the final project for students of the 2015 first semester J-Ambassador (1) class. Students from Survival English class were invited

to attend the event, and it was also opened to interested students in general.

The project was designed to: 1) give students an opportunity to use skills and language learned through their courses in a meaningful communicative situation, 2) develop J-Ambassador students' leadership, time-management, creativity and problem-solving skills 3) promote interaction between different departments and language levels and encourage students to use their English for real communication beyond the classroom setting.

J-Ambassador students created a menu of Japanese food they would like to introduce to those unfamiliar with Japan as representations of “real” “everyday” home cooking. They researched and prepared English recipes, decided event timing and details, purchased ingredients and prepared the cooking room. Student guests were put into groups with J-Ambassador students and worked together to prepare four menu items. All groups spoke in English throughout, and worked from English menus without recourse to dictionaries. J-Ambassador students were able to explain in simple English the ingredients or steps that were difficult to understand. Each group then sat together and ate the four dishes they had prepared. The event was a very positive end to the semester, with all preparation and cooking proceeding smoothly, and all students keen to interact and practice their English with each other.

留学生歓迎会 （岩井美樹）

10月21日(水曜日)に2015年10月から交換留学生として本学で学ぶ留学生の歓迎会を行った。iCoToBa Supporters Clubの学生が中心となり当日の進行計画を作成した。留学生24名、日本人学生40名の参加者は自己紹介やゲームを通して交流した。能楽部員、空手部員がそれぞれの演武を披露し、日本の文化に触れる機会にもなった。イベントの後半には屋外でじゃんけん大会やはないちもんめを実施。日本語と外国語を交えて活発に交流し、楽しい時間を過ごした。



Mexican Celebration of the day of the Dead （Sergio Neri）

We revived the Mexican tradition of venerate the family members or friends who have passed away in iCoToBa on 2 November. The participants were students from Japan, Peru and Mexico and Professor Neri.



餃子パーティ（顧令儀）

中国ではお正月や冬至など特別な日に餃子を食べる風習があり、伝統的な中国文化を楽しむために、真冬の12月2日に餃子パーティを開催した。中国学科の「桥梁会」のメンバーが中心となって企画、運営した。教員、学生と合わせて30人くらいが集まり、学生は中国の餃子やお正月について紹介した後、グループに分かれて水餃子を皮から作り、本格的な中国式餃子を味わうことができた。中国式餃子のほかに、韓国式のキムチ餃子や日本式の焼き餃子を食べ比べたことは、多くの日本の学生にとっては初体験であり、異文化に触れる良い機会となった。また、調理室では中国語が飛び交い、語学学習と文化体験がうまく融合したイベントとなった。



Weihnachtsfeier（ドイツクリスマスパーティ）（Morten Hunke）

Wednesday 16th December, 3rd, 4th, and 5th period

Around 40 students, including current foreign exchange students celebrated Christmas German style, with games, a gift exchange scheme, German Christmas carols, and most importantly real



German Christmas sweets and beverages. The students from the iCoToBa *Deutsche Kultur* class were (again!) instrumental in organising, planning and executing the event. Together we held planning sessions and decided on the content of the event. The students were super enthusiastic in planning it. The event also ran extremely smoothly. Organised by the students and myself, this was through and through a massive success. There were five German native speakers present – including three members of staff. The live demonstration of *Feuerzangenbowle* – a beverage traditional to Christmas and winter time Germany – was especially successful.



Brett's Christmas Party (Brett Hack)

12月17日(木)の昼休みから3限にかけて、ハック教員によるアメリカ風クリスマスの紹介プログラムが iLounge で行われた。学生たちは教員手作りのクッキーに思い思いに絵付けをしながら、典型的なアメリカのクリスマスソングを聴いた。去年に引き続き良いイベントになった。



Celebration of the Three Wise King's Day (Sergio Neri)

On January 6th, a celebration performed in Spain, Mexico and Other countries was held at iCoToBa. Mexican students cooked four big traditional pieces of bread with plastic dolls inside. Students from Japan, Peru and Mexico and Professor Neri participated.



留学生送別会 (岩井美樹)

1月13日(水曜日)に、2016年春に帰国する留学生11名の送別会を実施した。iCoToBa Supporters Clubのメンバーが企画、進行を務め、32名の参加者はジェスチャーゲームやクイズ、歓談を楽しんだ。帰国する学生には、ISCから県大で撮影した学生本人の写真を配した栞が贈られた。



おせち体験と書初め大会 (岩井美樹)

1月20日(金曜日)に、留学生を対象としておせち体験と書初め大会を実施した。iCoToBa Supporters Clubが中心となり、企画運営を行なった。参加者は14名(日本人学生5名、留学生9名)であった。留学生に日本文化に触れられる機会を提供することを目的とし、まずISCからおせち料理について由来や意味を説明し、全員で試食した。その後 iCoToBa ラウンジの床にシートを敷き、留学生たちは初めての書道に挑戦した。半紙で自分の書きたい漢字を練習した後、白いうちわの表裏にユーモアを込めた一言をそれぞれが書き、盛り上がった。



Special Lecture: A Place within the Global: Media, Identity, and Japan

(Brett Hack)

This special lecture was initially conducted at another university by iCoToBa instructor Brett Hack. It was improved and adjusted in order to be given at Aichi Prefectural University this semester. This was a student-centered talk; however, it was also open to any interested parties, including university faculty and members of the public. The talk investigated the relationship between the global flow of culture and the entertainment media in which people partake. Inquiries into how this relationship can both aid and impede intercultural understanding were conducted. The event was held on Thursday January 21st, 2016 from 1 PM to 2:20 PM in room H004. It was attended by approximately 70 students, including members of British and American Studies Research and Discussion classes. Questions for the instructor included inquiries on the details of social privilege and request for ideas on how to avoid stereotyping in daily life. As many of the students in the audience had not ever taken an iCoToBa course, this event provided an introduction to the dynamic learning style that the center offers, and will hopefully will lead to a number of first-time enrollers next year.



[表 1 2015 年度 iCoToBa 開催イベント一覧]

実施日	時間	イベント名	参加者数
4 月 13 日 4 月 14 日	16:10～17:40	Sweets of the World	115
4 月 22 日	12:30～14:20	留学生歓迎会	41
5 月 27 日	12:10～12:40	日韓交流会	17
7 月 17 日	16:10～17:40	Goûter français	17
8 月 5 日	9:30～12:30	Survival Cooking	14
10 月 21 日	13:30～15:30	留学生歓迎会	76
11 月 2 日	12:00～12:50	Mexican Celebration of the day of the Dead	10
12 月 2 日	14:00～16:00	餃子パーティ	30
12 月 16 日	12:00～17:00	Weihnachtsfeier	23
12 月 17 日	12:00～14:20	Brett's Christmas Party	33
1 月 6 日	14:30～16:00	Celebration of the Three Wise King's Day	27
1 月 13 日	13:00～15:00	留学生送別会	32
1 月 20 日	13:00～16:00	おせち体験と書初め大会	14
1 月 21 日	13:00～14:20	Special Lecture: A Place within the Global: Media, Identity, and Japan	65

4.2. 留学報告会

大山守雄 (iCoToBa 留学アドバイザー)

3 年目となる「留学報告会」も留学者の増加に合わせて今年度からは、月曜日のランチタイムに Activity Space (iCoToBa 内の授業スペース) で行っているものに加え、国際交流室の留学相談会も発表の場とした。これまで通り交換留学や協定大学への留学体験を優先したが、個人で応募手続きをした学生たちの体験発表を重視し、何でも自分の力でできるように指導した。manaba 上の「留学について話そう」というコミュニティでは協定大学以外からの発信も充実した。特にグローバル人材プログラムがスタートした時に入学した学生が大量に留学に出発した現在は、積極的に情報収集をする気のある学生は、十分留学に備えることができるようになった。国際交流室主催の一般的な留学説明会ではできない、より詳細で具体的な発表をお願いしたことで、早くから留学に対する心構えもできつつある。12:10 にスタート、20 分のプレゼンに 10 分の質疑応答というパターンが定着し、弁当持ち込みで、気楽に話が聞けるよう配慮した。

[表 2 2015 年度留学報告会内容一覧]

＜前期＞	留学先(学校名)	国名	参加者数
4 月 20 日	サンテティエンヌ・ジャン・モネ大学短期講座	フランス	13
4 月 24 日	サンテティエンヌ・ジャン・モネ大学短期講座	フランス	5
4 月 27 日	ミュンスター大学短期講座	ドイツ	18
5 月 11 日	ラスアメリカス大学短期講座	メキシコ	1
5 月 18 日	スインバーン大学短期講座	オーストラリア	9
5 月 25 日	ディーキン大学短期講座	オーストラリア	6
6 月 1 日	南京師範大学	中国	10
6 月 8 日	アリゾナ州立大学短期講座	米国	11
6 月 15 日	ラサール大学	フィリピン	6
6 月 29 日	マラヤ大学	マレーシア	7
10 月 19 日	ニューカッスル大学	英国	6
10 月 26 日	サラマンカ大学	スペイン	8
11 月 2 日	シベリア連邦大学	ロシア	4
11 月 4 日	セントラル・ランカシャー大学 カトリカ・デル・ペルー大学 ア・コルーニャ大学	英国 ペルー スペイン	28
11 月 9 日	大連理工大学 台湾師範大学	中国 台湾	12
11 月 16 日	プレズビテリアン大学	米国	12
11 月 19 日	グルノーブル大学短期講座	フランス	5
11 月 23 日	トレド大学	米国	6
11 月 30 日	オークランド大学	ニュージーランド	6
12 月 7 日	ラスアメリカス大学	メキシコ	8
12 月 14 日	復旦大学	中国	1
12 月 21 日	語学研修(Cavilam, Vshy)	フランス	6
1 月 18 日	語学研修(ユーロセンター・パリ校)	フランス	7
1 月 25 日	セントラル・ランカシャー大学短期講座	英国	4

4.3. グローバル関連イベント

iCoToBa は、グローバル人材育成推進室と協働して、教育事業を行っている。2015 年度は、前期に「県大ドイツデー」を、後期に「フランコフォニー祭」と「VIVA ITALIA」を実施した。以下、

これらの実施報告を行う。

県大ドイツデー (Morten Hunke)

Date: Wednesday 3rd June, 3rd, 4th, 5th and 6th period

Participants: 62 students + 4 speakers (DAAD – German Academic Exchange Service, German Embassy, Japanese-German Society, all Tokyo), and 11 members of staff (GHRD, German Department, International Office), and three guests (including a reporter from Chunichi Shinbun).

Purpose: Introducing the various options for different study abroad activities offered at Kendai and to introduce scholarship opportunities courtesy of the DAAD.

Program: First up, Prof. Dr. Yoshiike and Prof. Dr. Takahashi welcomed all participants in the name of the Faculty of Foreign Studies and the GHRD project. Then, three short and very engaging presentations followed given by the three speakers. The first presentation, by a representative from the German Embassy in Tokyo, featured general pieces of interest about Germany as a country. This presentation was held in Japanese. The content of the second presentation focused on Germany as a study abroad destination and scholarship options offered by the DAAD. This presentation was given in German, supported by slides in Japanese and occasional interpreting. The third presentation introduced participants to modern day life in Germany, featuring (popular) culture, language, and many other aspects. This presentation was also delivered in Japanese. All presentations were very well received. Subsequently, in a brief forum all participants in the Q&A fair to follow introduced themselves to participating students. Students – in groups of 6-8 – were given the opportunity to hear and ask questions about the different study abroad options Kendai provides. At six information tables they could ask the presenters (Dr. habil. Ursula Toyka, Tabea Kauff, and Elisabeth Schulz), teachers (Shuji Sugihara, Morten Hunke), returnee students, alumni, and experienced “senpai” about the possibilities of studying in Germany. Practical, hands on questions about application procedures, cost of living, language preparation, suitability of tests, etc were encouraged. Finally, a brief party summed up the goings on of the day and a group photo shot was taken.

The event went very smoothly and the immensely high number of attending students and staff made it a great success. Since the visitor from the DAAD always brings a budget of around € 800 it was possible to cater for all participants with excellent German cake and cookies from a famous bakery in Tokyo. The introductory presentations were extremely lively and well delivered. The Q&Q fair, already piloted at two years ago at the first ドイツデー in November 2013 and repeated at last year's event in June 2014 was particularly effective this year. It was

extremely encouraging to see the knowledge transfer between students happening. At the stations for the university partnerships (Universität zu Köln, Universität Leipzig, and since spring 2015 additionally Universität Tübingen) returnee students together with current German exchange students did a wonderful job. Also, returnees from summer or spring courses at the Universität Münster did a tremendous job in advertising this attractive new opportunity for Kendai students. At the *Free Mover* station, several successful were able to share their experience in applying for individual study abroad opportunities. Incidentally, this autumn 15 students are leaving for *Free Mover* studies at no less than eight different German universities: Universität des Saarlandes, Saarbrücken, Leuphana Universität, Lüneburg, Universität Duisburg-Essen, Universität Hohenheim, Friedrich-Alexander-Universität Erlangen-Nürnberg, Universität Erfurt, Technische Universität Dresden, Universität Potsdam) A massive success for German at iCoToBa and the GHRD.



フランコフォニー祭 (Morgan Dalin、佐藤久美子)

Le 02 décembre 2015 s'est tenue la première édition de la journée de la francophonie à l'université préfectorale d'Aichi. Organisée par Madame Kumiko Sato du département d'études françaises et Monsieur Morgan Dalin du centre d'apprentissage multilingue iCoToBa, la journée s'est déroulée en présence de Monsieur Christophe Dreyer, directeur de l'Alliance française de Nagoya et de l'association France Aichi.

La journée de la Francophonie a débuté à 13 heures par une conférence donnée par Monsieur Dreyer sur le thème « la place du français à l'heure de la mondialisation ». La conférence brillamment interprétée en japonais par Madame Hiroyo Matsumura a permis à une 40aine d'étudiants et une 10aine d'enseignants de toutes sections de s'interroger sur la place du français dans le monde et de prendre conscience de l'importance de son apprentissage. La conférence s'est tenue dans une ambiance chaleureuse propice aux échanges et les participants ont semblé très satisfaits de cette intervention et des informations dispensées durant ces 2 heures.

S'en est suivie une série d'exposés réalisés par 5 étudiantes françaises venues présenter leurs villes et leurs universités respectives (Lille et Toulouse) aux étudiants de l'université

préfecturale d'Aichi. Durant 1 heure, les étudiants ont ainsi pu recueillir leur témoignage grâce à Monsieur Hara du département d'études françaises, en charge pour l'occasion de cette partie de la journée.

Enfin, à partir de 16 heures, les divers intervenants et une 40aine d'étudiants se sont retrouvés à iCoToBa où les attendait un buffet composé de hors d'oeuvres français et de boissons rafraîchissantes. L'ensemble des convives a ainsi conversé librement autour d'un verre et échangé en plusieurs langues. Les étudiants japonais ont ainsi pu parler avec le directeur de l'Alliance française et tisser des liens avec les étudiantes françaises dans une ambiance chaleureuse et festive.

Les étudiants semblent avoir grandement apprécié cet évènement, véritable occasion de se retrouver au contact de français et d'échanger dans les deux langues en toute décontraction.

Ils ont ainsi exprimé leur souhait de voir un tel évènement réitéré « à plusieurs reprises », « régulièrement », « chaque année » selon l'enquête qui leur a été transmise à la fin de cette journée. Cette première édition des journées de la francophonie s'est donc avéré un franc succès et il ne fait aucun doute que d'autres éditions suivront à l'avenir.

2015年12月2日、アリアンス・フランセーズ・愛知フランス協会の館長、クリストフ・ドレイエール氏を本学にお招きし、多言語センター(iCoToBa)の教員、モルガン・ダレンとフランス語圏専攻の教員、佐藤久美子の企画による「フランコフォニー祭」の第一回目が開催された。

まず 13 時から、アリアンスの館長の講演が行われ、「グローバル化された現代世界でのフランス語」というテーマを中心に、今日フランス語を学ぶ意義が多面的に論じられた。40 名ほどの学生と 10 名ほどの教員が出席したが、館長の意義深くかつユーモアに富んだ講演に、会場は熱気と笑いに満ち、特にフランス語を学ぶ学生たちの関心を大いに引き、予定時間を過ぎる 15 時過ぎまで活発な質疑応答がなされた。

15 時過ぎからは、本学の協定大学であるリール第三大学、トゥールーズ大学からのフランス人留学生 5 名と、当該大学で学び帰国した本学の学生 2 名による、大学紹介やフランスでの生活等についての発表が、フランス語圏専攻の原教員の指導のもと行われた。フランス人留学生たちは、日本語で発表し、出席した本学学生たちは、フランス留学への関心を新たにするとともに、日仏学生の交流が活発に行われる機会ともなった。

16 時から、すでに参加していた学生たちに新たな学生たちも加わり、40 名を大幅に超える参加者たちが、フランス風の前菜と清涼飲料水を囲み、歓談の時を過ごした。学生たちは、アリアンスの館長やフランス人留学生たちとの活発で自由な会話を楽しみ、日仏両言語によるこの懇親会は、極めて友好的な雰囲気の中、日仏の参加者の間の交流を深め、予定終了時間を大幅に越えて続けられた。

開催後のアンケートによれば、参加学生たち全員が、当日の「フランコフォニー祭」に非常に満足し、このような行事が、「たびたび」、「毎年」、あるいは「定期的に」開催されることを要望

するとのことであった。本学学生たちのフランス語・フランス文化の学習意欲を高め、日仏の交流をより活発なものにしたこの行事は成功裡に終わったといえよう。また、学生たちの要望に従い、今後も引き続き同様の行事が開催されることが望ましいと言えるであろう。



VIVA ITALIA (岩井美樹)

1月27日(水)、本学グローバル人材育成推進室と愛知県立芸術大学(以下、芸大)との共同事業として、iCoToBaで「イタリアデー・VIVA ITALIA」を開催した。本イベントは芸大のイタリア週間の一環で実施されたものである。

第1部の芸大音楽学部教授、水野留規氏と、サレルノ大学講師のアンナリーザ・ポンティス氏によるイタリア語発音講座では、多くの参加者がイタリア語の発音に挑戦した。第2部では、芸大非常勤講師のロムアルド・バローネ氏のクラリネットの演奏にのせて、芸大の学生2名が「サンタルチア」を歌い、参加者はイタリア語と演奏に聞き入った。第3部ではアンナリーザ・ポンティス氏によるイタリアの若者の文化、習慣に関する講演があり、日本の若者との比較を交えて興味深い話を聞くことができた。イベントの参加者は35名で、約20名の芸大生が参加した。



5. 教育活動

iCoToBa では、プロジェクト型学習 (PBL 型学習) や交流型学習を積極的に取り入れている。第 5 章では、学習成果発表や外部機関との交流に基づく教育活動について紹介する。

J-Ambassador (Fern Sakamoto, summer course)

Objective: To reflect upon Japanese culture, identifying stereotypes, reality and possible foreign perspectives.

To draw on personal experience and formal research, and practice communicating information about Japan clearly, accurately and naturally.

To interact with Canadian university students to share ideas and learn about each others' cultures.

Course contents: Students considered modern-day Japanese society and practiced explaining and discussing Japanese truths and stereotypes. They examined possible external perspectives and opinions related to Japan, and put together short video presentations addressing the idea of "diversity" in Japanese society. Students exchanged videos and subsequent comments & questions with students from the University of Toronto.

General Overview and agenda: Eight students joined the class, and all responded positively to the topic discussions and video production. We set up a facebook group and used this as the platform for comment and video exchange. Our tight timeframe meant students had to work hard to complete their videos, but all did so and videos were successfully uploaded in time for the Canadian students to view them in class as planned. Students reported that the project was more difficult than they had expected, but was also rewarding and they are looking forward to seeing the videos that their Canadian counterparts come up with and to continued communications with them. To this end, two follow-up sessions are planned during the second semester. In these sessions students will respond to comments from Canadian students about videos, and watch and comment on videos created by the Canadian students (whose course commenced as ours ended). This course was a successful pilot and it is to be hoped that future exchange projects of this nature will be possible.

イマージョン合宿 (大山守雄)

今年も 12 月 12 日 (土) ~ 13 日 (日) に「愛知県青年の家」で、Immersion Program (外国語だけで生活することで、その言語能力を高めるプログラム) の合宿を開いた。5 言語 (英語、中国語、ドイツ語、フランス語、スペイン語) 全てをオファーするつもりであったが、ドイツ留学経験者が学生共同プロジェクトに登録しなかったため、4 言語で準備を進めた。しかし、中国語とフラ

ンス語のプログラムには参加者が集まらず、最終的には英語とスペイン語だけとなったのは残念である。それでもフランス語のリーダーは当日のプログラムには参加し、外国語アワーとタレントショーでフランス語の楽しさを紹介してくれたため、大学でフランス語を専攻したいという高校生も出てきたのが、このプログラムの成果であった。

県大生はリーダーを含めて 22 名が参加したほか、高校生(スーパーイングリッシュスクールのハブ校で昨年の参加校を優先した)が英語枠で 10 名参加したが、そのうちの一人は希望により 2 日目はスペイン語プログラムに乗り換えた。教員はスペイン語のネリ先生と 2 人だけになったが、マルチ・リンガルはどんなものかを紹介することはできた。それぞれの言語で 2 日間を過ごしたほか、媒介言語を用いない直接法によるフランス語、スペイン語の入門講座と English Café を 2 コマ設けた。

初日は全参加者の 1 分間紹介のあと、言語ごとにわかれてアイスブレイキングの時間を設けた。そのあとスキット作りに取り組み、夜のタレントショーで発表する内容をチームごとに練習した。参加者が例年より少なかったため、タレントショー後の自由時間は各言語でゲームをしたり話し込んだりして、夜遅くまで交流した。

2 日目は英語で指示が入るラジオ体操からスタート。朝食・掃除を終えたあと、各言語で独自のプログラムを 1 時間単位で行った。クイズ大会や留学体験発表、ゲームとリーダーの創意工夫を競い合った。27 時間という短い時間だが、外国語でコミュニケーションをとり続けるのは案外大変だということは実感してもらえた。高校生参加者からは今回も高い評価をもらったが、願わくは県大生がもっと参加して、ロール・モデルになってくれると高大連携の効果が高まると思われる。

また前期は留学から帰国する学生が少ないので、学生共同プロジェクトとして行うのは難しい。逆に後期は帰国する学生が多いので、リーダー確保は明るい見通しである。



Open Class: What is Japan, Anyway – Final Conference (Brett Hack)

This event was simultaneously the final lesson for Brett Hack's advanced English course, "What is Japan, Anyway" and a showcase for the global impetus within iCoToBa courses. Students in the course had composed essays that engaged in theoretical analysis of issues concerning contemporary Japanese identity. (See Section 9.1 of this report.) In order to strengthen students' sense of accomplishment and to increase the rigor of the class, the final lesson was conducted as an academic conference. This took place on January 19th, 2016 from 10:30 am to 12:30 pm. Four volunteers read their essays aloud with accompanying slides. The other class members

read the presenters' essays beforehand and prepared challenging questions. These were asked at the end of each reading, and were followed by lively discussions. Other iCoToBa instructors also joined in the event as audience members. Professors from other departments were also invited. A convivial reception, with a selection of food and drinks provided by Brett Hack and Atsumi Miyatani, followed the event.



地域ものづくり学生共同プロジェクト（宮谷敦美）

「地域ものづくり学生共同プロジェクト」(2015 年前期「あいちものづくり学生共同プロジェクト」)は、外国語学部「グローバル人材プログラム」指定科目として、2015 年度から開講している。学生共同プロジェクトは留学後の履修を想定して開講した科目であり、留学後に学生が自身の語学力と異文化体験を活かしつつ、プロジェクト全体をマネジメントする能力を養成することを目的としている。授業担当は、坂本ファーン(iCoToBa 教員)と宮谷敦美(国際関係学科教員)である。前期は 20 名、後期は 24 名が受講した。

本授業では、学生が地域でものづくりに取り組む企業に直接インタビューに赴き、インタビューで得たニーズをヒントに、さらに業界研究を進め、多言語記事を作成する。インタビュー先企業とマッチングとプロジェクト開始のキックオフ講座は、前後期とも、NPO 法人 G-net の協力を得て実施した。後期からは、三井物産中部支社の協力もあわせて得ている。

プロジェクト実施にあたり、必要なスキルとして扱っているものは、(1)業界研究のしかた、(2)インタビュー計画の設計方法、(3)効果的に質問するスキル、(4)記事タイトルと構成の分析、(5)わかりやすいスライド作成とプレゼンテーションのしかたである。これらのスキルをプロジェクトと並行して学びながら、異なる言語を学ぶ学生 5~7 名がチームをつくり、記事作成とプレゼンテーションに取り組む。最後の成果発表会は、前期は 7 月 26 日に愛知県立大学サテライトキャンパスで、後期は 1 月 23 日に三井物産中部支社で開催された。成果発表会には、企業関係者および本学教職員が参加し、さまざまなアイデアと改善のためのディスカッションを行った。

また、この教育プロジェクトは「地域のグローバル化を支える人材育成」として注目され、新聞にも取り上げられた。このような地域の課題の解決そのものをプログラムに取り入れることで、プロジェクトの目的が明確になり、学生の学ぶ動機づけにもつながっているようである。

学生の授業コメントでは、「この授業の良いところは一回失敗させてくれるところだった。例えば、プレゼンでも自分たちがまず思うようにやって、先生や他のチームのみんなにアドバイスを

もらえるのですぐに吸収することができた。最初にこうやるんだと細かなことは言われなかった
ので、逆に成長できた」と自身の失敗を肯定的に捉えていた。プロジェクトを作り込みすぎず、
学生が試行錯誤する場をいかに作っていきけるか、今後も工夫を重ねていきたい。

また、このプロジェクトは、企業、NPOをはじめ、本学のiCoToBa教員や外国人教員など、
さまざまな方の協力を得て成立しています。この場を借りてお礼をもうしあげます。

取材協力企業は以下の通りです。

[2015 年度前期]

株式会社 Kitamura Japan (北名古屋市)

杉浦味醂株式会社 (碧南市)

船橋株式会社 (名古屋市)

丸八テント株式会社 (名古屋市)

[2015 年度後期]

神杉酒造株式会社 (安城市)

聖和セラミックス株式会社 (岐阜県多治見市)

千古乃岩酒造株式会社 (岐阜県土岐市)

矢橋ホールディングス株式会社 (岐阜県大垣市)



[学生が作成した多言語記事の一例]



[企業でのインタビュー風景]

[9月9日付中日新聞経済欄]

岡崎プロジェクト (宮谷敦美)

日本に訪れる外国人観光客の増加に伴い、国内でも外国語で対応できる人材育成が急務とな
っている。外国語での対応については、外国人の考え方を理解した上で、外国語で(または、やさ
しい日本語で)的確に、かつ失礼なく伝えることが必要である。このようなスキルの育成を目指し、9

月 28 日から 10 月 17 日にかけて、岡崎ニューグランドホテルと岡崎市観光課の協力を得て、「地域で学ぶ・考える 外国人おもてなしコミュニケーション」をテーマに、宿泊施設における外国人観光客に対応したサービス提供を考える教育プロジェクトを実施した。

この教育プロジェクトでは、中国人を中心とした団体旅行客に対するサービス提供とホテルでのマナー周知に関する課題を抽出し、その解決方法を提案するというプロセスを通して、学生が国内の観光産業の現場における外国人対応の状況と課題に関する理解を深めると共に、中国語および「やさしい日本語」での対応方法について実践的に学ぶことを目的とした。

プロジェクトに参加した学生は中国学科、日本語教員課程、留学生の計 20 名である。本プロジェクトは、川尻文彦（中国学科教員）と宮谷敦美（国際関係学科教員）が担当した。

9 月 28 日のホテルでのフィールド調査では、学生は食堂、大浴場、客室の 3 チームに分かれ、ホテルスタッフと課題を明らかにするとともに、その解決方法について話し合った。その後、学生は課題を持ち帰り、対応するための成果物作成に取り組んだ。10 月 17 日の成果発表会では、学生が作成した成果物について発表し、参加者が改善点や活用方法について、ディスカッションした。成果発表会には、学生のほか、岡崎ニューグランドホテルスタッフ 3 名、岡崎市役所観光課職員 2 名、NPO 職員 1 名も参加し、活発な意見交換がなされた。成果物については、岡崎ニューグランドホテルで改善を加えた後、活用される予定である。



[9 月 29 日付中日新聞・経済欄]



[学生が作成した成果物例]



6 e-Learning プログラムの概要

3 年目の e-Learning と今後の展望

四ツ谷 亮子(ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻)

オンライン上で自主学習できるよう、iCoToBa の発足と同時に、以下の 6 つのプログラムが導入された。ロゼッタストーンの ID は外国語学部学生専用だが、その他のプログラムは、外国語学部学生以外の、第二外国語の授業で各言語を学習する他学部の学生も利用可能である。

英語: ロゼッタストーン、ALC NetAcademy 2

本学外国語学部には本年度導入されている英語の e-Learning の教材としては、外国語学部の学生を対象とするロゼッタストーンと ALC NetAcademy 2(以下、アルク)のふたつがある。前者は利用アカウント数に限りがあるために、英米学科では、希望者に先着順で与え、国際関係学科では、2 年生に割り当てている。一方、アルクでは、アカウント数は無制限なので、本学部学生のみならず、他学部の学生も学習することができる。学習内容の主な違いとして、ロゼッタストーンは発音をはじめとした、コミュニケーションを重視しているのに対し、アルクでは、TOEIC 対策を念頭においている。

ID の配布は、外国語学部では年度当初の学科・専攻ガイダンスにおいて行われたが、外国語学部以外では、5 月の中旬に、英語(全学共通科目)の授業を通じて行われた。またアルクの講習会は 4 月から 5 月にかけて五回、学生を対象に開催された。

ロゼッタストーンの利用率については、前述のとおり、英米学科では希望者のみの学習となっており、アメリカ英語レベル 1 では、かなりの数の履修者が見られる。しかし、すべてをやり終えるものは 20%未満である。しかしながら、少数であるが一部の学習者は、レベル 5 まで達成している。アルクの利用率を本年度前期のみと、前後期を含めた期間で比較すると、前期のみより、後期も含めた数値のほうが、全体的に若干上向いているが、特に外国語学部以外で利用率が 9.7%から 15.1%に上がっている。これは、後期から英語(全学共通科目)においてアルクが導入された授業が複数存在することによる。なお外国語学部の中では国際関係学科において、アルクの利用率が最も高く、またロゼッタストーンの利用時間が最も長いという事実は、「リーディング」(1 年生)ないしは「オーラルコミュニケーション」(2 年生)の試験の一部として利用していることを反映している。

今後の課題としては、利用率をあげるために、授業の一環として e-Learning を取り込むべきなのかが挙げられる。また、休学して留学している学生からの使用希望がいくつかあったが、留学中の方が逆に時間があったり、やる気がでたりするので、これらの学生へのアカウント配布もこれから検討する必要があるかもしれない。

フランス語:WORKOUT フランス語検定(スパーズ)

春季と秋季の年 2 回実施される「実用フランス語技能検定試験」(通称「仏検」)の対策のための e-Learning システムである。5 級、4 級、3 級、準 2 級、2 級、準 1 級の 6 つの級の練習問題が用意されている。回答率、正解率が表示され、不正解だった問題だけを後でやり直すこともできる。ID とパスワードで、自宅 PC、タブレット端末、スマートフォンからアクセス可。

【利用状況】利用率はあまり高くないが、本コンテンツは利用者の要望に合わせてカスタマイズすることが可能であるため、内容をさらに精査し、より良いものに仕上げ、今後の合格率上昇をはかる。平成 27 年度の秋季試験(受験料補助による団体受験)の一次試験の合格率は、準 1 級が 52.0%、2 級が 100%、準 2 級が 76.7%、3 級が 61.1%(参考:全国の合格率は、準 1 級が 25.4%、2 級が 35.7%、準 2 級が 62.5%、3 級が 59.8%)であった。

スペイン語:AVE Aula Virtual de Español スペイン語オンラインコース (Instituto Cervantes)

スペイン語を母語としない人のスペイン語運用能力を測るためスペイン文部省(スペイン国外ではセルバンテス文化センター)が実施しているスペイン語能力試験 DELE (CEFR のレベルに対応)に対応したオンラインコース。本学部では、スペイン語圏専攻 1、2 年生、スペイン語 II 履修者が A1-A2、専攻 3 年生が B1、4 年生が B1 (合格者は B2 にレベルアップが可能)を使用している。

文法、語彙から、読解、作文などの練習にも対応。視聴覚問題が豊富で、使用されている会話やナレーションの速度がネイティブに準じるため、難易度は高いがヒアリング力向上には効果的である。またスペインのスペイン語だけでなく、ラテンアメリカのスペイン語も使用されている。スペイン語圏の文化や社会、歴史についての知識も身につけられる。

【利用状況】平成 27 年 5-6 月にかけて、スペイン語圏専攻 1 年生、全学共通外国語科目「スペイン語 II」履修者に対し、計 5 回ガイダンスを実施した。1、2 年生の語学の授業によっては AVE を課題として指示しているクラスもある。とくに、長期休業期間に既習事項の復習や、聴き取り能力を伸ばすには本オンラインコースは効果的である。秋の DELE 対策としても使用されてきたが、4 年生の使用率が低いことが課題である。

ドイツ語:WORKOUT ドイツ語検定(スパーズ)

春季と秋季の年 2 回実施される「ドイツ語技能検定試験」(「独検」)対策のための e-Learning システムである。5 級、4 級、3 級、2 級、準 1 級の 5 つの級の練習問題(聴解問題を含む)が用意されている。正解率が表示され、不正解だった問題だけを後でやり直すこともできる。ID とパスワードで、自宅 PC、タブレット端末、スマートフォンからアクセス可。

【利用状況】2 年生以上の学生にプログラムの周知が進んでいる一方で、実際に上位級プログラムの学習を終えた学生からは、「問題数が少ない」との指摘もある。利用者の要望に合わせてカスタマイズすることが可能なコンテンツであるが、改訂には至っていない。また、独検の受検者数確保の観点から、就職活動の時期変更により 4 年生の受検者が減少していると

いう実情も考慮し、学習と受検のバランスをとる必要がある。

平成 27 年度春季の学内独検受検者の合格率は、2 級が 69%、4 級が 100% (全国平均は、それぞれ 46%、78%) であった。

中国語: 中国語検定過去問 WEB (高電社)

中国語検定過去問 WEB は、すべての級の過去問題を WEB 上で解くことができ、検定対策を行うことができる e-Learning 教材である。自宅 PC、タブレット端末、スマートフォンからもアクセスできる。誤答の分析などもでき、利用者が自分で弱点を知ることができる。

【利用状況】11 月の無料受験の結果を含めての合格状況は、専攻の学生については、2 年生の 3 級は約 96% の合格者 (前年度 77%)、4 年生以上の 2 級以上の合格者は約 56% (前年度 36%) の合格者という結果である。いずれも、前年度よりもアップしている。他学科の 3 級合格者については、まだ芳しくはないが、3 級の合格者がでてきたことは前年と比べ、進歩があり、喜ばしいことである。

今回は、試験結果についても分析してみたい。4 年次の 2 級の不合格者の結果をみると、リスニングよりも筆記試験に難があることが分かる。中級段階を抜けるためには、3 級レベルの中国語文法をしっかり押さえて、さらなる文法事項をおさえること、そして、語彙量、慣用句、イディオムを抑えていかなければならない。2 級合格者は留学経験者ならびに留学しなくても国内での学習を着実にしてきた学生である。不合格者については、2 年次終了後進歩がなかったか、リスニング、筆記ともに伸び悩んでの結果と思われる。

この 2 つの無料受験の結果以外で特記すべきは、より上のレベルである準 1 級の合格者が若干名でてきたことである。これらはモチベーションをもって、より高い志で学習を進めた成果であり、彼らの努力の結果そのものである。また、学生からも、過去問 Web に留学先や自宅で取り組んでいるとの話も聞く。今後も e-Learning 学習の利用を推進していけば、よりよい結果が見込めると考えられる。

なお、e-Learning と専攻授業との関連づけ (=e-Learning の段階的な学習を単位取得の要件とする) に関しては、上記の国際関係学科 (ロゼッタストーン/アルク・英語)、ならびにドイツ語圏専攻 (ロゼッタストーン・ドイツ語) の例が挙げられる。

たとえばドイツ語圏専攻では、前年度に続き、1 年生の専攻語学科目の後期の単位取得要件として、ロゼッタストーンの学習を義務づけている。1 年生の夏季にドイツ語圏留学を体験した学生にとっては、後期からのプログラム利用は帰国後のフォロー的側面をもつ。いずれにせよ、後期の授業を受ける 1 年生にあっては、留学経験の有無にかかわらず、ドイツ語学習をらせん状に補完する手段としてロゼッタストーンが活用されている。

一方で今後に向けての課題もある。学生が外国語を学ぶ動機は、各種検定試験対策、留学のための個人準備を始めとして多岐にわたるため、既存の専攻の文法・講読科目、会話やコミュニケーションを重視した授業との相互作用に対して、授業担当者・管理者には準専門的、分析的な視点が求められる。本学で導入されている e-Learning プログラムは有益なものであるが、利用者にとっては一定のニーズがある一方で、大学での専門的知見を深めるためには物足りないなどの、内容面での「限界」もある。それらの e-Learning の特質を客観的

に把握した上で、今後は正課科目へと移行するグローバル人材育成プログラムの内容と関連づけながら吟味していくことが不可欠となろう。

7 アドバイジング

7.1. 語学学習アドバイジング

寺澤 君江 (iCoToBa 語学学習アドバイザー)

外国語学習のサポートを目的とした多言語学習センター開設以来、iCoToBa に所属し、センターに常駐し、アドバイジング業務を担っている。主な業務は次の 2 つである。①TOEIC、TOEFL、IELTS などの検定試験対策などに関するアドバイジング。②海外留学準備としての外国語学習および留学後のフォローアップ。週 10 コマおよび夏、春の長期休暇中における 50 コマの語学検定対策を中心とした授業に加えて、カウンセリングによる学生対応を実施するため、アドバイジングタイムの設定、学生からの要望に沿う学習アドバイスの内容、他の外国人教員達との外国語学習に関する情報交換などを心がけている。週 6 回の学習アドバイジングアワーで行ったカウンセリングおよびセッションの内容を以下に報告する。

留学準備としての語学学習

英語圏留学に際して、学部留学希望者は英語力の証明として TOEFL または IELTS のスコア提示を留学希望校より求められる。そのため、語学留学ではなく、大学学部留学を実現させたいという強い希望をもった学生が受験準備に関してアドバイスを求めることが多い。

昨年度に比して、今年度は留学のための受験対策に関するアドバイジングに関しては、TOEFLの方がIELTSよりも需要が多かった。TOEFL 受験においては、来年度の英語圏留学を目指す 2 年生が、特に熱心に取り組んでいた。スピーキングやライティングを苦手とする学生からの要望により、個別対応のセッションを開くことが多かった。

語学学習に関するアドバイジングは原則として、学生の方からの申し出によって成り立っている。ほとんどの学生は、受験日までの限られた時間の中で、目標スコアを達成するための最短の方法と結果を出せるようなアドバイスを求める。学生の語学力における弱点、学習スタイル、性格等、様々な角度からその学生の傾向をとらえ、アプローチしていくことが、目標スコアを効率的に達成するために必要であると考え。アドバイジングにおいて、その学生をよく理解し、レポートをとることが非常に大切であると感じた。

TOEIC スコアアップに関する助言および取り組み

グローバル人材プログラム修了要件の一つに TOEIC などの検定試験のスコアがあり、学生の英語学習の動機づけのひとつとなっているため、スコアアップに関するアドバイスを求められることは多い。また、協定校への留学の条件として、TOEFL iBT に代わって TOEIC のスコアが有効であるため、昨年度以上に学生は TOEIC のスコアアップに対して熱が入っていた。

このような状況にあって、昨年どおりの検定対策講座とアドバイジングだけでは、学生の要望に応え切ることができないと感じ、今年度は、11 月から 12 月の 2 ヶ月間に直前対策講座

(TOEIC last minutes)を開講した。週 2 回、それぞれ 1 時間の演習中心の講座には、のべ 218 名の学生が参加した。直前講座は回を増すごとに受講者が増え、学生の意欲の高まりを実感した。

さらに、今年度の傾向としては学生の意識と設定目標の高さが挙げられる。学年が進むに従い、目標スコアも上がり、900 を目指す学生が増えている。スコア 900 を狙う学生へのアドバイスにおいて心がけたことは、次の 2 点であった。語彙力を強化すること、スコアに対応する問題集の利用である。スコア 900 を目指す学生は、就職先には海外志向の強い企業または外資系企業を希望しており、未来のグローバル人材としての可能性を感じる。語学学習アドバイスがグローバル人材育成推進につながるととらえ、そういった学生を目の前にするたび、アドバイザーとしての使命感を確認している。

アドバイスの方向および共有化

語学学習アドバイスの主な要望は、TOEFL/IELTS のスピーキングおよびライティングに関するものが多い。それぞれの問題の傾向および対策を説明した後、ほとんどの学生はマンツーマンの指導を希望する。昨年度までは、そういった学生対象に、個人講座の授業をしていたが、全ての学生のニーズに応えきれなかったため、公平性を守るため、今年度は開講を断念し、アドバイジングアワーとして対応することにした。しかしながら、学生からのリクエストが減るわけではないため、結果として、週 6 コマのアドバイジングアワーだけでは、学生のリクエストに対応できないことが多かった。解決策として、アドバイジングアワーが設定されていない時間帯であっても、可能な限り学生のリクエストに応えることとなった。また、TOEIC/TOEFL/IELTS に関して、メールを通して相談を受けることも増えた。メールの場合、学生とアドバイザーだけが情報や助言を交換するため効率が悪いように感じる。来年度は、メールではなく manaba を通じ、相談内容や助言を iCoToBa Wiki の活用または manaba 上での公開等により、学生間でもアドバイスし合う方向へとシフトさせることも考えたい。

まとめ

平成 27 年度は多言語学習センター iCoToBa 開設 3 年目であり、昨年度よりは計画的かつ柔軟に学生対応が展開できていた。その理由として、学生の傾向やニーズが前年より把握しやすかったということが考えられる。しかしながら、検定で高スコアを取るためには、実践的演習を継続させる必要がある。前期および後期の授業だけでなく、夏季・春季休業中も学習を持続できるような環境を整えたい。そのために、manaba や e-Learning の普及および徹底は、プロジェクト最終年度の来年に向けて緊急課題であると考ええる。

7.2. 留学アドバイジング

大山 守雄(iCoToBa 留学アドバイザー)

3 年目を迎えた留学アドバイジング業務は、担当者が非常勤となったため、原則として月曜日だけとしたが、学生の希望で水曜日の午後に対応することもあった。昨年のように 1 年生および 2 年生全員との面接が叶わず、訪問者の大半は 3 年の秋から留学を希望する 2 年生であった。彼らの希望とニーズを把握し、どのような留学がベストかをアドバイスしたあと、国際交流室につなぐという役割であった。国際交流室の相談業務との棲み分けは昨年通り(漠然と留学を考えている学生には iCoToBa、具体的に留学先が決まったら国際交流室)とし、重複業務をできるだけ削減した。

また学科内の相談体制が充実している学科には、直接担当者に相談するよう指導したので、昨年までのように複数回相談をしてくる学生は大幅に減った。相談者数はのべ 80 名弱であったが、その多くは昨年すでに面談した学生だった。1 年生からの相談は 5 名にとどまり、2 年生以上と比べると彼らの留学に関する希望内容の把握をどうするかが課題として残った。

8 学生活動

iCoToBa Supporters Club (ISC) (岩井美樹)

iCoToBa Supporters Club (ISC) は、2013 年秋に iCoToBa イベントの企画・運営を主体的に行う団体として発足し、今年度は以下 1～5 の活動を行った。これまではイベントごとに担当学生を決め、企画、運営を行ってきたが、今年度よりイベントの組織的・継続的運営を行うことを目的に ISC の主要メンバーを固定化した。学生 10 人が主体となり、イベント企画、ポスター作成、参加者の募集、準備、当日の運営、後片付け、精算処理を行った。メンバーの固定化によりイベントの企画・運営ノウハウが上級生から下級生へ受け継がれている。それぞれのプログラム内容については、第 4 章の iCoToBa イベント実施報告 (pp. 81-88) を参照されたい。

- 1) 留学生 Welcome Party 春
- 2) 日韓交流会
- 3) 留学生 Welcome Party 秋
- 4) 留学生送別会
- 5) おせち体験と書初め大会

ISC メンバーからのコメント

今年度からの ISC はメンバーを 1 年、2 年の各学科一人ずつ合計 10 人と固定し、イベントを企画運営してきました。メンバーを固定したことによって連絡も取りやすくイベントを成功させるためにみんなで協力し合うことが出来たと思います。1 つのイベントを作り上げるのは大変ですが、個性豊かでやる気があるメンバーと企画していくのはとても楽しく、また参加者が楽しんで留学生と交流しているのを見るととてもうれしいです。イベントを企画することで、ただ大学生活を送るだけでは得ることができないような経験ができるのでやりがいを感じています。私たち ISC には良いイベントにするための課題がまだまだたくさんありますが、今後のイベントで改善しもっと参加者に楽しんでもらえるイベントを企画運営していきたいと思います。(ドイツ学科 2 年 水野星来)

問題点と今後の課題

イベント企画段階では参加者の学科や人数の予測がつかず、参加学科が偏るなど思ったように人数が集まらず、十分なイベント運営費が集まらないことがある。広報、受付方法には今後も工夫を続けていく必要があった。

また参加申込み、広報、参加費を徴収した際の精算処理等には職員の補助が必要である。長期的に ISC を存続させ、学生主体の活動を広げるためには、メンバーの固定化を進め、メンバー間の役割分担を効果的に行うことが必要不可欠である。来年度は、ISC メンバーを再度募集し、年間計画、定期的なイベントの開催をするとともにこれまでの ISC の経験を新メンバーに継承していきたい。



[留学生歓迎会を開催する ISC メンバー(一部)]

自主学習活動 (岩井美樹)

ポルトガル語、韓国語の自主学習活動が iCoToBa iLounge にて行われている。現在、2 グループのみの活動に留まっているが、学生からの申請があれば、積極的に iCoToBa の利用を許可し、自主学習を行えるように支援していく。

ポルトガル語研究会(高等言語教育研究所 学生自主活動支援グループ)

活動日:火曜日 12:00～12:40

活動内容:

テキストを使用して自主学習を行い、日系ブラジル人学生から生のポルトガル語を教わっている。学生が集まりやすいという理由で活動は iCoToBa で行った。参加者は毎週 10 人ほどで、継続して参加するメンバーが多い。ポルトガル語の文献を読み内容について意見交換している。

留学生による日韓交流会

活動日:12 月 7 日、14 日、21 日

活動内容:

韓国人留学生が企画、進行を務めた本勉強会に対する日本人学生の関心は高く、各回の申込み人数は 20 名から 30 名であった。参加者を小人数のグループに分け、韓国語を使って会話を楽しんだ。留学生よりキムチが振舞われ現地の食文化に触れる場面や、誕生日の参加者のために韓国語でバースデーソングを歌う場面がみられた。

9 教材開発・教育実践

iCoToBa では、グローバル人材育成推進事業で目標としている能力養成を目指し、教育実践に基づく教材作成に取り組んでいる。以下、9.1.では 2015 年度に作成した教材に関する報告をし、つづく 9.2.では、カリキュラム開発報告および学会・研究会等で行った教育実践報告について述べる。

9.1. 教材開発

Imagining Japan (Brett Hack)

Imagining Japan will be a compilation of student essays from Brett Hack's advanced English course, "What is Japan, Anyway." The course was an immersion-style CLIL course that examined how traditional understandings of Japan and Japanese are in need of reevaluation as the country moves through the global and digital 21st Century. Students read authentic theoretical works from such disciplines as anthropology, sociology, political science, philosophy, and media studies. They discussed these ideas in connection with case studies taken from contemporary social phenomena. The primary goal was to develop an understanding of how social, political, and economic forces are influencing the conception of what it means to Japanese.

For the final assignment, students chose a theoretical concept to apply to a social phenomenon of their choice and composed academic essays on the topic. The final third of the course was dedicated to preparing these essays. Student essays underwent a painstaking writing and editing process that urged them to not only improve their writing skills but also to develop a more critical stance to the topic itself. The essays were also required to adhere to strict documentation and citation requirements. The final results will form the material of *Imagining Japan*, with an introduction by the instructor which will explain the philosophy, structure, and goals of the course.

Imagining Japan will be published in academic journal format with a color title page. It will contain nine essays averaging three pages each, as well as the introduction. Copies will be distributed to the participating students, as well as to other departments as a promotion tool for iCoToBa programs. It is hoped that this publication will encourage content teachers to forge links with language instruction and work towards a more integrated university curriculum.

iCoToBa マガジン第2号の作成・発行

(ダレン モルガン、iCoToBa 教員、iCoToBa 参加学生)

2014 年 3 月に出版した iCoToBa マガジンの第 2 号を作成、発行する。

第1号では、iCoToBa 教員によるバイリンガル記事、ゲームやクイズ等の内容で約 30 ページのマガジンを発行した。iCoToBa 教員主体で、フランス語、英語、スペイン語、ドイツ語、中国語の 5 ヶ国語によるバイリンガル雑誌となった。

今回は、主にフランス語と日本語のバイリンガル記事がメインとなるが、数名の iCoToBa 教員による自己紹介や出身地の紹介記事も掲載する。グローバル人材プログラムの履修科目である「フランス語圏なう。」「リサーチ発信プロジェクト」「ニッポンなう。」の授業内のグループワークによって作成した記事も掲載する。これは、学生が授業内で行った具体的なプロジェクトが、目に見えるカタチになることは、フランス語学習へのきっかけや自信、また、学生の iCoToBa への興味につながると思う。

The Hispanic World and Globality (Sergio Neri)

A booklet containing teaching materials related to the class “The Spanish Speaking World and Globality” is intended for publication.

The aim of the text is to help students understand the formation of the Hispanic world in 3 phases of Globalization: Phase 1, the fusion of different languages and cultures of the Iberian peninsula with foreign cultures such as Arabic. Phase 2, the expansion of the Spanish language and culture to America, Africa and Asia and the merger with local cultures. Phase 3, the formation of a pan-Hispanic culture, the challenges, scenarios present and future. It uses theories of Culture, Globalization and Post-Colonial Studies. It's written with easy to learn academic vocabulary used at universities in Hispanic countries.

Haikuschrift 2 (Morten Hunke)

The Haikuschrift 2 titled journal will be showcasing student work from two courses for first year students in semester 1 and 2. In these courses students were required to write haiku and tanka in German on a regular basis. The students themselves chose the haiku/tanka selected for the journal, from the entirety of their work volume over the year. In order to make the German language poetry pieces more accessible to the reader the students themselves translated them into Japanese. Each student chose between one and four haiku/tanka for publication. One student will be represented with her 1st prize winning entry to a German language haiku competition run by the DAAD (German Academic Exchange Service), the Goethe Institut, in collaboration with the Kyoto Women's University:

ドイツ語俳句コンテスト
部門1位の愛知県立大生

ながせ 楓さん(19)
かえで 長瀬

An den Strand gehen,
buntes Feuerwerk sehen
zur Mittsommernacht.
—岸へ行き 色とりどりの花火
を見る 真夏の夜に—(選者訳)
「サークル合宿で訪れた福井県
や名古屋で花火を楽しんだ。夏休
みの感動を込めた」と話す。
日本の俳句をモデルに、五―七
―五の十七音節に季語を盛り込ん
で日常の情景やひらめきを表現す
る。ドイツ語を学び始めた高校、



この人

大学生が親しみを持てるようにと
京都女子大が全国募集した今年の
コンテストでドイツ人選者の選考
部門で一位となった。
小学校を過ごしたオーストラリ
アで覚えた英語とは別の言葉をと
愛知県立大外国語学部へ。授業で
ドイツ語俳句に出会い「発音やリ
ズム感に魅力を感じた」と振り返
る。季語の表現に挑戦しようと応
募。受賞には「びっくり」と笑
う。簡潔な言葉を使うが「ドイツ
語は単語のつづりが長く、十七音
節に収めるのが難しい」と話す。
選者に「欧州北部、真夏の夜の
光景がまるで目に浮かぶよう」と
評された。そんな欧州のドイツで
「先進的な環境対策を学んでみた
い」と夢を膨らませる。岐阜県可
児市在住。(弓削雅人)

中日新聞 (12月1日付)

(<http://www.for.aichi-pu.ac.jp/global/news/2015/12/001703.html>)

The journal first and foremost is meant to showcase the students' dedication and effort in producing works of poetry in the course of their journey in making first steps in a new foreign language. The haiku/tanka will be represented amicably complemented with an unobtrusive layout. Students themselves will receive a number of copies of this piece of work, which they can then choose to show to friends and family. The Japanese language translations will make appreciating the works possible even to people without command of the German language.

The journal will contain a brief introduction hinting at the (multiple) didactic and methodological considerations the writing of haiku/tanka in the target language German has been selected for throughout the course. The introduction will be held in English.

Haikuschrift 2 is published as a hardcopy only.

9.2. 教育実践に関する報告

Teaching the Question of Culture (Brett Hack)

Following his presentation at the 2014 JALT (The Japan Association for Language Teaching) Conference held November 21st-24th 2014 at the Tsukuba International Congress Center in Tsukuba, Ibaragi Prefecture, Global Human Resources instructor Brett Hack was invited to speak on the topic of culture at the Nagoya and Gifu chapters of JALT. Responding to this invitation, a presentation was given on both the 15th and 16th of March 2015 at the meeting locations for the respective JALT chapters, to audiences of about 20 members each. It included both lecture sections on teaching concepts and lesson demonstrations.

The presentation took as its premise the fact that language education at Japanese universities has shifted towards cultivating a “global” mindset, including cultural instruction. It argued that the common practice of teaching set images of a “target culture” carries the risk of reinforcing a stereotyped worldview. The presentation then investigated how language classes can nurture a more reflexive understanding of culture – and language – as always in process, always in question, and always open to invention. The instructor’s activities in the Global Human Resources Development Program formed a central part of the presentation. Lessons demonstrations consisted of sections from the instructors courses in the iCoToBa Multilingual Learning Center’s activities.

The contents of the presentation stimulated interesting and often controversial discussions about the nature of culture in the language classroom. Interestingly, when the instructor asked if anyone had heard of the Global Human Resources Development program, in both locations all responses were negative. In this light, these talks performed an important role in publicizing the Program throughout the Tokai area.

Spoken Language Rhythmically syllabified: Haiku and Tanka in the Foreign Language Classroom (Morten Hunke)

As in the past two years and as reported by the author in *ことばの世界* 2014, German beginner classes are continuing to use haiku and tanka for the purpose of students gaining a practical understanding of German rhythm. In order to understand rhythm, especially Japanese, learners need to achieve a working knowledge of how a syllable functions in the target language. Equally as important is to develop an understanding of the dynamic nature of phrasal stress in German. These features are added onto by introducing practical elements of Spoken Language to students from a very early stage. All this is aiding students in getting used to and acquiring basic German structures more quickly and more thoroughly in terms of the delivery of speech acts.

This year, more emphasis was placed on actual delivery and speaking. Students in semester 1 were encouraged to choose a haiku/tanka and to prepare it for an oral performance. Basic phrasal stress and intonation patterns were elicited on for this task. Students later video recorded

each other delivering these performances. In semester 2 the students picked their favourite tanka and prepared it for an oral performance in a similar fashion to the prior semester. The difference in semester 2 was that students watched their own video recorded performance and provided and received feedback from their peers and the teacher. This was facilitated with the help of a specifically designed feedback sheet.

Please see also the entry for *Haikuschrift 2* to learn more about the usage of haiku/tanka in the German as a foreign language classroom.

Reaching for the Globe: New Study Abroad Pathways (Morten Hunke)

In the following, aspects of the *Project for the Promotion of Global Human Resource Development* (GHRD) at Aichi Prefectural University (APU) are being highlighted. APU enjoys school wide funding at the School of Foreign Studies – by far the largest school at the university – for a period of four years. The project stipulates a goal of 60% of school students engaging in study abroad activities of at least one month at university level as part of their undergraduate studies. Here in particular, we will take a look at the activities to promote and expand study abroad opportunities for German.

The Short Term Study Programme

Since the commencement of the project at APU in 2013 there have been a number of gains in study abroad opportunities for students studying the German language. Firstly, a new short term study programme for one month language study sojourns in spring or summer at the Westfälische-Wilhelms-Universität, Münster has been initiated. Since the first cohort in the summer of 2014, already more than 60 students have participated in the programme.

Additional Partnership Agreements

On top of the two existing partnership agreements at APU prior to the GHRD: University of Cologne and Universität Leipzig, so far one additional agreement has been signed with the Universität Tübingen. Another agreement with Leuphana Universität, Lüneburg is in the final stages and a third offer from Technische Universität Dortmund has recently been received and is currently being reviewed.

Free Mover Opportunities

Definition

The term *Free Mover* is of somewhat unclear linguistic origin, but it has come to be understood in the European higher education context as denoting to opportunities for students enrolled at academic institutions elsewhere, with whom no partnership agreement exists, to apply individually and on their own initiative for a one or two semester study sojourn at EU higher education institutions. Not all academic institutions in all countries allow for such applications. But in the case of Germany, most universities do accept *Free Mover* applications. Combined with the fact that by far the majority of academic institutions in the country does not charge fees, this makes for an interesting field of opportunities for expanding study abroad options and chances for international students.

Application Requirements

Some German universities do not permit applications from *Free Movers* (Berlin, Düsseldorf, Paderborn). Others set the German language level requirements very high at CEFR C1+ (Bonn, Freiburg, Heidelberg, Munich). There are, however, also institutions with no language level entry requirements (Hamburg) or those with fairly low – and for most Japanese students after two years of study achievable – barriers, like A2 (Lüneburg, Saarbrücken). Many universities are asking for proof of B1 language skills in German.

Like language level entry requirements, there are other documents that (often) need to be supplied. Some universities ask for a letter of motivation (Münster, Erfurt) and a CV in English or German (Münster). Others require a person in charge at the home institution to nominate candidates (Erlangen). Again others require applicants to find a mentor or institutional contact themselves at the target university (Duisburg-Essen, Frankfurt, Hamburg, Potsdam).

All universities require applicants to submit proof of enrolment in Japan, a grade statement, and a copy of their passport. The application procedures differ vastly from university to university.

The Figures

The first *Free Movers* supported by the GHRD left APU in September 2014: four students; two each bound for Lüneburg and the Universität des Saarlandes, Saarbrücken. In 2015 a cohort of 15 students left to study as *Free Movers* at eight different universities: Dresden, Duisburg-Essen, Erfurt, Erlangen, Hohenheim, Lüneburg, Potsdam, and Saarbrücken.

Advertising Study Abroad

Germany Study Day

The Germany Study Day is the biggest and most preparation intensive activity advertising study abroad in Germany at APU. It is immensely popular with students interested in studying



abroad. First conceived and run by the author in November 2013, it has been held once per year since. Its objective is to inform APU students interested in studying abroad in Germany as comprehensively as possible about their opportunities, in an interactive and engaging manner.

Implementing CEFR and Can-do Descriptors at Universities

(Morten Hunke)

On Saturday April 18th Shinshu JALT chapter held a workshop with the aim of providing more information about issues surrounding implementations of the CEFR in Japan. A second focus was on the interrelation of Can-dos and assessment. It has become a reality for many teachers at all levels of language teaching in Japan to be expected to teach within curricula denoting to the CEFR, CEFR-J, and/or can-dos. Often, it is difficult to determine if such stipulated goals, learning outcomes, and/or materials are truly CEFR/CEFR-J informed, or whether perhaps it is more a case of terminology simply functioning as a fig leaf, dropping current buzz words. For the teacher, however, this tends to mean having to develop an understanding of the CEFR and its many potential uses for their classes. As we only know too well, many CEFR-informed materials are just that only by name. Therefore, teachers are often faced with having to adapt to the new framework largely coming from an assessment angle. This is true for entrance exams, summative progress assessment, and final testing. The formative opportunities the CEFR and can-dos offer are more rarely mentioned or explored.

Thus, it was a welcome opportunity for the JALT FLP SIG's and Aichi Prefectural University Associate Professor, Morten Hunke and another expert on implementations at school level, Yumiko Miyamoto, to be able to present the current state of affairs in terms of practice and



research about CEFR and can-do usages in the Japanese context. In the first contribution of the afternoon, I made sure to mention the groups and networks that provide help and support for people faced with things CEFR (FLP SIG, JACET's Japan Portfolio for Student Teachers of Languages (JPOSTL), JACTFL. Both the FLP SIG's Kaken research projects were explained in some detail, with a focus on the recently published Japanese English textbook *Connectio-*

ns to Thinking in English. The FLP presentation was followed immediately by Miyamoto-sensei, who provided a discussion of can-do statements and assessment in a high school context. After providing an overview of the CEFR, Miyamoto explained how a can-do list was implemented at a high school in Nagano, where the more "EFL context" in Japan (as opposed to the more "ESL context" in the EU) had to be considered. She then reported the findings of research conducted there and discussed how a proficiency test for reading, listening and writing, and student self-assessment questionnaires were used to validate the school-based can-do list.

After both presentations the two presenters and the 20 odd people in the audience engaged in

a lively panel debate with questions and queries on both practical and issues of a more fundamental nature. The feedback collected by Greg Birch and the Shinshu JALT folks was overwhelmingly positive.

10 広報活動

10.1. web による広報活動

寺澤 君江(iCoToBa 語学学習アドバイザー)

HP 開設

iCoToBa(多言語学習センター)の利用促進、外国語学習に役立つ施設となるための補助的機能を果たすべく、施設のスタートと同時にホームページ(以下、HP)が開設され、現在に至っている。

HP は、多言語学習のサポート、留学のサポート、各種学内外のイベント情報を提供する場として機能している。なお、学内イベントの詳細や学生とのやりとりは、manaba で管理されている。よりタイムリーなところは manaba の守備範囲であり、HP とのすみわけがはかられている。

コンテンツ

iCoToBa HP のコンテンツは、iCoToBa の基本情報、最新情報に関するページとスタッフおよび学生参加型の情報発信に関するページから成る。それぞれのページの内容は以下の通りである。

[情報提供・共有型]

1) スタッフ紹介

本学 iCoToBa 教員紹介、学生たちへのメッセージ(目標言語、日本語にて表示)

2) プログラム紹介

iCoToBa で開催されている各言語の授業の紹介(目標言語、英語、日本語にて表示)

3) イベント紹介

iCoToBa で行われている年間イベントについて紹介

4) e-Learning へのリンク

本学学生が利用可能な各種 e-Learning 教材へのリンク

5) iCoToBa Wiki

本学教員による外国語学習や留学に関するアドバイスや経験に関するメッセージ

[情報発信・参加型]

1) iCoToBa スタッフブログ

iCoToBa 教員による授業やイベントなどについての日常的な事柄に関する情報。(英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語、日本語)で表記している。

2) Students' Voice

iCoToBa の授業、イベント、報告会等に参加した学生のそれぞれに対するコメントの紹介

問題点と今後の課題

今後、さらに HP のコンテンツの充実をはかること、そして、情報発信の頻度を上げ、学生への情報共有を促進し、より活発な情報交換をしていくことが課題である。

iCoToBa Wiki は外国語学部教員参加型の情報提供の場であり、学生の外国語の学習および留学に対する意欲喚起をねらっている。開設当初から記事は、少しずつ増えてはいるが、教員からの積極的な寄稿がまだ少なく、今後さらに拡充が必要である。

また、iCoToBa スタッフブログは、多文化理解および外国語習得に対する動機づけをはかることを目標としている。ブログ記事を通じ、学生が iCoToBa スタッフに親近感をもち、施設利用が活発化することを期待している。しかしながら、外国人ネイティブ教員による協力が期待できない状況にある。今後、対策を講じたいと考える。また、学生に iCoToBa への所属意識を持たせることを狙っている Students' Voice では、iCoToBa 運営に積極的に関わる学生達が中心となり、授業やイベントに対する意見や感想を発信している。

これらは更新型であるため、タイムリーに情報やコメントを加えることが大切であるにも関わらず、十分に対応できないことがある。ただ、そのタイムリーな部分は、今のところ manaba に託しており、その manaba については学生、教員がタイムリーに参加できる場で、ある程度は活発なやりとりがなされているので、その役割を果たしていると言えよう。

iCoToBa HP は、学生たちの多言語学習に対する意識の向上およびグローバル社会への人材育成推進のための一助として、今後さらに充実させていく必要がある。学生のニーズを満たすような内容をタイミングよく提供できるよう、提供する側の意識を高めることが急務であると思われる。

10.2. manaba コミュニティ: みんな集まれ iCoToBa 広場

岩井 美樹(グローバル人材育成推進室)

コミュニティの概要

2013 年度に manaba 上に iCoToBa の情報を発信するコミュニティを設立した。コミュニティでは iCoToBa の授業、イベント、施設案内を随時掲載し、情報提供をしている。iCoToBa の利用方法や外国語学習や留学についての案内、質問への受け答えも行う。iCoToBa に関する

すべての情報を得られる場にすることを目的とし、2015 年度も引き続き情報発信を行った。

スレッド内容

現在のメンバー数は 305 名で、内訳は、学生 289 名(1 年生 39 名、2 年生 201 名、3 年生 25 名、4 年生 24 名)、教職員 16 名である。(平成 28 年 1 月 31 日現在)

スレッド内容

コミュニティのスレッドの内容は、iCoToBa HP と同様の場合が多い。そこで、昨年同様、アカウントを保持している学生のみが閲覧できるという manaba の特性を生かし、同様の案内でもコミュニティのスレッドでは、より親しみやすい書き方をし、堅苦しい雰囲気が出ないようにした。コミュニティは、一方的な情報発信の場ではなく、学生と教職員のコミュニケーションの場として機能する場を目指す。更新頻度は、平均 5 回／月であった。

[スレッドの例]

- ・Messages from iCoToBa Teachers
- ・グローバルセミナーシリーズ 8「外務省や国際機関で働きたい人へ」
- ・Xmas Cookies 飾りつけ&試食体験
- ・留学体験報告会
- ・日韓交流会
- ・1 月 21 日(木) Brett 先生の講演「グローバルの中の居場所」
- ・留学生 Farewell Party
- ・【スプリングプログラム】英語、フランス語、ドイツ語、中国語 登録開始
- ・1/27 は iCoToBa でイタリアを体験しよう！
- ・おせち&書初めパーティー

成果と課題

メンバー数は去年の 269 名から 30 名程度増加した。内訳をみると 2 年生がほとんどで、1 年生の登録が少ない。効果的な情報発信の場とするためには、1 年生への登録を推奨することが必要である。

昨年に引き続き学生主体のイベントでも manaba の活用を推奨し、活動を記録した。ISC (iCoToBa Supporters Club) の学生がイベント案内やイベント報告を写真を交えて行うことができたため、イベントに参加しなかった学生も当日の様子を知ることができ、今後のイベント参加への意欲を高めていると思われる。今後は、今年度・来年度入学の学生を中心にメンバー数を拡大することと、学生や教職員からの情報発信をさらに頻繁に行うことを目標とする。

11 資料

11.1. iCoToBa 学部・学科別利用者一覧(平成 27 年 4 月～12 月)

2015 年 4 月から 12 月までの iCoToBa 利用者一覧を下に示す。

[外国語学部学生]

入学年度	外国語学部						
	英米	フランス	スペイン	ドイツ	中国	国際関係	計
2015	427	431	1,317	594	263	313	3,345
2014	209	512	344	317	281	395	2,058
2013	221	20	866	373	84	134	1,698
2012	38	63	79	35	31	133	379
2011 以前	21	10	22	172	37	22	284
計	916	1,036	2,628	1,491	696	997	7,764

(人数はのべ数)

[外国語学部以外の学生]

入学年度	日本文化学部		教育福祉学部		看護学部	情報学部	大学院	交換留学生 ※	計
	国語 国文	歴史 文化	教育 発達	社会 福祉					
2015	6	5	1	2	29	4	18	349	414
2014	1	3	0	3	0	15	19	223	264
2013	1	31	0	0	0	5	0	0	37
2012	0	0	0	0	0	2	0	0	2
2011 以前	0	0	0	0	0	1	1	0	2
計	8	39	1	5	29	27	38	572	719

※海外学術交流協定大学からの特別聴講学生を指す (人数はのべ数)

11.2. iCoToBa 開講授業

2015 年度に iCoToBa で開講した授業一覧を下に示す。なお、各表左端の列「指定」の「○」は、外国語学部「グローバル人材プログラム」指定科目であることを示している。

[2015 年度前期 iCoToBa 開講授業一覧]

指定	科目名称	各言語科目名称	レベル	受講者数
	サバイバル英語 1	Survival English	A2-B1 / 初中級-中級	50
○	ニュースで英語	News English	B1-C1 / 中級-上級	21
	ワードパワー！	Word Power	B1-B2 / 中級-中上級	2
○	英語で日本PRプロジェクト 1	J-Ambassador 1	B1-C1 / 中級-上級	14
○	英語で日本PRプロジェクト 2	J-Ambassador 2	B1-C1 / 中級-上級	4
○	世界を変えるには	Creating Change	B1-C1 / 中級-上級	5
	TED から学ぶ	TED Talks	B1-B2 / 中級-中上級	17
	英語で小論	Short Essay Writing	B2-C1 / 中上級-上級	9
○	共同プロジェクト	Collaborative Project	B2-C1 / 中上級-上級	19
	会話を上手に！	Get Good at Speaking	B1 or higher / 中級以上	24
	発音練習 1	Pronunciation Profiles 1	A2-B1 / 初中級-中級	26
	発音練習 2	Pronunciation Profiles 2	A2-B1 / 初中級-中級	9
○	比較文化セミナー: 英語圏を知りつくそう！ 1	Comparative Study of Cultures: The English-Speaking World 1	A2-B1 / 初中級-中級	17
○	比較文化セミナー: 英語圏を知りつくそう！ 2	Comparative Study of Cultures: The English-Speaking World 2	A2-B1 / 初中級-中級	23
○	プロジェクトワークを行って発表しよう！ ① - 1	Research and Presentation Project ①-1	A2-B2 / 初中級-中上級	9
○	プロジェクトワークを行って発表しよう！ ① - 2	Research and Presentation Project ①-2	A2-B2 / 初中級-中上級	10
○	プロジェクトワークを行って発表しよう！ ① - 3	Research and Presentation Project ①-3	A2-B2 / 初中級-中上級	17
	実際に使える英語表現・イディオム	Real-Life Expressions and Idioms	A2-B1 / 初中級-中級	24
○	日本コンテンツ文化英訳プロジェクト	Japan Contents Culture Translation Project	B2-C1 / 中上級-上級	12
○	メディアと文化	Advanced Course: Media and Culture	C1-C2 / 上級以上	8

	検定対策 TOEIC 1	TOEIC Intensive 1	A1-C1/初級-上級	31
	検定対策 TOEIC 2	TOEIC Intensive 2	A1-C1/初級-上級	13
	検定対策 TOEIC 3 (他学部生受講可)	TOEIC Intensive 3		15
	検定対策 TOEIC 4 (他学部生受講可)	TOEIC Intensive 4		11
	検定対策 TOEIC 早朝特訓 1 (他学部生受講可)	TOEIC Early Bird 1		11
	検定対策 TOEIC 早朝特訓 2	TOEIC Early Bird 2		10
	検定対策 TOEFL 1	Strategic TOEFL 1		7
	検定対策 TOEFL 2	Strategic TOEFL 2		2
	検定対策 IELTS 1	Successful IELTS 1		7
	検定対策 IELTS 2	Successful IELTS 2		2
	検定対策 リスニング 1	Listening for Exams 1		4
	検定対策 リスニング 2	Listening for Exams 2	A1-C1/初級-上級	10
	発音サロン	Le français tout de suite	A1/初級	44
	めざせ仏検準 2 級	Cours de préparation au DAPF - jun 2 kyu	A2-B1/ 初中級 - 中級	10
	めざせ仏検準 1 級	Cours de préparation au DAPF - jun 1 kyu	B2-C1/中上級-上級	2
	フランス語で話そう！II (3・4 年生)	Petite discussion en français II	B1 以上/中級以上	4
	フランス語クラブ 1 初・中級	Atelier de français I	A1-B1/初級-中級	12
	フランス語クラブ 2 中・上級	Atelier de français II	B1-B2/中級-中上級	3
○	ニッポンなう。	Le Japon aujourd'hui	A2-B1/初中級-中級	12
○	フランス語圏なう。	La Francophonie aujourd'hui	A2-B1/初中級-中級	12
○	リサーチ・発信プロジェクト①	Recherche et Présentation I	A2-B1/初中級-中級	12
	スペイン語圏世界とグローバ リティ	El Mundo Hispánico y la Globalidad	B1-B2/中級-中上級	6
	第 2 外国語としての スペイン語	Español como Segunda Lengua Extranjera A1 alto	A1+初級以上 他学科/専攻用コース	4
○	比較文化研究(スペイン語圏 の学生と合同授業)(比較文 化セミナー)	Estudios Culturales Comparativos con estudiantes hispanos	B1-B2/中級-中上級	12
○	リサーチ・発信プロジェクト①	Metodología y Léxico para Proyectos de Investigación	B1-B2/中級-中上級	12
○	日本文化をプレゼン	Presentación de la Cultura Japonesa	A2/初中級	10
	時事問題読解	Actualidad del Mundo Hispánico	A2-B2 /初中級-中上 級	7

	DELE B1 対策+α	Preparación para el Examen DELE B1	B1/中級	22
	DELE A2 対策+α	Preparación para el Examen DELE A2	A2/初中級	31
	初級スペイン語 1	Español Básico Nivel A1	スペイン語圏専攻 1年および他学科/専攻用	27
	初級スペイン語 2	Español Básico Nivel A1	スペイン語圏専攻 1年および他学科/専攻用	21
	ドイツ日常語と実践会話 I	Deutsche Alltagssprache und Sprachpraktisches I	A1/初級	24
	ドイツ日常語と実践会話 II	Deutsche Alltagssprache und Sprachpraktisches II	A1/初級	14
	ドイツ日常語と実践会話 III	Deutsche Alltagssprache und Sprachpraktisches III	A2/初中級	4
	ドイツ日常語と実践会話 IV	Deutsche Alltagssprache und Sprachpraktisches IV	A2/初中級	3
	ドイツ日常語と実践会話 V	Deutsche Alltagssprache und Sprachpraktisches V	A1/初級	41
	ドイツの文化:留学ケア	Deutsche Kultur – Auslandsstudiumsnachbetreuung	B1 以上 /中級以上	4
	発音、パフォーマンス	Aussprache und Performance	A2 以上/初中級以上	10
	検定試験対策	Testvorbereitung	A2 以上/初中級以上	9
○	日本紹介	Japanbotschafter	A2-B2/ 初中級-中上級	25
○	リサーチ・発信プロジェクト①	Forschungs- und Präsentationsprojekt 1	A2-B2/ 初中級-中上級	10
○	中国と日本の比較文化	中日文化比较	A2/初中級	6
○	リサーチ・発信プロジェクト①	实践调查与发表 1	B1/中級	5
	発音特訓講座 A	发音特训讲座 A	A1/初級	12
	発音特訓講座 B	发音特训讲座 B	A1/初級	14
	発音特訓講座 C	发音特训讲座 C	A1/初級	12
	発音特訓講座 D	发音特训讲座 D	A1/初級	13
○	中国語で日本を紹介する	用汉语介绍日本	A2/初中級	6

○	留学体験発表会 1(留学経験あり)発表者用	Presentation of Study Abroad Experience 1	A2-C1/初中級-上級	10
○	留学体験発表会 2(留学経験なし)参加者用	Presentation of Study Abroad Experience 2	A2-C1/初中級-上級	5

[2015 年度後期 iCoToBa 開講授業一覧]

指定	科目名称	各言語科目名称	レベル	受講者数
	サバイバル英語	Survival English	A2-B1 / 初中級-中級	12
○	ニュースで英語	News English	B1-C1 / 中級-上級	7
○	それは面白い？	What's so funny?	B1-C1 / 中級-上級	9
○	英語で日本PRプロジェクト	J-Ambassador	B1-C1 / 中級-上級	9
	トピックトーク	Topic Talk	A2-B2 / 初中級-中上級	16
○	グローバルリーダー	Global Leader	B2-C1 / 中上級-上級	5
	1 分間スピーチを練習しよう！	One-minute speech	A2-B2 / 初中級-中上級	1
	TED から学ぶ英語	TED Talks	B1-B2 / 初級-中上級	12
	英語でショート・エッセイ	Short Essay Writing	B2-C1 / 中級-上級	7
	会話を上手に！	Get Good at Speaking	B1 or higher / 初中級以上	23
	映画で英語学習	Study English with Movies	A2-B2 / 初中級-中級	31
○	比較文化セミナー: 英語圏を知りつくそう！1	Comparative Study of Cultures: The English-Speaking World 1	A2-B1 / 初中級-中級	11
○	比較文化セミナー: 英語圏を知りつくそう！2	Comparative Study of Cultures: The English-Speaking World 2	A2-B1 / 初中級-中級	9
○	プロジェクトワークを行って発表しよう！①-1	Research and Presentation Project ①-1	A2-B2 / 初中級-中級	4
○	プロジェクトワークを行って発表しよう！①-2	Research and Presentation Project ①-2	A2-B2 / 初中級-中級	16
	実際に使える英語表現・イディオム	Real-Life English Expressions and Idioms	A2-B1 / 初中級-中級	22
	クリティカル思考・作文ワークショップ	Critical Thinking and Writing Workshop	B2-C2 / 中級-上級	14
○	ちなみに、「日本」って何？	Advanced Course: What is "Japan," Anyway?	B2-C2 / 上級	9
○	ちなみに、「グローバル」って何？	Advanced Course: What is "Global," Anyway?	B2-C2 / 上級	2

	検定対策 TOEIC 1 (他学部生受講可)	TOEIC Intensive 1	A1-C1/初級-上級	20
	検定対策 TOEIC 2 (他学部生受講可)	TOEIC Intensive 2	A1-C1/初級-上級	13
	検定対策 TOEIC 3 (他学部生受講可)	TOEIC Intensive 3	A1-C1/初級-上級	8
	検定対策 TOEIC 4 (他学部生受講可)	TOEIC Intensive 4	A1-C1/初級-上級	13
	検定対策 TOEIC 早朝特訓 1 (他学部生受講可)	TOEIC Early Bird 1	A1-C1/初級-上級	24
	検定対策 TOEIC 早朝特訓 2 (他学部生受講可)	TOEIC Early Bird 2	A1-C1/初級-上級	29
	検定対策 TOEFL	Strategic TOEFL	A1-C1/初級-上級	10
	検定対策 Speaking for TOEFL	Speaking for TOEFL: Integrated	A1-C1/初級-上級	9
	検定対策 IELTS 1	Successful IELTS 1	A1-C1/初級-上級	5
	検定対策 リスニング 1	Listening for Exams 1 : TOEIC, TOEFL and IELTS	A1-C1/初級-上級	8
	検定対策 リスニング 2	Listening for Exams 2: TOEIC, TOEFL and IELTS	A1-C1/初級-上級	5
	発音サロン 1	Le français tout de suite 1	A1 /初級	3
	発音サロン 2	Le français tout de suite 2	A1 /初級	10
	めざせ仏検準 2 級	Cours de préparation au DAPF - jun 2 kyu	A2-B1 / 初中級 - 中級	4
	めざせ仏検準 1 級	Cours de préparation au DAPF - jun 1 kyu	B1-B2 /中級-中上級	8
	フランス語で話そう!	Petite discussion en français II	B1-B2 / 中級-中上級 フランス語圏専攻 3・4 年生	7
	フランス語クラブ 初・中級	Atelier de français I	A1-B1 /初級-中級	6
	フランス語クラブ 中・上級	Atelier de français II	B1-B2 /中級-中上級	6
○	ニッポンなう。	Le Japon aujourd'hui	A2-B1 / 初中級-中級	15
○	フランス語圏なう。	La Francophonie aujourd'hui	A2-B1/初中級-中級	12
○	リサーチ・発信プロジェクト①	Recherche et Présentation I	A2-B1/初中級-中級	12
	スペイン語圏世界とグローバルティ	El Mundo Hispánico y la Globalidad	B1-B2/中級-中上級	3
	第 2 外国語としてのスペイン語	Español como Segunda Lengua Extranjera A1 alto	A1+初級以上 他学科/専攻用コース	2
○	比較文化研究(スペイン語圏の学生と合同授業)(比較文化セミナー)	Estudios Culturales Comparativos con estudiantes hispanos	B1-B2/中級-中上級	12
○	リサーチ発信プロジェクト ①	Metodología y Léxico para Proyectos de Investigación	B1-B2/中級-中上級	8

○	日本文化をプレゼン	Presentación de la Cultura Japonesa	A2-B2 / 初中級-中上級	3
	時事問題読解	Actualidad del Mundo Hispánico	A2-B2 / 初中級-中上級	5
	DELE B1 対策+α	Preparación para el Examen DELE B1	B1 /中級	7
	DELE A2 対策+α	Preparación para el Examen DELE A2	A2 /初中級	15
	初級スペイン語Ⅱ-1	Español Básico Ⅱ-1	スペイン語圏専攻1年 および他学科/専攻用	14
	初級スペイン語Ⅱ-2	Español Básico Ⅱ-2	スペイン語圏専攻1年 および他学科/専攻用	16
	ドイツ日常語と実践会話Ⅰ	Deutsche Alltagssprache und Sprachpraktisches I	A1 /初級	11
	ドイツ日常語と実践会話Ⅱ	Deutsche Alltagssprache und Sprachpraktisches II	A1 /初級	6
	ドイツ日常語と実践会話Ⅲ	Deutsche Alltagssprache und Sprachpraktisches III	A2- /初中級-	1
	ドイツ日常語と実践会話Ⅳ	Deutsche Alltagssprache und Sprachpraktisches IV	A2- /初中級-	18
	ミュンスター・アフターケア	Deutsche Kultur – MÜNSTERnachbetreuung	A2- /初中級-	2
○	ドイツの文化:留学ケア	Deutsche Kultur – Auslandsstudiumsnachbetreuung	B1- /中級ー	6
	発音とパフォーマンス	Aussprache und Performance	A2 /初中級	5
	検定試験対策	Testvorbereitung	A2- /初中級-	4
○	日本紹介	Japanbotschafter	A2-B2 / 初中級-中上級	3
○	リサーチ・発信プロジェクト①	Forschungs- und Präsentationsprojekt①	A2-B2 / 初中級-中上級	5
○	中国と日本の比較文化	中日文化比较	A2 /初中級	5
	実践中国語 A(日常会話)	生活汉语 A(日常会話)	A2 /初中級	3
○	リサーチ・発信プロジェクト①	实践调查与发表	B1 /中級	1
	複文トレーニング	复句强化练习	B1 /中級	1
	発音と朗読	发音与朗读	A2 /初中級	1
	実践中国語 B(聴解と会話)	生活汉语 B(听力与会话)	B1 /中級	6

	発音と初級会話	发音与初级会话	A1 /初級	4
○	中国語で日本を紹介する	用汉语介绍日本	A2 /初中級	5
	中検 3 級対策	中检 3 级应试对策	A2 /初級	20
	成語、慣用句でリアルフレーズ	常用慣用語	B2 /中上級	3
○	留学体験発表会 1(留学経験あり)発表者用	Presentation of Study Abroad Experience 1	A2-C1 /初中級-上級	20
○	留学体験発表会 2(留学経験なし)参加者用	Presentation of Study Abroad Experience 2	A2-C1 /初中級-上級	3
○	学生共同プロジェクト (Immersion Program)	Group Work Project (Immersion Program)	A2-C1 /初中級-上級	14
○	地域ものづくり学生共同プロジェクト	Local Business Student Collaborative Project	B2-C1 /中級-上級	28

[2015 年度 iCoToBa サマープログラム開講授業一覧]

指定	科目名称	各言語科目名称	レベル	受講者数
○	英語で日本 PR プロジェクト: スピーキング・エクステンジ・プロジェクト	J-Ambassador	B1-C1/ 中級-上級	5
○	比較文化セミナー: 英語圏を知りつくそう!	Comparative Study of Cultures – The English-Speaking World –	A2-B2/ 初中級-中上級	5
	検定試験対策講座 TOEIC 1	TOEIC Intensive 1	A2-C1/ 初中級-上級	11
	検定試験対策講座 TOEIC 2	TOEIC Intensive 2	A2-C1/ 初中級-上級	
	TOEFL ITP 受験対策	TOEFL ITP	A2-C1/ 初中級-上級	5
	検定試験対策講座 TOEFL	TOEFL last minute	A2-C1/ 初中級-上級	2
	検定試験対策講座 IELTS	IELTS last minute	A2-C1/ 初中級-上級	1
	思い出しフランス語 I	Le français dans la tête I	A2-B1/ 初中級-中級	5
	サバイバルスペイン語	Español práctico	A2 /初中級	4
	夏休みスペイン語力向上講座 (1 年生対象)	¿Cómo te lo pasas en tus primeras vacaciones?	A1 /初級	11

	ミュンスター大学夏期講座受 講生対象コース	Münster, wir kommen! – Praktisches Vorbereitungs – blockseminar	A1-A2/ 初級-初中級	7
	声に出して読んでみたい 中国語 1	朗読 1	A2-B2/ 初中級-中上級	12
	声に出して読んでみたい 中国語 2	朗読 2	A2-B2/ 初中級-中上級	8

[2015 年度 iCoToBa スプリングプログラム科目開講授業一覧]

指 定	科目名称	各言語科目名称	レベル	受講 者数
	検定試験対策講座 TOEIC※	TOEIC Intensive	A2-C1/ 初中級-上級	4
	検定試験対策講座	English for Exams	A2-C1/ 初中級-上級	2
	フランス Go! 1	À vos marques, prêts... français ! 1	B2 以上/ 中上級以上	5
	フランス Go! 2	À vos marques, prêts... français ! 2	A1-B2/ 初級-中上級	5
	テスト準備	ÖSD-Testvorbereitung	A2-C1/ 初中級-上級	6
	中検 3 級試験対策 1	中検 3 級考试辅导 1	A2-B2/ 初中級-中上級	6
	中検 3 級試験対策 2	中検 3 級考试辅导 2	A2-B2/ 初中級-中上級	4
	中検 3 級試験対策 3	中検 3 級考试辅导 3	A2-B2/ 初中級-中上級	4

※「検定試験対策講座 TOEIC」は外国語学部以外の学生も対象としている。

11.3. iCoToBa 授業アンケート集計結果

2014 年度より FD 活動の一環として、前期・後期の iCoToBa 開講授業全てにおいて授業アンケートを行った。アンケート項目は、1)学生自身の学習について、2)授業および担当教員についての 2 部構成である。以下では、2)授業および担当教員についての集計結果を掲載する。回答はそれぞれの項目で 0~5 点で点数化している。

[質問項目]

- Q1. 授業概要や学期開始時の授業に関する説明は、わかりやすかったですか。
- Q2. 授業概要や学期開始時に説明された授業の目的は、授業で達成されていたと思いますか。
- Q3. 教員の話し方、説明の仕方はわかりやすかったですか。
- Q4. 教材(教科書、配布物など)は、有用でしたか。
- Q5. ホワイトボードへの板書、パワーポイントなどのスライドは見やすかったですか。
- Q6. 教員は学生の反応や理解度・到達度に留意しながら授業を進めていましたか。

Q7. 教員は、一方的な説明だけでなく、質問、発言、発表など学生の積極的な参加を促しましたか。

Q8. 教員の授業への意欲・熱意は感じられましたか。

Q9. この授業によって、もっと上達したい、もっと学びたいという気持ちになりましたか。

[2015 年度前期アンケート集計結果]

担当教員:Fern Sakamoto	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
Survival English	金 1	4.6	4.6	5.0	4.7	4.9	4.9	5.0	5.0	4.9
Survival English	火 1	4.9	4.6	4.9	4.8	4.7	4.9	4.9	4.9	4.9
News English	水 3	4.6	4.5	4.7	4.9	4.9	4.6	4.9	4.9	4.6
Word Power	火 2	5.0	4.5	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
J-ambassador1	水 2	4.8	4.4	5.0	4.8	4.8	5.0	5.0	5.0	4.9
J-ambassador2	月 1	4.8	4.0	4.5	5.0	5.0	4.5	5.0	5.0	5.0
Creating Change	月 3	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.5	4.5	4.5	4.5
TED Talks	木 4	4.8	4.9	4.9	4.9	4.8	5.0	5.0	5.0	5.0
Short Essay Writing	金 4	4.7	4.3	4.3	4.7	4.0	4.0	4.3	5.0	4.3
Collaborative Project	水 4	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6	5.0	5.0	4.6

担当教員:Brett Hack	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
Get Good at Speaking	水 3	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	5.0	5.0	5.0	5.0
Pronunciation Profiles 1	木 5	4.9	4.8	4.9	4.9	4.8	4.9	5.0	5.0	5.0
Pronunciation Profiles 2	金 3	5.0	5.0	5.0	5.0	4.9	5.0	5.0	5.0	4.9
Comparative Study of Cultures: The English-Speaking World 1	月 4	4.9	4.8	5.0	4.8	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
Comparative Study of Cultures: The English-Speaking World 2	金 4	4.8	4.8	5.0	4.7	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
Research Project and Presentation 1	月 5	5.0	4.8	4.9	4.9	4.9	4.9	5.0	5.0	4.9
Research Project and Presentation 2	火 4	4.9	4.5	4.8	4.8	4.9	4.9	4.8	4.9	4.7
Research Project and Presentation 3	木 4	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.8	4.9	4.9	4.9
Real-Life English Expressions	火 5	5.0	4.9	5.0	4.9	4.4	5.0	5.0	5.0	4.9
Japan Contents Culture Translation Project	金 2	4.9	4.9	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
Media and Culture	火 2	4.7	4.9	5.0	4.9	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0

担当教員:寺澤君江	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
TOEIC Intensive 1	月 2	4.9	4.6	5.0	4.8	4.8	4.8	3.9	5.0	4.9
TOEIC Intensive 2	月 6	4.8	4.6	4.8	4.8	4.8	4.6	4.6	4.8	4.8
TOEIC Intensive 3	火 2	5.0	5.0	5.0	5.0	4.0	5.0	3.0	5.0	5.0
TOEIC Intensive 4	火 6	5.0	5.0	4.8	5.0	5.0	4.8	5.0	5.0	4.8
OEIC Early Birds 1	火 1	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
OEIC Early Birds 2	木 1	4.8	4.4	5.0	5.0	5.0	4.8	4.4	5.0	5.0
Strategic TOEFL 1	水 2	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.7	5.0	5.0	4.7
Strategic TOEFL 2	金 3	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
Successful IELTS 1	月 5	4.8	4.8	5.0	5.0	4.8	5.0	5.0	5.0	5.0
Listening for Exams 1	火 3	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
Listening for Exams 2	水 4	5.0	4.5	5.0	5.0	4.5	5.0	5.0	5.0	5.0

担当教員:Morgan Dalin	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
発音サロン	火 3	4.5	4.4	5.0	4.7	4.8	5.0	5.0	5.0	4.8
発音サロン	月 4	4.3	4.5	4.7	4.4	4.7	4.8	4.9	5.0	4.8
めざせ仏検準 2 級	金 4	4.6	4.3	4.7	4.9	4.7	5.0	5.0	5.0	5.0
めざせ仏検準 1 級	月 2	5.0	4.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
フランス語ではなそう II	火 4	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
フランス語クラブ初級	金 5	4.8	4.9	4.9	4.8	4.9	5.0	5.0	5.0	5.0
フランス語クラブ中・上級	木 5	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
発音サロン	火 3	4.5	4.4	5.0	4.7	4.8	5.0	5.0	5.0	4.8
フランス語圏なう。	木 3	4.8	4.5	4.6	4.5	4.8	4.7	4.8	4.8	4.7
リサーチ・発信プロジェクト	火 1	5.0	4.9	5.0	4.0	4.9	4.9	5.0	5.0	4.8

担当教員:Sergio Neri	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
スペイン語圏世界とグローバリティ	金 4	4.5	3.7	4.8	4.8	5.0	5.0	5.0	5.0	4.5
第 2 外国語としてのスペイン語	木 5	4.0	3.5	4.5	5.0	5.0	4.5	5.0	5.0	5.0
比較文化研究	火 3	4.0	3.0	4.0	3.3	3.5	4.3	4.5	4.3	4.0
リサーチ発信プロジェクト①	水 3	4.3	4.2	4.5	3.8	4.5	4.5	4.7	4.8	3.8
日本文化をプレゼン	水 4	4.4	4.3	4.8	4.1	4.3	4.5	4.5	4.8	4.5
時事問題読解	月 2	4.7	4.7	5.0	5.0	4.7	5.0	5.0	5.0	4.7
DELE B1 対策	月 4	5.0	4.5	5.0	5.0	4.5	5.0	5.0	5.0	5.0
DELE A2 対策	木 4	4.3	3.8	4.6	4.3	4.2	4.6	4.7	4.7	3.9
初級スペイン語 1	火 4	3.7	3.5	4.2	3.8	4.2	4.5	4.8	4.7	4.5
初級スペイン語 2	金 2	4.5	4.4	4.6	4.3	4.8	4.7	4.7	4.9	4.6

担当教員:Morten Hunke	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
ドイツ日常語と実践会話 I	火 1	4.8	4.4	4.8	5.0	4.2	4.6	5.0	4.8	4.8
ドイツ日常語と実践会話 II	水 1	4.9	4.9	5.0	4.9	4.7	4.7	5.0	5.0	5.0
ドイツ日常語と実践会話 III	火 3	4.5	5.0	5.0	5.0	4.5	5.0	5.0	5.0	5.0
ドイツ日常語と実践会話 IV	火 4	4.7	4.3	5.0	4.7	4.3	5.0	5.0	5.0	5.0
ドイツ日常語と実践会話 V	木 3	4.1	3.9	4.2	4.3	4.1	4.4	4.5	4.9	4.7
ドイツの文化：留学ケア	火 2	4.0	3.8	4.5	4.8	4.0	4.3	4.5	4.8	4.8
発音、パフォーマンス	月 3	4.1	4.3	4.5	4.0	4.4	4.5	4.5	4.9	4.8
日本紹介	水 3	4.6	4.6	4.3	4.4	4.2	4.7	4.6	4.8	4.7
リサーチ発信プロジェクト	木 5	4.9	4.8	4.6	4.5	4.8	4.6	5.0	5.0	4.9

担当教員:陈晏 / 刘庆普	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
中国と日本の比較文化	木 3	5.0	4.3	5.0	5.0	3.3	5.0	5.0	5.0	5.0
リサーチ・発信プロジェクト	木 4	4.6	4.6	4.6	4.8	4.3	4.6	4.8	4.8	4.8
発音特訓講座 A	金 1	4.2	4.4	4.5	4.5	3.7	4.1	4.5	4.6	4.3
発音特訓講座 B	金 1	3.9	3.9	4.3	4.4	3.9	3.9	4.3	4.2	4.0
発音特訓講座 C	金 2	4.8	4.6	4.8	4.7	4.1	4.6	4.4	4.8	4.7
発音特訓講座 D	金 2	4.7	4.6	4.9	4.8	4.0	4.7	4.6	4.8	4.6
中国語で日本を紹介する	金 3	5.0	4.8	5.0	4.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0

[2015 年度後期アンケート集計結果]

担当教員:Fern Sakamoto/Morita Chua Liang/Tesfa-Endrias, Teobesta	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
Survival English	金 1	4.0	4.5	5.0	4.5	4.5	5.0	5.0	5.0	5.0
News English	水 3	4.5	4.0	4.5	4.5	4.5	4.5	5.0	5.0	5.0
What's so funny?	金 4	4.7	4.7	4.8	4.5	4.8	5.0	5.0	5.0	4.8
J-Ambassador	月 3	4.7	3.7	4.0	3.0	3.3	3.7	4.3	4.3	3.7
Topic Talk	金 3	4.1	4.1	4.4	4.3	4.4	4.4	4.5	4.4	4.4
Global Leader	火 4	4.6	4.8	4.6	4.2	4.2	4.4	4.4	5.0	4.8
One-minute speaking	火 2	3.0	3.5	4.0	3.5	3.0	4.5	4.0	5.0	5.0
TED Talks	月 4	4.1	4.1	4.0	3.9	3.6	4.3	5.0	4.7	4.6
Short Essay Writing	月 1	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0

担当教員:Brett Hack	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
Get Good at Speaking	水 3	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
Study English with Movies	木 5	4.8	4.6	5.0	4.9	4.8	4.8	5.0	5.0	4.8
Comparative Study of Cultures: The English-Speaking World 1	月 4	4.6	4.7	4.8	4.7	4.8	4.8	4.9	4.9	4.8
Comparative Study of Cultures: The English-Speaking World 2	金 4	5.0	4.9	5.0	4.9	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
Research Project and Presentation 1	月 2	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
Research Project and Presentation 2	木 4	4.8	4.7	4.9	4.6	5.0	4.9	4.9	5.0	4.9
Real-Life English Expressions and Idioms	火 5	4.7	4.4	4.8	4.8	4.3	4.7	4.8	4.8	4.6
Critical thinking and Writing Workshop	水 2	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
What is "Japan," anyway?	火 2	5.0	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	5.0	5.0	4.9
What is "Global," anyway?	金 3	4.5	5.0	4.5	4.5	4.5	4.5	5.0	4.5	5.0

担当教員:寺澤君江	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
TOEIC Intensive 1	月 2	4.7	4.8	4.8	4.9	4.7	4.6	4.2	4.8	4.5
TOEIC Intensive 2	月 6	4.8	4.8	4.8	4.8	4.7	4.7	4.1	4.9	4.9
TOEIC Intensive 3	火 2	4.9	4.7	4.9	4.7	4.7	4.6	3.9	4.8	4.8
TOEIC Intensive 4	火 6	4.8	4.6	5.0	4.7	4.6	4.4	3.5	4.9	4.8
TOEIC Early Birds 1	水 1	4.4	4.4	4.5	4.8	4.6	4.2	3.5	4.6	4.7
TOEIC Early Birds 2	金 1	4.5	4.2	4.6	4.1	4.1	3.8	3.2	4.8	4.8
Strategic TOEFL	水 2	4.7	4.6	4.7	4.6	4.6	4.9	4.9	4.9	4.9
Speaking for Exams	金 3	5.0	4.5	4.8	5.0	4.8	4.8	5.0	5.0	5.0
Successful IELTS	月 5	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
Listening for Exams1	火 3	4.9	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
Listening for Exams2	水 4	4.8	4.8	5.0	5.0	4.8	4.8	5.0	5.0	5.0

担当教員:Morgan Dalin	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
発音サロン	月 4	4.5	4.5	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
発音サロン	月 4	4.8	4.9	5.0	4.9	5.0	5.0	5.0	5.0	4.9

めざせ仏検準2級	金 4	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
めざせ仏検準1級	月 2	4.5	4.5	5.0	4.0	4.5	4.5	5.0	5.0	5.0
フランス語ではなそう！	火 4	5.0	4.7	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
フランス語クラブ初・中級	金 5	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
フランス語クラブ中・上級	木 5	5.0	5.0	5.0	4.5	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
ニッポンなう。	月 5	4.1	4.2	4.4	4.3	4.5	4.4	4.8	4.8	4.4
フランス語圏なう。	木 3	4.4	4.3	4.4	3.7	4.5	4.6	4.8	4.9	4.2
リサーチ・発信プロジェクト	火 1	3.8	4.1	4.3	4.0	4.4	4.3	4.4	4.6	4.1

担当教員:Sergio Neri	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
スペイン語圏世界とグローバリティ	金 4	4.5	4.5	4.5	4.0	4.0	5.0	5.0	5.0	4.5
第2外国語としてのスペイン語	木 5	4.5	5.0	5.0	5.0	4.5	5.0	5.0	5.0	5.0
比較文化研究2	水 4	4.8	4.5	4.9	3.9	4.6	4.5	4.9	5.0	4.9
リサーチ発信プロジェクト ①	水 3	3.8	3.9	4.4	3.9	4.5	4.3	4.6	4.5	4.4
日本文化をプレゼン	月 5	4.0	4.5	4.5	3.5	3.5	5.0	5.0	5.0	4.5
時事スペイン語	月 2	4.8	4.8	5.0	4.6	5.0	4.8	4.6	5.0	5.0
DELE B1 対策+α	月 3	3.7	4.0	4.7	4.0	4.3	4.7	4.7	5.0	4.3
DELE A2 対策+α	木 3	4.8	4.6	4.6	4.8	4.4	5.0	5.0	4.6	4.6
初級スペイン語1	火 4	3.7	3.9	4.4	4.5	4.5	4.6	4.8	4.9	4.5
初級スペイン語2	金 2	4.1	3.8	4.4	4.0	4.0	4.6	4.7	4.8	4.6

担当教員:Morten Hunke	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
ドイツ日常語と実践会話 I	火 1	4.7	4.5	4.5	4.5	4.2	4.5	5.0	5.0	4.7
ドイツ日常語と実践会話 II	水 1	4.3	4.3	4.3	4.3	4.0	4.7	4.7	4.7	4.7
ドイツ日常語と実践会話 III	火 4	3.0	4.0	5.0	5.0	3.0	5.0	4.0	5.0	5.0
ドイツ日常語と実践会話 IV	木 3	4.4	4.5	4.6	4.0	4.1	4.8	4.6	4.9	4.9
ミュンスター・アフターケア	火 3	4.5	4.0	4.5	4.5	4.5	5.0	5.0	5.0	4.5
ドイツの文化：留学ケア	火 2	3.7	3.7	4.7	4.3	3.7	4.3	4.7	5.0	4.7
発音、パフォーマンス	木 4	4.0	4.0	4.3	4.7	4.7	4.7	5.0	5.0	5.0
検定試験対策	水 3	4.4	4.6	4.4	4.6	4.4	4.6	4.6	5.0	5.0
日本紹介	月 3	4.5	4.5	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
リサーチ発信プロジェクト	金 5	4.7	4.3	4.7	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0

担当教員:顧令儀	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
日中文化比較	月 3	4.8	4.8	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
実践中国語 A（日常会話）	月 4	4.7	4.3	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.7
リサーチ・発信プロジェクト	月 5	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
複文トレーニング	火 3	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
発音と朗読	火 5	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
聴解と会話	水 3	5.0	4.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
発音と初級会話	木 2	4.3	4.7	5.0	5.0	4.7	4.7	5.0	5.0	4.7
中国語で日本を紹介する	木 3	4.5	4.8	5.0	3.8	4.0	4.8	4.5	5.0	5.0
中検3級対策	木 4	4.6	4.4	4.8	4.7	4.6	4.7	4.7	4.8	4.8
慣用句でリアルフレーズ	金 2	4.7	4.7	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0

担当教員:宮谷敦美 / Fern Sakamoto	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
地域ものづくり学生共同プロジェクト	水 4	4.6	4.4	4.8	4.6	4.7	4.9	5.0	5.0	4.7

11.4. iCoToBa 施設見学者

月日	所属・氏名	目的	担当
6月4日	名古屋市立大学 人文社会学部 教授 日木満氏 外国人教師 Louise Haynes 氏	施設見学	宮谷敦美 高橋慶治
7月10日	関西学院大学 グローバル人材育成推進事務室 課長補佐 菱岡洋志氏 酒井仁子氏 神戸大学 学務部学務課 専門職員 森慎二氏 濱口修氏 グローバル教育推進室 コーディネーター 清水秀夫氏 事務補佐員 福中香澄氏 福井大学 学務室国際課課長補佐 西弥生氏 学務部国際課・専門職員(国際教育) 郡妙子氏 鳥取大学 学生部教育支援課・課長 宮田育征氏 研究・国際協力部国際交流課・課長 安倍春雄氏 愛知大学 名古屋教務課・課長 高橋正樹氏 グローバル人材育成推進事業 担当係長 神野恵子氏 名古屋教務課・グローバル人材育成推進事業担当 七原一樹氏 京都産業大学 学長室 課長 物部剛氏 学長室 課長補佐 山内尚子氏 立命館大学 情報理工学部事務室 専任職員 高儀智和氏 同志社大学 国際連携推進機構 国際化推進室事務室 事務長 岡村洋子氏 係員 堀田直英氏 市野亜美氏	施設見学	夏目美和 岡崎まどか

9月8日	愛知県副知事 堀井奈津子氏 副知事秘書 学事振興課長 学事振興課職員	施設見学	宮谷敦美 夏目美和
10月6日	愛知県立芸術大学 音楽学部教養教育 教授 水野留規氏 准教授 井上彩氏	施設見学 e-Learning に関する情報共有	宮谷敦美 水野淑子
11月18日	京都府議会 文化・教育常任委員会 委員長 他 12 名、職員 2 名	施設見学	岩井美樹
1月22日	愛知県議会議員 塚本久氏	施設見学	宮谷敦美

11.5. 高等学校生徒の iCoToBa 施設見学

月日	学校名・学年	見学内容	訪問者数			
			生徒	教諭	PTA	合計
4月14日 (火曜日)	京都府立 鳥羽高等学校 2年生	施設および設備紹介、留学生(ドイツ・スペイン)との交流、ネイティブ 教員(フランス メキシコ オーストラ リア アメリカ 中国)との交流。 Activity Space にて Big Pad を使 い iCoToBa ホームページを紹介	83	4	0	87
5月22日 (金曜日)	静岡県立 袋井高等学校 2年生	施設および設備紹介、ランチタイム の学生の様子を見学後、Activity Space にて Big Pad を使い、 iCoToBa についてのプレゼンテー ション	83	4	0	87
6月3日 (水曜日)	愛知県立 鶴城丘高等学校 2・3年生	施設および設備紹介、ランチタイム の学生の様子を見学、Activity Space の授業(英語)の参観	118	5	0	123
6月9日 (火曜日)	岐阜県立 関高等学校 保護者	施設および設備紹介、iContact の 担当教員の紹介、iLounge および Self Study Space での学生の様子 を見学、留学生(メキシコ)との交流	0	2	86	88
6月22日 (月曜日)	愛知県立 阿久比高等学校 保護者	施設および設備紹介、iContact の 担当教員の紹介、iLounge および Self Study Space での学生の様子 を見学、留学生(スペイン)の学生 の紹介	0	3	50	53
7月6日 (月曜日)	愛知県立 成章高等学校 2年生	施設および設備紹介、iLounge お よび Self Study Space での学生 の様子を見学、iCotoba 教員および留 学生との交流	133	3	0	136

7月30日 (木曜日)	富山県立 南砺福野高等学校 2年生	施設および設備紹介、ASにてプレゼンテーション実施、iLounge および Self Study Space での学生の様子を見学、iCoToBa 教員との交流	38	3	0	41
9月4日 (金曜日)	三重県立 津西高等学校 1年生	施設および設備紹介、ASにてプレゼンテーション実施、iLounge および Self Study Space での学生の様子を見学	37	2	0	39
10月7日 (水曜日)	名古屋市立 緑高等学校 1年生	施設および設備紹介、ASにてプレゼンテーション実施、iLounge および Self Study Space での学生の様子を見学	42	3	0	45
10月8日 (木曜日)	名古屋市立 緑高等学校 1年生	施設および設備紹介、別室パワーポイントを用いて iCoToBa の施設およびプログラムに関して説明、iLounge および Self Study Space での学生の様子を見学	41	2	0	43
10月27日 (火曜日)	愛知県立 日進高等学校	施設および設備紹介、ASにてプレゼンテーション実施、iLounge および Self Study Space での学生の様子を見学	10	2	0	12
11月10日 (火曜日)	三重県立 尾鷲高等学校 2年生	施設および設備紹介、別室にてプレゼンテーション実施、iLounge および Self Study Space での学生の様子を見学	32	4	0	36
合計			617	37	136	790

11.6. 2015 年度 iCoToBa イベントポスター

Welcome Party

日時: 4月22日 12:30~
場所: iCoToBa
会費: 150円 申し込みは iCoToBa 受付まで!

定員 30人!!

新しく中国人2人、
台湾人2人、韓国人2人
の留学生が県大に
来ました!
ゲームをしたりお菓子を
食べたりのんびり友達
の輪を広げよう!!



日韓交流会

5/27 Wed
12:10 iCoToBa集合!

韓国に興味はありますか?
県大には韓国学科はありませんが
韓国からの留学生がいます!
留学生と一緒にご飯を食べながら
楽しくお話ししましょう ☺

お弁当・お菓子持参。先着15名。
受付は iCoToBaにて(応募締切20日)
お待ちしております ☺

県大ドイツデー 2015

ドイツでドイツ語を学ぶ 世界を知る



2013年11月の撮影

ドイツと日本
Zukunft gestalten
ともに未来へ

【場 所】 H棟202/E棟2階、iCoToBa (多言語学習センター)
【日 時】 2015年6月3日(水) 13:00開場
(コーヒータイムを随時設け、17時30分終了予定)
【司会・進行】 Morten Hunke (iCoToBa 教員)
四ツ谷亮子 (ヨーロッパ学科ドイツ語専攻教員)

DAAD (ドイツ学術交流会) の現地情報・奨学金情報、ドイツ留学をした県大生の
体験談など、今後ドイツ留学を考えている人には貴重な情報満載のドイツデー
を、昨年につづき開催します。コーヒータイムには、先生や先輩との交流も!
ドイツ留学のすべてが詳しくわかるドイツデーに、ぜひ参加しましょう!

プログラム

1. 交換留学とドイツの大学生活めぐって 13:00~

- 開会の挨拶 高池孝一 (外国語学部長・グローバル推進室長)
- ゲストスピーカーの紹介 四ツ谷亮子 (ヨーロッパ学科ドイツ語専攻教員)
- 発表者決定 (東京ドイツ通商共和国大使館・大阪・神戸ドイツ通商共和国総領事館)
- ウルズラ・トイカ (Dr. habilit Ursula Toyka) ドイツ学術交流会東京事務所
- タベア・カウフ (Tabea Kauf) 東京・日独協会

※留学や奨学金に関する質問に対するアドバイスもおこないます。

2. ドイツ留学・ドイツ学生生活フォーラム

- 交換留学、ドイツでの生活、留学全般についての質疑応答や意見交換をおこないます。

3. 県大生によるドイツ留学報告

- ドイツ留学経験者が、留学体験のあれこれを紹介してくれます。

公益財団法人日独協会
Japanisch-Deutsche Gesellschaft

DAAD
ドイツ学術交流会東京事務所

Farewell Party

ビンゴなど、楽しくパーティー!
みんなで留学生を送り出そう!

7/8(水)
13:00-15:00 @B棟
参加費 200円

申し込みは iCoToBa 受付まで!
申し込み期限 6/30 (火)

※20人先着順です、お早めに!





愛知県立大学
KAI THAKHAI UNIVERSITY
多言語学習センター

グローバル人材育成推進室
Office of Global Human Resource Development (International Center)

iCoToBa
多言語学習センター

af
Alliance for French

La Journée
de la
**FRANCO
PHONIE**
フランコフォニー祭
@県大・12月02日(水)

(プログラム)

13:00~14:45 アジアン・フリンセーズ 館長 Christophe Dreyer (クリストフ・ドレイエール氏)による講演
「フランコフォニーについて - グローバル化した世界におけるフランス語」
質疑応答 - 日本語通訳付 @H202

14:45~15:00 休憩

15:00~16:00 「留学生及び外国学生による協定大学の紹介」 @H202

16:00~17:00 懇談会(定員60名・先着順・要申込) @iCoToBa Lounge

【日時】2015年12月2日(水) 13:00 ~
【場所】H202
【参加費】無料
※懇談会に参加希望の学生は、iCoToBa受付で登録してください。
登録締切:11月27日(金)午後5時

この件に関するお問い合わせ先:佐藤久美子 (kum-sato@foraichi-pu.ac.jp)

餃子会

日本・中国・韓国の餃子を作って
みんなで食べ比べもします(๑ˊˋˊ)

日時: 12月2日(水)
時間: 14:00 ~ 16:00
場所: 調理室
費用: 300円
募集人数: 40人
締め切り: 11月25日(水) iCoToBaまで

たくさん
参加者
待ってます

ドイツのクリスマスをお祝いしよう！
Weihnachts party
 16. Dez. 2015

場所: iCoToBa
 日にち: 12/16 (水)
 時間: 13:00-18:00
 (途中参加・退出自由です)
 参加費: 300円
 申し込み: iCoToBaにて

programm

ゲーム
 クリスマスソング
 Feuerzangenbowle
 Kartoffelpuffer mit Apfelmus
 (リンゴ・スライス・ポテト・パン・ケーキ・ジャム)
 Wichteln
 (プレゼント交換)

うさぎとデレンに
 参加した人は
 500円以内のプレゼントを
 持ってきてください。

愛知県立大学・県立芸術大学 ジョイント企画
VIVA ITALIA@iCoToBa
 日時: 1月27日 (水) 11:00~12:50
 *途中入退室可
 場所: iCoToBa

プログラム
 イタリアの名所旧跡、食文化について語ろう
 イタリアの発音のコツを学ぼう
 イタリア語でカンツォーネを歌おう♪

申込み: iCoToBa受付まで

iCoToBa 試食体験
Christmas Cookies:
Tasting and Decoration
 Place: iCoToBa lounge
 Date: Thursday December 17th
 Time: Lunchtime / 3rd Period
 途中参加・退場可能
 Cost: 100円 (予約時)
 12月14日(月)までに
 iCoToBa受付で予約してください。

アイシングで
 好きなデザインを！

今年も開催します！

五年の作品の一部！



むすびにかえて

糸魚川 美樹（ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻）

iCoToBa（多言語学習センター）のよさは学習できる言語の多様性にある。巷で英語熱が高まるなか、英語以外の言語も同様に学習を推進している。iCoToBa 教員の担当言語は外国語学部の専攻言語に限られてはいるが、ポルトガル語サークルの活動があったり、今年度は日韓交流やイタリアデーなどの企画も登場した。

本学では、外国語学部の専攻言語以外にも実はさまざまな言語が正課科目で開講されている。全学共通科目としてのポルトガル語やロシア語、朝鮮語のほかに、外国語学部では、カタルーニャ語、デンマーク語、インドネシア語など、一般的に教授者を見つけることが難しい言語も学ぶことができる。さらに今年度からは、学部共通科目「諸地域言語」として「日本手話」が新しく開講した。東京大学のようにすでに「外国語科目」(2015 年度現在)のなかで（外国語ではないけれど）日本手話を開講している大学もあるので、先駆的な試みとはもう言えないかもしれないが、言語を専門に学ぶ学部としては大きな一歩だと思う。音声言語話者にとっては、視覚言語の言語実践を傍で観察するだけでも新しい発見があるはずである。今後日本手話学習者にも iCoToBa をその学習空間としてどんどん利用してもらいたい。

文部科学省グローバル人材育成事業としての iCoToBa の活動は来年度が最後である。2017 年度以降の iCoToBa 活動の枠組みが来年度決定される。予算的な問題もあるだろうが、言語的多様性の維持、またはより多様な言語活動が実践される空間の創造に努力したい。

iCoToBa 年報 第3号

2016（平成28）年3月発行

発行：愛知県立大学 iCoToBa（多言語学習センター）
〒480－1198 愛知県長久手市茨ヶ廻間 1522－3 外国語学部棟 2 階
Tel: 0561-76-8833 Fax: 0561-64-1107
e-mail : icotoba@for.aichi-pu.ac.jp
<http://www.for.aichi-pu.ac.jp/icotoba/>

印刷 株式会社 あるむ

iCoToBa Annual Report
Aichi Prefectural University